はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

沖縄国体関連警備
本番の完遂を期す

沖縄国体警備の真っ只中である。昨年の東京サミットと並ぶ大警備で、警察は一丸となって〝完遂〟を合言葉にしている。最前線で立ち向う機動隊員に惜しまない協力の拍手を贈りたい。

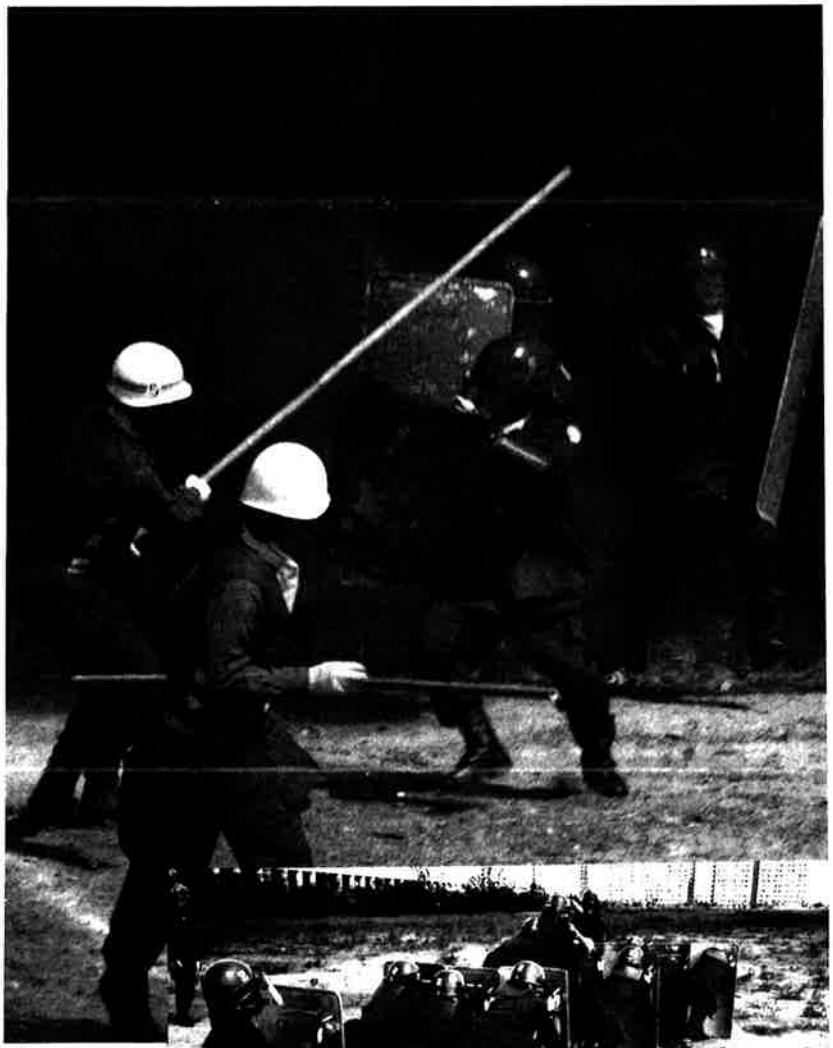
警備情勢が一段と厳しくなってきた。極左爆力集団によるテロ・ゲリラは飛翔物発射、爆発物使用などとエスカレートし、市民生活をも脅やかしている。

今また、「天皇訪沖阻止」「成田工事阻止」を二大目標として掲げ、「昨年のサミット決戦を上回る大戦闘として爆発する」など集団武装闘争の挙に出ているが、こうした無法な暴力に対する国民の怒りは高まるばかりだ。

警察庁、警視庁は総合力を発揮し、極左暴力集団の根絶と目先き沖縄国体警備に全力投球している。このなかでも機動隊員一人ひとりは「自分が警備の主役である」という強い自覚と信念の下で、これまでの「大警備完遂」という輝かしい伝統を引き継いでいくべく邁進している。

これまで培ってきた気力と体力で乗り切った大警備終了後の感激と満足感は、今回も味わえよう。

「百聞は一見に如かず――漢書」「Knowing is Seeing 知ることは見ることだ」というわけでもないが、ここはとくに警視庁機動隊の沖縄国体関連警備に向けた訓練風景をお届けした。機動隊頑張れ！



遊撃部隊活動要領（ガス要員前へ！）

平穏な市民生活を破壊する極左暴力集団

集団武闘対策要領

デモ行進規制要領（先頭誘導）

夜間訓練（鉄パイプを持ったゲリラの検挙要領訓練）

今月の言葉

隊訓即処生訓

昭和五十七年の「はげまし」新年号紙上に、全国の各地区管区、警視庁、各府県管内の機動隊の隊訓が紹介掲載されたのをご記憶の方も多いと思う。私は極めて感銘深く拝見した一人である。

機動隊のあるべき姿、隊員の自己管理目標として示された隊訓であるから、それぞれ表現の字句に若干の相違があるものの、「融和－団結」「誠実－至誠」「忍耐」「剛健」「機敏－迅速」等々。要は「明るく、強く、頼もしく」責任と自覚をもって治安の任務を遂行してゆく指標が簡潔に表明されている。

各機動隊員がそれぞれの隊訓を胸に秘めて、日夜その使命に精進されておられる姿こそ、まことに頼もしい限りである。

これらの隊訓は、その何れをみても、私達人生の処生訓にそのまま当てはまるものであって「人の一生は重荷を負うて坂を登るが如し」との徳川家康の遺訓の中にも、これらはすべて人生行路の指針として含まれている。

更には、これも数年前に島根県警機動隊の副隊長さんが「隊員心得十ケ条」を本紙に寄稿されたことがあって、私は心から共感をもって拝読したが、特にその中の二点を借用再掲して、各隊訓にプラスして私達の処生訓として拳々服膺（けんけんふくよう）したいと思う。

一、「ゆとり」「愛情」「思いやり」「いたわり」の心をもって敵と対峙せよ。

一、失敗を恐れるな、いくらでもおいかけてくる。勝算のためには常に「計画」「実施」「検討」を怠らず必ず履行せよ。

これらの処生訓を、一人ひとりが「不言実行」するならば、古今東西、老若男女を問わず、不信、闘争の発生は根絶されて、この地球上はいつも平和で、全人類は幸福であることを確信する――二十世紀がそのような新時代であることを切望して止まない。

（馬場鋼太郎）

R警備に万全の備え

若人よ 光れ

警視庁機動隊

極左過激派は「天皇訪沖阻止」と「成田」を本年の二大闘争としている。すでに八月には中核派が北の丸公園爆発弾発射事件を起しており、首都圏は厳戒体制に突入した。警備の最前線に立つのが機動隊である。プロ集団として、各人は日頃から自己の限界に挑戦する訓練を続けてきたが、今秋の大警備にかける決意のほどを改めて語ってもらった。

特務係員の心意気

一機　福田　憲一

「昭和五十年七月十七日、ひめゆりの塔火炎びん投てき事件」これは私が昨年暮、天皇陛下の沖縄行幸を耳にした時、脳裏をよぎった十二年前に発生した事件である。海洋博御視察のため、皇太子同妃両殿下が沖縄に行啓された時に起ったとの事件は、当時極左の一部に沖縄訪問反対の動きがあり、当庁機動隊を含め各県からの応援部隊等による厳戒態勢の中で発生したものであり、多くの教訓を残した。

当時の私は六機の特機隊員として、連日都内のデモ警備に従事していたが、この事件とともに、もう一つの事件が、七月十七日に発生した。

当日の私達は「皇太子沖縄訪問阻止闘争」デモ警備を終了し帰隊に向うバスの中、ヘルメットをとり、タオルで汗を拭きながら一息入れていた。すると、伝令が「新橋で内ゲバだ！」と大声で叫んだ。デモ帰りの中核派と革マル派が新橋駅ホームで衝突し、両派百数十名が線路上や駅前広場で乱闘となり、国電がストップしたとのことであった。

直ちに私達の部隊に「新橋駅に急行し検挙活動にあたれ」との命令が下り、新橋駅へ急転し、検挙・規制活動にあたった。

この内ゲバ事件では革マル派の男一名が死亡。中核派四十二名、革マル派百十八名の計百六十名を検挙したのである。一旦解除後に、検挙命令が下り部隊活動を行った経験は、私にとって、後にも先にもこの時だけである。

警備現場では、何時、何が起るかわからないということや、機動隊は常に機敏かつ的確に対処しなければならないという事を身をもって経験した。

私はこの二つの教訓を、来るべき「R警備」に生かしていきたい。極左各派は、天皇陛下をはじめ皇族の沖縄行幸啓等を、成田闘争と並べて今年最大の闘争課題として取り組んでいる。我々は、これら集団の不法行為を完遂しなければならない。

そこで「R警備」に臨む特務係員としての私の決意の一端を述べたい。

特務係の任務は、隊長をはじめ各級幹部が状況を正しく判断し適正な部隊指揮ができるよう、警備事象に関する事前情報を的確に把握分析し、あるいは警備実施時の視察の徹底、違法行為等の採証など、指揮官の手足となって活動することである。制服部隊では摑めない、踏み込めないところの情報を的確に把握し、部隊活動がスムーズに実施できるよう、いわば黒子に徹するところに存在価値があるということを自覚していきたい。

我々は、先輩が血と汗を流し築きあげた今日までの伝統を受け継ぎ、さらに前進しなければならない。私は、警視庁機動隊の特務係員として恥ないように、「団結と信頼」を基盤に、部隊が存分に実力を発揮できるように「自らの命を代償にしてでも完遂する」の覚悟で、「R警備」に臨みたい。

（特務係　巡査部長）

妥協なき訓練

二機　小林　利一

昨年の天皇陛下御在位六十年記念式典警備、第十二回主要国首脳会議警備に続き、今年も天皇陛下沖縄行幸警備という大警備が目前に迫ってきた。極左暴力集団による陛下訪沖阻止に向けた闘争も、大胆かつ悪質巧妙なゲリラ活動に出ることが十分予想される中で、どのような心構えでR警備に取組むか、私の決意を述べる。

一、庶務係員としての職務の自覚

庶務係の仕事内容は幅広く、多種多様である。大警備となると待機室の寝具の確保や疲労した隊員の栄養補給等、裏方の仕事が多くなる。警備現場で汗を流し頑張っている部隊のため常に気をくばり、第二機動隊の「縁の下の力持ち」となるよう心掛けていきたい。

二、気力・体力の錬磨

警備現場では暑い寒いなどと言っていては仕事にならない。そこで万全の態勢で警備にのぞむためには、柔剣道や駆け足等の訓練により気力・体力を増進させなければならない。よく訓練が厳しくなると「このくらいやればもういいだろう」とか、自分に甘くなりがちであるが、私はそのような時、新隊員訓練を思い起しては奮起している。完全装備に大楯携行での駆け足訓練、全身の毛穴が開き汗が吹き出してきて身体は熱くほてり、息は苦しい。あともう少し、あともう少しと自分に言い聞かせながら乗り越えた、あの正に「妥協なき訓練」を思い出せば多少の厳しさには打ちかつことができる。現在、私は剣道特練員として毎日訓練しており、これからも常に「妥協なき訓練」に心掛けて気力・体力の鍛錬に励みたい。

三、暴飲暴食の防止

機動隊員にとって食事（栄養補給）は欠かすことのできないものである。せっかくの栄養も暴飲暴食では逆に身体を弱らせてしまう。限度を越えずに十分な栄養をとり、疲労した身体をもとに戻してやることが大切である。

警視庁機動隊は、幾多の困難を克服し多くの大警備を完遂してきたが、私はこの伝統を受け継いでいくためにも、自分に与えられた任務を全うするとともに、「今、何をすべきか」を常に考え職務に従事していきたい。

（庶務係員）

何事も創意工夫

三機　大木　昇

昨年、サミット警備に従事していたある日のことである。

「カナダ大使館脇にロケット弾が飛んだ」との無線を傍受した私は、一瞬自分の耳を疑った。しかし、現実であった。一刻も早く現場へとはやる心を抑えながら、我々は、緊急転進で現場へ向かった。あれだけ厳重な警戒をしていたのにどうして……。

カナダ大使館前に転進したものの、「どこから飛ばされたのか」半信半疑の気持ちでいるところに、「ロケット弾の発射されたと思われるアパートへ向かえ」の命令により、再度転進を開始した。現場は、牛込署管内の「まさかこんな場所から」と思える様な、四階建ての鉄筋アパートであった。

迎賓館の方向に向いた二階の一室の窓が砕け散り、そこからは、我々の警戒網をあざ笑うかの様に、四本の発射筒が突き出ているではないか。私は、しばし茫然としたまま、言いようのない悔しさと憤りを覚えた。この事件もつい昨日のことのように思い出されるのである。

私はこの屈辱を二度と味わいたくはない。ましてや、今回のR警備では絶対にあってはならないことである。しかし、極左各派や反天皇グループは、早くも「天皇訪沖阻止」を呼号し、ゲリラ戦術や武装闘争方針を堂々と公言している。これらの厳しい情勢を踏まえ技術係員の任務を考えてみたい。

第一には、装備資器材の開発である。

開発といっても、机上で考えたものが即現場で使えるものではない。何回となく失敗し、試行錯誤をくり返し、初めて現場で使えるものが完成するのである。しかし、一つでも使えるものを作ることが私に課せられた使命と心得、知恵を出し工夫重ね、〝使える資器材〟を作っていきたい。

第二には、突発事案に対処できるような態勢作りである。

そのためには、厳しい訓練を積み重ねることのみである。ゲリラはいつどこで起るかまったく予想できない状態である。したがって、これに対処するための訓練を指導する立場にある自分自身が、まず誰にもひけをとらないだけの知識・技能を身に付ける。日頃から創意工夫をこらした訓練を実施し、いかなる事案にも対処できる部隊を作るための努力をすることである。

この私に課せられた使命を果すため、またR警備を無事完遂するため、技術係班長として私は全力を尽くし、自己の任務を全うする決意である。

（技術係員）

経験を生かす

四機　山崎　勇蔵

昨年は、天皇陛下御在位六十年記念式典・第十二回主要国首脳会議・英国チャールズ皇太子同妃両殿下来日警備といった一連の大警備、秋の成田警備、年末には突発の伊豆大島大噴火災害警備等が続き、機動隊にとっては、厳しい一年であった。

本年もまた、秋に一連の警備を控えている。第四十二回国民体育大会が沖縄県で開催され、天皇陛下が秋の大会に行幸される。とりわけ極左暴力集団は、「天皇陛下沖縄国体行幸阻止」を今年最大の目標に掲げており「成田二期工事阻止」と絡めて闘争のターゲットとしている。

昨年は、これらの極左暴力集団は皇居半蔵門、東宮御所などに向けてゲリラを敢行したが、今年は、それ以上の事案の発生が懸念される。我々機動隊は、これら極左暴力集団等の不法行為を未然に防圧すべく、既に秋の警備の厳戒体制のトーンを日増しに高めているところである。

このような長丁場の厳戒体制の万全を期するためには、昨年の経験から、強靱な気力と体力が必要である。今秋の警備には一人ひとりが強い関心と自覚をもって警備訓練・体力増強に努力しなければならない。

私の努力目標としては、

一、体力のレーニング＝腹筋、腕立て伏せを毎日三〇回以上、(2)ジョギング＝週に三日以上、二～五キロ走破、(3)歩く＝交通機関の利用は極力避け、少々の距離は必ず歩く。

二、健康の自主管理。(1)睡眠を十分とる＝夜ふかしをしない、六時間以上睡眠をとる、非番は一、二時間でも必ず寝る。(2)暴飲暴食をしない＝夏バテ防止のため炭酸類は飲まない、バランスを考えた食事をとる。

三、操車係として自覚を持つ。(1)都内の道路状況に精通する、(2)常に平常心で運転する、(3)無事故無違反。

機動隊員は身体が資本である。長丁場になる秋の警備を完遂するには、強靱な身体と、最後は気力で頑張るしかない。警視庁機動隊の隊員の一人としての誇りを持ち、使命感に徹し、任務に全力を尽くす覚悟でいる。

（操車係員）

警備は掛け算

五機　湊　一雄

空前の大警備になるであろう「R警備」。天皇陛下をはじめとする皇族方の沖縄御訪問を、何が何でも阻止しようと企てている極左暴力集団の動向を見ると、隊長の言われるように、本番は既に始まっている。常に治安警備活動の第一線で勤務するわれわれ機動隊員としては、こうしたことを充分わきまえ、それぞれの持ち場で最善を尽くし任務を怠ることのないようにしなければならない。

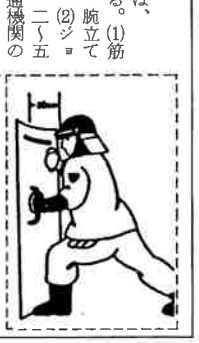
私は、昨年から補給係員として勤務している。第一線の華々しい場所で勤務したいと思っていた私にとって、最初のころは何となく戸惑い、残念でならなかった。しかし暫くするうち、裏方として、隊員の皆さんを盛りたてることも大切な仕事であることに気がついた。

補給係の任務は「栄養価が高く、しかも美味しい食事（弁当）を速やかに提供すること」にある。連日の厳しい勤務で疲れている隊員一人ひとりの唯一の楽しみが食事にあることを考えると、地味で目立たない仕事だが「間違いなく現場で役に立っているのだ」という手応えを感じることができる。そこで私は食事を取る時の同僚や先輩の笑顔を思い浮かべながら、ひとつひとつ丁寧に、そして心を込めて作ることに心掛けている。

副隊長はよく「警備は掛け算と同じである」と言われる。すなわち「ひとりでも警戒心ゼロの者がいるならば警備全体はゼロに等しく、その警備は失敗となる」ということだ。この言葉の中には、任務に対する取り組み姿勢等、深い意味が込められている。われわれ補給係員は、直接表舞台に立って脚光を浴びることはないが、警備目的を果たすための重要な駒のひとつであることに変りはなく、この言葉の意味を充分かみしめ、お互いが力を合わせ、縁の下の力持ちに徹しなければならないと考えている。

厳しい警備情勢の中で、補給係員として常に問題意識を持ち、今、何を、どうしなければならないかを真剣に考え、R警備完遂の一翼を担いたい。

（補給係員）



都民はRの支え棒

六機　有谷　忠

R警備のRの意味はさておいて、R「アール」という文字をよく観察し、私なりの意味づけをすると、PoliCEMan＝警察官のPの文字と、それを支える棒＝都民の理解と協力の二者からなっている。したがってこの支え棒がなければR警備の完遂はできないと痛感する。

昨年のサミット大警備を中心とした一連の警備と比較するに、今回のR警備は、支え棒である都民の理解と協力を得るための努力が、成否を左右する最大の

要因になると思う。

それは、(1)都内の行事ではない、(2)国をあげての行事ではない、(3)マスコミ等の事前広報と協力要請が期待できない、(4)都民に対する意識づけが期待できない、等々からである。

したがって、この支え棒を確実なものにするため、都民との接触の多い検問・常駐警備等あらゆる機会を通じて親切執行務を行い、理解と協力が得られるよう一人ひとりが自覚し努力する必要がある。また、服装・態度・言葉づかい等規律の保持に留意し、都民の信頼確保に努めなければならない。

私は警備係員として、次のような点に留意しその一翼を担っていきたいと考える。

一、前段警戒警備＝都民の理解と協力の得られる警備計画の策定に努めたい。そのためには事前実査を徹底し、(1)検問・㊀配備時等の付近にあたえる影響を最少限度にする、(2)配備場所の動態調査を行う、(3)付近の声に耳をかたむける、(4)関係署との連絡を密にする、(5)実施部隊の意見を反映させる。

二、本警備＝(1)柔軟性のある警備計画、(2)ツメにツメた警備計画、(3)机上の計画と現場実施の相違点の解消、(4)最悪事態に対処できる警備計画の策定。

以上の諸点を念頭に、昨年のサミット警備の経験を生かし、R警備の完遂に向けて全力投球で臨めば、必ずやR警備は完遂できるものと信じる。

昨年の五月八日十八時、カナダ大統領特別機の機影が消えたとき、「やった」という実感と目頭があつくなったことを昨日のように思い出す。あの感動をもう一度……。

（警備係　巡査部長）

無線は〝神〟

七機　今泉　敏郎

本年秋に沖縄で行われる第四十二回国民体育大会等に御臨席のため、天皇陛下、皇太子同妃両殿下、浩宮殿下の沖縄県行幸啓等の警衛警備が実施されることになった。

戦後、天皇陛下が行幸されていないのは沖縄県だけであり、これが実現すれば、全国御訪問が完了したことになるという。沖縄が返還されて早や十五年の歳月が流れた。今回の御訪問で「沖縄の戦後は終る」と書いてある新聞もあった。

そのためにも今回の警衛は、絶対に成功させなければならない。警衛は、天皇陛下をはじめ各皇族の御身辺の絶対安全にあり、それは、完璧な守りの中にあるということである。警備の中核である我々機動隊は、すでに「本番発入」の気迫をもって毎日の警備に従事している。

そのような中、完璧を守りを作り出すため、我々無線担当者は、常に次のような「考える警備」を実施して行かなければならないと思っている。「無線は部隊の中枢神経である」とよく言われている。では、大部隊を人間の手や足のごとく自由に動かすためには、どのようにすればよいであろうか。

その前提は、常に五感で得たことがらを大脳に集約させるということである。ここでの大脳は、時には中隊長であり、警備本部ということが言える。それは、触角で触れたもの、視覚で確認したものすべてが速やかに報告され、集約されて初めて物体（対象）であるかどうかの判断の基準となり、これが部隊運用の判断とひらめきを決する大切な要素となるのである。

次には、大脳からの指令をいかに速く、正確に末端まで伝達し、手足となる部隊を自由に動かすかである。そのためには、無線担当者が「指揮官なら今どのような命令を出すであろうか」を常に考えて行動できる、研ぎ澄まされた警備センスを持つことである。

また、無線には「いつでも、どこでも」通話が出来るという特徴がある。これに「だれでも」が加わって、初めて警備通信になるのだと考える。したがって特定者のみが扱えば良いと言うものではない。機動隊であれば、全員が警備通信に通じ、又は、通信器取扱いに精通することが必要である。

本年、当係が発行した通信の手引きの巻頭言に、隊長は聖書の一部を引用して、「無線は神である。ただ、神に力をあたえるのは、それぞれの無線担当である」という事を書かれた。

我々が、常日頃対決しているテロ・ゲリラや集団武闘も、時や場所、方法は常に相手が選ぶことになる。が、攻撃をして来る相手に対し、守りから一挙に攻めに転じ、被疑者を速やかに現場で検挙してこそ無線が神になるゆえんではないかと思う。

私はこの点を踏まえ、R警備に向けて、通信係員として、最善の努力をしていく覚悟である。

（通信係　分隊長）

機動隊二輪部隊員

八機　北村　博行

今年三月十一日に、試験的運用として機動隊二輪部隊「MAP」が新設された。極左暴力集団の飛翔物使用等によるゲリラ事案に迅速に対処し、広域的かつ効率・効果的な警戒活動を実施して、警戒警備の万全を期すことを目的として設置された。

私は隊員の一人として、職責の重大さを痛感するとともに、熱い視線に応えるため、私なりに次のようなことを実践している。

その一つは、仕事に取り組む姿勢である。新設の二輪部隊で勤務できるという誇りを胸に、自分に与えられた使命を自覚し何事にも積極的に取り組んでいる。日中はもちろん、夜間も日本の心臓部とも言える皇居、東宮御所、国会、官邸をはじめとする官庁街を遊動警戒し、不審者（車）の発見に努め、不法事案の未然防圧に二輪部隊の機動力を発揮している。しかし、夜間帯の走行は視界が狭く、精神的にも肉体的にも厳しいものがあり、慎重な運転に終始せざるを得ない。

その二は、隊員相互間の「和」づくりである。ちょっとしたことだが、走行中は青色ラインの貼られた白バイ、乗車用ヘルメットが互いにすれちがうときは会釈・敬礼する等「事故には気をつけて頑張ろう」と励まし合い、絆を強めていることである。突発事案が発生した際は、素早い立ち上りと迅速な行動力により、仲間と連携をとり、底知れぬ力を発揮し対処することができると信じているからだ。

その三は、事故防止である。白バイは、人と白バイが一体となることにより、完璧に走行することができる。自分だけが安全に走行すれば事故はないと思う気持を捨て、不意に飛び込んでくる事故もあることを頭に入れ、走行することが大切である。また夜間帯は特に目を凝らし、視野を広く、歩行者、車両等の動きを良く把握し走行するように努めている。

私は昨年の九月に、第七十一期白バイ乗務員専科講習を修了し、機動隊二輪部隊の一員に選ばれた。「格好いい、バイクが好き」と言う単純な憧れで講習を受けたが、しかし、そこには考えていたより以上に厳しいものがあった。「聞いて極楽、見て地獄」と言うことわざがある。話だけを聞いてみると、何もかも結構ずくめで極楽のようだ。が、さて実際にそれを見て確めてみると、地獄のような厳しい講習であった。

今年秋には、天皇陛下が沖縄を訪問されるため、一段と警戒態勢が強化され、緊迫感に包まれた厳しい警備になる。我々隊員は、天皇陛下訪沖警備では、今以上に気を引き締め、フル回転で警備の万全を期することが任務であると考えている。近い将来、警備部の顔となり、信頼できる機動隊二輪部隊と言われるよう、部隊の一員として努力していく決意である。

（操車係員）

主戦場は東京

九機　荒砂　利弘

私の機動隊生活も間もなく一年半、中隊の中堅と言われる立場になった。昨年は警備史に見る大警備の年といわれ、私も着隊早々、めまぐるしく変る情勢に目を白黒させながら警備に従事した。それから一年の月日が経過し、機動隊の隊風にも慣れ、自分なりに充実した毎日を送っているところである。

今年は、昨年のような大きな警備もなく比較的平穏に推移するかの感がしたが、しかし、すきゃく夏と共に大きな足音を立てて一歩一歩とR警備の本番がやって来た。極左暴力集団各セクトは、本年最大の闘争課題として、天皇陛下の沖縄国体行幸絶対阻止を呼号し、取組んでいる。いわゆる訪沖阻止闘争である。

天皇陛下の訪沖ということで、沖縄にばかり目が向けられがちであるが、本当の主戦場は東京にあるとも言われている。今回の警備では、都民の理解と協力を得るには、相当の努力を覚悟しなければならないと思われる。この我々に与えられた任務を完遂するためには、本番直前の今が重要な時期と心得、万全の準備をしている。

一、体力の増強

完全装備で警戒に従事するには、相当の体力が必要とされる。したがって夏の盛りから非番、週休などあらゆる機会を利用し、体力づくりに励んでいる。

二、訓練の充実と資材の活用

機動隊は部隊活動が生命であり、その活動には、隊長指揮から分隊長指揮まで種々な活動形態がある。今回の警備は天皇陛下の沖縄行幸という、今までに経験したことのない警備になる。そこであらゆる場面を想定し、装備資器材を活用した訓練を実施し、それぞれの場面で自分は何をなすべきか、資材をいかに活用すべきかを体に覚えさせたうえで、自信をもって警備に臨む必要がある。

三、情勢の把握

現在は各セクトともに平静を装っているが、水面下の動きは想像もつかない激しいものがあると思う。そこで我々は、情勢を正しく分析するとともに各種勤務に際しては、五感を研ぎ澄ましておくことが必要であろう。

このように自分なりに考えてみても、これは機動隊員としては最低限の自覚だ。天皇訪沖が近づくにつれて、過激派集団によるテロ・ゲリラ活動の活発化が予想され、厳しい情勢の中で勤務することになると思われる。今から平素の勤務を通じ、テロ・ゲリラを防圧・検挙するとの強い決意をもちR警備の完遂を目指したい。

（中隊員）

五校の計を以てす

特車　大塚　勝政

天皇陛下の沖縄御訪問は戦後はじめてのことであり、これは歴史的にも大変重要な意味を持つとともに、国民の大多数は、このことを心から慶祝し、無事訪沖されることを強く願っているに違いない。

しかし、中核派をはじめとする過激派は、実力で阻止する旨を機関紙等により公言してはばからず、決して予断の許せない情勢である。

歴史的に重大かつ重要な天皇訪沖警備を、瞬時のスキから「九仞の功を一簣にかく」ことなく成功裡に終わらせるために、私は次の事を心掛け日々頑張る覚悟である。

一、都民に協力の得られる警備環境を作る。

警察活動の中で、都民の協力を得ずして、達成できる分野は皆無である。しかし、現実にはそのことをどれほど心しているだろうか。残念ではあるが、不適切な言葉遣い等が原因で世論の批判をうける事案が後をたたないことを見れば明白である。そこで私は、出勤する係員には、検問等で都民に接したなら、鋭敏な洞察力を持ち常に相手の立場と人格を考え、丁寧な言葉遣いで接する。検問終了時には、協力に対する感謝の気持ちをこめ、心からさりげなくお礼をなど細かいところから教養しておきたい。

二、幹部としての指揮能力を高める

飛鳥川の淵瀬のごとく移りゆく昨今において、R警備を完遂するためには、なんといっても現場の指揮官が「之れを経する」に五校の計を以てす」だけの力量を備えていなければならない。そのためには、私はまず、警備方針が示されたならば、直ちに入念な実査を行って「地」を知り、土地柄に応じた気候を調べて「天」を知り、民の心を先取りして「道」を知り、職場の規律である「法」をたかめ、そして「将」たる指揮官としての素養をたかめてR警備に臨む覚悟である。

三、保有車両の保守管理

重防警備、エリア警備、高速検問等どれをとっても、車両を活用しての警備である。その車両を保守管理すべき立場にある整備主任として、日頃考えていることは、いついかなる事象が発生しても、その車両本来のもつ機能及び諸元性を十分に発揮し得るようにしておかなければならない。そこで私は、普段あまり使用しない車両を中心に整備点検簿を作り、定期的かつ計画的な整備を行い、いつでも最高の状態で使用できるようにしておきたい。

これらのことを肝に銘じ、このR警備を警備警察のプロたる機動隊員として、命を賭けてやりぬく覚悟である。人間は貢献により報酬を得、単なる努力は賞讃の対象となるに過ぎないと言われる。我が盟友よ、「心」をひとつにして、歴史的に意義の大きいこのR警備を完遂しようではないか。

（整備主任）

お知らせ

▽寄付金　瀧上工業㈱より九月十六日付で百万円のご寄付がありました。当会の運営に有効に活用させて頂きます。厚く御礼申しあげます。

治安双肩に誇れ機動隊

鈴木實
高周波熱錬㈱
山陽特殊製鋼㈱
㈱周東商会
大洋製鋼㈱
東京ニッケル㈱
村山文雄
次郎丸嘉介
大東港運㈱
木村利秋
橋山和正
廣慶太郎
国見山㈱
岡谷鋼機㈱
田島鋼材㈱
東海鋼材工業㈱
宮崎精鋼㈱
広島シャーリング工業㈱
内外運輸㈱
藤田金属㈱

㈳機動隊員等を励ます会
東北支部

読者の広場

偶感

堤　直人

最近、当社で二十代の若い社員が退職した。辞めたいというので、長時間、二人で膝を交えて話合ったが、最大の理由は「疲れたから」ということであった。私は理解出来なかった。また困惑し、反省した。

私のような大正生まれの者には、職を辞する場合には、強い信念とそれ相当の具体的な理由があったと思う。仕事に疲れた、人間関係に疲れた、身体が疲れた、生活に疲れた、これは、精神が老いて現実を逃避する者のいうことではないか。

信念と明確な目標を持って退社したいのであれば、説得の仕甲斐もあるし、どうしてもというのであれば、喜んで送り出したい気持であったのだが。淋しかった。教育とは、一体なんだろうと、しみじみ考え直す機会であった。

登校拒否やいじめ問題がマスコミによく取り上げられているが、高遇な理論、理屈もよかろう。しかし、要は家庭であれ、学校であれ、職場であれ、最も身近に接する人が、最も影響力があると思う。

「はげまし」紙上で知り得る機動隊の皆さんの教育・訓練は、すばらしいと感服している。優れた教育と訓練を積み重ねて、はじめて臨機応変の処理が可能となろう。鍛えられた組織と集団は、強い使命感と明確な目的に裏打ちされているとも思う。

今夏、首都圏で大停電と水不足があった。大停電は、あり得ないことが起ったと聞いている。水不足は過去にもあった。「水と安全」は、有事の時以外は無関心になり勝ちだ。マスコミは大々的に報じたが、解消するとともに話題にもならなくなった。

けれども、教育（学校教育の狭い意味でなくて）は、一過性であってはならないと思う。国家百年の大計である。豊かさの中の貧困、精神の荒廃は何としても食い止めないといけない。「はげまし」には大いに啓蒙されている。

小倉師範卒業後、僅かの期間であったが、教壇に立った経験があるため、特に思う次第である。

健康法

滋岡長平

医者の忠告もあって、昨年の夏三ケ月の早朝歩行を励行した結果、体調は頗る改善された。今年も六月に始めて、漸く三ケ月目に入った。

今年は昨年の様に怠けて中断することなく、秋中続ける覚悟である。ジョギング熱は事故等の関係で数年来下火になり、特に中高年層では速歩で歩くことが流行して居る。先日も教育テレビで、エクササイズ・ウォーキングの手法が紹介された。

私の処方箋は、速度が一分間一四〇歩、距離約七千歩（五粁強）、朝六時前から約五〇分、ルートは三コース、トレーニングに万歩計携行、小雨決行、帰宅後シャワーを浴びる等々。

時に家内を誘うこともあるが、歩度が合わない、単なる歩きでは興味がない、雨天は厭だとか云ってつき合いが悪い。新し物好きの彼女は、室内歩行器の購入を提案したりする。然し外気の中で自然の風物にとり囲まれ、起伏のある道を歩くのが楽しいので、歩行器では却って三日坊主に終るのが関の山だと拒否して居る。

都内とは云っても外れの方なので、三コース共値上りを待つ雑木林や世界一コストの高いキャベツ畑が相当のスペースを占めて居り、どのコースにも小公園や神社があると云う、武蔵野の面影が残って居る土地柄である。

歩き始めた六月の初めは、空梅雨の中でも樹々の緑は色濃く、ピンクのしもつけや黄色の金糸梅は盛を過ぎ、白い山梔子の花も芳香は失わないであせかけて居た。七月に入っては路傍に空色や臙脂の朝顔が覗き出し、芙蓉、立葵の鮮烈な紅紫の花は青空に映えて咲く。

八月にはどの家の百日紅も朱や白の花冠で盛装する。柘榴も柿の実も栗のいがもまだ青いが、初秋になれば大小色づいてやがて金木犀の香りが街中に漂うようになる。息を弾ませて速足に過ぎ行く者には、沿道の自然の移り変りほど心を和ませるものはない。

早朝だから歩行者を妨げるのは早出の自動車と新聞配達のバイクの音のみである。

歩き出して二カ月もすると、三つのルート共に行き交う同志の人々の顔が時間によって固定して来る。先ず一番多いのが小肥りの中高年の奥様方であり、軽装して話し乍らの二人か三人連である。次に熟年の夫婦連でスポーティな装乍ら歩度は可成遅い。次いで若壮年のランナー、曾つてワシントンのベンタゴン近くで昼休みに必死で走って居た軍人達を思い出す。

そのあとは病後のアフターケアに励む中高年の諸君である。因に犬を連れた散歩者も多い。自転車で引張る人は殆ど男の人だが、ビニール袋を手に愛犬と歩くのは老若の御婦人が多い。犬の流行も数年前から変った様である。大型犬は頓に減って小型の愛玩犬が増え、殊に短毛で扱い易い、和犬では柴犬、それにビーグルが増加して居る。但しこの手の歩行者は犬の運動が主眼であるから、同志として共に語るに値いしない。

同志の人々とは行き会う毎に挨拶を交わすことにして居る。黙って横を向いて居ても向うから声がかかって間が悪いからである。之は田舎道で声をかけ合う古い良俗から来たのか、登山やハイキングから影響を受けたのかとに角良き慣習であろう。

扨、先日ある先輩から近況を問われた時に、この歩行を日課として居ると洩らしたら、何の為に健康法などを心がけるのだ、長生きしても大して世の中のお役に立たず、若い人達に迷惑をかけるばかりではないかと厚生省のお役人の様な剣幕で叱られた。人間としての限界を悟ること、死生観の確立こそが大切で健康法など二の次だと云うお叱りである。

成程孔子様は六十にして耳順い、七十にして矩を踰えない域に達せられたそうだが、私如きは真驕上人が申された様に、つまらない浮世を去りかねてあくせくと延命を心がけ、死ぬまで悟れない凡愚の輩に過ぎない。従って雑念に囚われつつ毎日歩いて居ると告白した次第であった。

私が実践している警察職員の信条

国際空港警備隊　菅野輝彦

昭和五十三年七月十八日に発隊した新東京国際空港警備隊は、今年で九年目を迎えた。記念行事の一環として記念論文が競われたが、最優秀賞に選ばれたのがこの作品である。

現代の社会情勢は、複雑多岐にわたり、個々人に確固たる信念がなければ、ややもすると押し流されてしまう傾向にあります。良きにせよ悪しきにせよ、我々は、これらの社会変化の影響を私生活、公生活において受けているわけであります。

このように厳しい情勢下で、県民に信頼される立派な警察官になるには、社会の波風をものともしない、警察官としての確立した、「信条」が必要になってくるものと思われます。

私は、日常の勤務に当たって、次に述べる四つのことを「信条」としております。

まず第一に、「誇りと使命感」を持つことです。

「誇り」とは、治安維持という崇高な使命を受け、この使命を全うするため、この身を投げうってでも任務を遂行することに充実感を覚える気持ちであり、そこに生まれてくるものが治安維持のプロであることの自覚つまり〝プロ意識〟であると思っています。

「使命感」とは、先に述べた〝誇り〟を実現化させる観念であり、自分が置かれている立場を考え、今、何を為すべきかを知り行動することであり、我三空機のモットーでもある〝俺がやらねば誰がやる〟という心意気であると考えております。

第二は、「自己を厳しく律すること」であります。

警察組織には守らなければならない「規律」というものがあります。とかく規律に関しては、消極的に受身の姿勢でとらえられがちですが、もっと積極的に、自らがその規律の中に飛び込んで行く能動的な姿勢が必要ではないかと考えております。

次に、「生活態度」という点から考えてみたいと思います。

〝私生活は公生活の基盤である〟と言われるように、乱れた私生活は、即、公生活に影響を及ぼします。そうなれば、正しい職務執行など望める筈がありません。

規律を守らず、乱れた公・私生活を送るような警察官の集まりであれば、それは、ただの烏合の衆にすぎません。連帯感のある組織を作るには、組織の一員である我々一人ひとりが、自己を厳しく律すること以外に方法はないと思います。

第三に、「人間味ある警察官であること」であります。

常に私は、「感謝」「慈愛」の気持ちを持ち続ける警察官でありたいと考えております。

日常行われる職務執行に際しても、我々に協力して下さる善良な一般県民の方々に対しては、「ありがとうございました」という言葉と、〝敬礼〟という動作をもって「感謝」の気持ちを態度で示し、少しでも理解してもらえるよう心掛けております。

また、困っている人がいれば、その人の立場、気持ちになって行動することであり、人の道の礼を失することのない努力をすることの大切さを、肝に銘じております。そして、人間形成の確立のためにも、先に述べた〝感謝〟〝慈愛〟の気持ちを持ち続け、部内・外の別を問わず、お互いが「この人のためならば」という「信頼」関係に立つことのできうる人間警察官を目標としております。

第四に、「自己の充実」ということであります。

このことは、組織の活性化をはかる上にも大変重要なことだと考えております。部下は、我々幹部の行動をよく見ており、小さな一つひとつの行動が大きな意味を持っていると考えております。

そこで私は、自己充実のための具体的方策として、まず「健康」ということに気をつけております。「健康な肉体には、健全な精神が宿る」と昔から言われるように、誰にも負けない体力と、そこに宿る強い精神力を理想とし、一歩でも近づくよう努力したいと思っております。

また、「ものの考え方」においても〝我以外皆我が師なり〟の言葉を基本として、貪欲に、誰からでも良いところがあれば吸収しようと考えています。このため実務面でも、この考えで積極的に技術の習得に努めております。

我々は、国家の治安維持という使命の下に、日夜、職務に精励しているわけでありますが、時代がどのような変化を遂げようと、世の中がどう変わろうと、誠実に生きている者が涙を流すような世の中にしてはならないと信じてやみません。

真面目に、精一杯生きている人々のために、不正を許すことなく「弱きを助け、悪をくじく」この素朴ではあっても、誠実な正義感をもって、一人でも多くの県民から信頼され愛される警察官になれるよう、今後も一層の努力をしていく決意であります。

（三空機・巡査部長）

極左根絶

決議

我が国の犯罪情勢は、刑法犯認知件数が依然として高い水準にあるとともに、極左暴力集団による「テロ」「ゲリラ」事件や悪質な生活経済事犯が増加し、少年非行は高水準のまま推移している。さらには、覚せい剤乱用が深刻化するなど、国民生活に大きな不安と脅威を与えているところである。

このような犯罪情勢は、最近における社会、経済情勢の急激な変化、国民意識の多様化、さらには、家庭や地域社会における問題解決機能の低下、その他基本的には、社会の各般にわたる変化に起因するものであるが、地域社会の安全に最もかかわるところの大きい我々は、この際決意を新たにして防犯活動を積極的に展開し、もって犯罪や非行のない、明るくて安全で住みよい地域社会の建設に寄与することをここに決議するものである。

事業活動

本会の事業としては、寄付行為に規定されているとおり、次の諸活動を行っています。

(1) 各都道府県防犯協会の相互の連絡並びに各都道府県防犯協会の行う防犯活動に対する援助及び協力
(2) 防犯思想の普及宣伝
(3) 覚せい剤等薬物の濫用防止に関する活動
(4) 青少年の非行防止と健全育成運動
(5) 防犯対策の調査研究
(6) 防犯施設の拡充強化
(7) 暴力排除その他社会環境の浄化活動
(8) 防犯功労者の表彰
(9) 防犯機器の普及及び斡旋
(10) 防犯機器の型式に関する試験検査及び証明
(11) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和二十三年法律第一二二号）第四十条第二項各号に掲げる事業
(12) 善良の風俗の保持及び風俗環境の浄化に関する活動
(13) その他、本会の目的達成に必要と認める事業

財団法人 全国防犯協会連合会

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

国体警備ご苦労様

過激派を完全に封じ込む

沖縄での国体開催に伴う警察の警備は完璧なものだった。天皇陛下ご名代の皇太子ご夫妻の訪沖阻止を呼号する過激派ゲリラも、機動隊を軸とする空前の厳戒体制で完全に封じ込まれた。

第四十二回国民大会（海邦国体）は、国体の全国一巡を締めくくり、沖縄の本土復帰十五周年を記念する節目の大会である。ご療養中の陛下ご名代として美智子妃殿下と十月二十四日沖縄入りされた皇太子殿下は、国立沖縄戦没者墓苑をご参拝、平和祈念堂で戦没者遺族や県経済・政界代表らを前に、陛下から託された「お言葉」を読み上げられた。二十五日の国体開会式では、陛下の「お言葉」を代読されるなど二日間の日程を無事終えられた。

皇太子殿下ご夫妻の沖縄ご訪問は五十年七月の海洋博開会式、五十一年一月の同閉会式、五十八年七月の献血運動推進全国大会に続いてこれで四度目になる。

結局、ご病気のため実現しなかったが、国体が天皇陛下の沖縄ご訪問の機会となったことに対し、反対の声もある。それに便乗した過激派のゲリラ防止が、今回の大警備の焦点になった。

厳戒体制の首都圏と沖縄

過激派各派は早くから「天皇訪沖阻止」と叫び、「天皇を東京から出さない」ことを闘争目標に掲げていた。皇太子ご夫妻のご名代についても基本的には同じで、「反皇室」を掲げているため、沖縄現地での警備と並んで「東京が主戦場」というのが警備当局の受け止め方である。

このため首都圏では八月三十一日から特別警備態勢に入り、警視庁は十月四日から同庁としては最大の警察官二万四千人を動員、またチラシや新聞・雑誌広告を使った政府広報で都民の協力を求めた。

一方、沖縄では、県警千五百人、関東以西からの応援三千四百人で警戒にあたった。

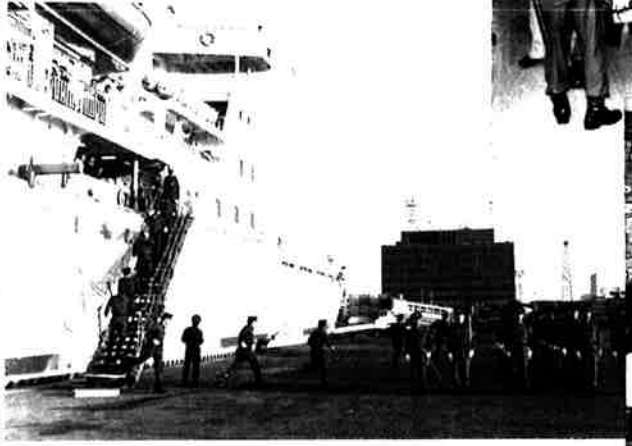
機動隊の強い使命感

皇太子ご夫妻のご出発日は「沖縄訪問実力阻止」を叫ぶ中核派など過激派や市民団体など千百人が都内・羽田空港で集会やデモを行い、那覇市でも過激派約四百五十人が繁華街でジグザグデモを繰り返し、さらに革労協が那覇交通の路線バスに時限発火装置をしかけた。

しかし、こうした過激派の〝撃〟も、事前の相次ぐ隠れ家の摘発、ゲリラ要員の逮捕、成田空港反対同盟の分裂などで力が減退されているところへ、機動隊員等のゲリラを封圧する強い使命感と逞しい体力・気力の前では、手も出ない結果となった。警備完遂、本当にご苦労さまでした。

▼羽田空港ターミナルの検問　▲都内デモ規制

▲沖縄現地での検索
◀羽田空港整備場検問



警視庁機動隊沖縄那覇港到着

今月の言葉

ぎりぎりの選択

昭和五十七年に開通した新幹線は、東北への便利さを一段と増加させ、従来のイメージを一新した明るい東北を世間に印象づけてきたものと思われる。

そのような中にあって、今年の仙台は正宗ブームに沸き立ってきたといえる。これもNHK大河ドラマ『独眼竜正宗』のおかげで、地元では地下鉄開業に続き恒例の七夕祭り、未来の東北博での未曽有の大盛況をステップに、市政百周年の政令都市指定を目指しての街づくりに、一段と拍車がかかってきた。

戦国末期その隻眼というハンディを背負いながら「天下人」への野望に身を焦がした伊達政宗は、奇抜な発想と決断・実行力で乱世を生き抜き、仙台領六十二万石の礎を築いた。

聞くところによると、ドラマの製作に当っては、伊達家・地元の専門家達から演出家に対して、史実に忠実な脚本を強く要望したとのことである。歴史小説のドラマ化であるから、視聴者を楽しませるフィクションの部分も必要であろうが、秀吉・家康のような覇者と異なり、広く世間に知られていない部分の多い政宗像が、地方の野心家としてのみ画かれることを避けたかったのであろう。原作では失明を左眼としていることも、地元では驚きであったのである。しかしさすがにNHKの時代考証は正確であり、合戦場面の端役に至るまで実在の人物を登場させていることで、このことも杞憂に終りそうである。

文化人としても当代一流との折り紙がつけられた政宗は名筆家であり、自筆の書状は実に数多く残され、史実としての定説はある程度固まっている。そして若干の演出家の自由な発想にまかせたといわれるドラマの導入の解説部分は、アメリカン・フットボールが出てきたりして度胆を抜かれる演出の巧みさも楽しいものだ。

ところで、当時では遠隔の地みちのおくの東北にあって、時代の大変化の流れを野望の実現に向けて乗り切っていく、あの決断力はどこからでてきたものであろうか。十一歳で元服して十九歳で父親を失い、実弟の成敗と母親との確執……「つには血縁の薄さがあげられよう。頼りとする身内がいない以上、家臣団を統率し運営するしか道はないのである。

しがらみを捨てたこの孤独さが、従来の行き方にとらわれない広く高い視野を持ち得たのであろうし、自らを常に崖淵に身をさらし、ぎりぎりの選択を決断し得たのであろう。

晩年には徳川幕府の三代にわたる将軍に仕え、お家安泰を願うように なったが、家康が死去した五十代前半までは徳川家との天下人への挑戦という見果てぬ夢の気概を持ち続け、今でいう対幕図上作戦を練っていたのである。

この戦国武将の波乱の生きざまは、九十年代大変革の現在に生きる者をも充分に魅了してやまないものがあり、これだけの人気番組になっている所以であろう。（三澤 昭郎）

警視庁機動隊

寮祭あれこれ

年に一度の寮祭、女性と接触する機会の少ない若い機動隊員にとっては、人生の伴侶を見つける出会いのチャンスでもある。「機会はあらゆる努力の最上の船長なり」はギリシャのある劇作家の言葉だが、この寮祭で知り合い、ゴールインした人も少なくないという。"寮祭で良妻を"はともかく、日頃の緊張を解きほぐす楽しい一時だ。これがまた明日への活力につながっていくが、この陰で苦労する裏方さんもいる。楽しい思い出作りの寮祭に乾杯といこう。

ボクは孔雀の間

一機　石川　佐幸

皆さん、始めまして。ボクは孔雀の間という。おっと、変な想像をされては困る。決していかがわしいホテルの一室ではない。かの有名な日本を代表する帝国ホテルの大広間なのだ。大手企業の会合や個人のパーティ、ディナーショー等で、連日連夜大変忙しい毎日を過ごしている。時には、有名な芸能人の披露宴等にも活躍している。

きょうは警察関係の独身者の寮祭、それも機動隊員の寮祭だというので、内心嬉されないだろうかと心配だったが、意外に皆さん紳士だったのでびっくりした。ここで、ちょっとだけ機動隊の皆さんへ、その時の印象を述べさせていただきたい。

機動隊の方百八十人位に対し、女性の方は二百五十人位居ただろうか。あまりに女性の数が多く圧倒されたせいか、なかなか女性との会話がスムーズにいかないようで、中には、終始職務質問をしているような方もいたようだ。

しかし、酒の力というのはすごいもので、特に機動隊の方は、酒の力に弱いというか、酔った勢いでさっきまでビシッとスーツできめていた二枚目の紳士がいつの間にか三枚目半になってしまい、中には完璧に舞い上がっていた方もいた。

でも、ちょっとだけ残念だったのは、ボクの端の方で淋しそうに、女の子だけでちょぼちょぼと食事をつまみながらおしゃべりをしている方達が、数グループあったことである。……皆さん、おしいことをしたね。意外とかわいい子達ばかりだったよ。それにしてもやはり、機動隊の方というのは、真面目なのだね。

一般のパーティだと、終宴が近づくにつれ三分の一位は途中でパートナーを見つけ、二人だけのパーティに移行してしまうのだが、最後まで誰一人として抜け出す人がなかった。……すばらしいですね……？

でも、これが機動隊の皆さんが日頃培われている団結心なのですね。改めて心強い男達だなあと感動した。皆さん、これからもどうかお身体には気をつけ、勤務に精進して下さい。陰ながら応援しております。楽しい一時をありがとうございました。

（会計係員）

BGMに徹す

二機　藤鷹　弘光

年に一度の寮のお祭り、憩いのひとときである寮祭の時期がおとずれ、我が音楽分隊「イエローファイターズ」も、その活動をより活発にする時になった。バンドの編成員には、吹奏楽、ロックバンド出身者等、全く音楽思想の持ち方の違う者が集まり、音作りにも様々な苦労が伴う。

トランペットでサックスの譜面を吹くことも、当たりまえのように譜面探しに悩んでいる。それほど近年の音楽は多種多様であり、小編成で楽器も技術も未熟な我がバンドに苦労はたえない。みんな音楽好きの者ばかりのはずなのに、時にはやめてしまいたくなるような気持ちになる。しかし、少しずつではあるが曲が仕上がり、寮祭が近づいてくるにつれ、その苦労も楽しみに変わっていく。

寮祭当日、我がイエローファイターズは、いかにもメインであるかのように舞台へセットを完了した。会場が盛上がり、たくさんの寮員と女の子の中で演奏が始まった。しかし、二機寮員の全神経は、女の子に集中していた。みんな、女の子との語らいで、我々の演奏どころではないのだろう。私は最初、寂しい思いをしたが、それは、間違いであることに気がついた。

舞台の上でいかに華華しく演奏しても、私達がメインではなく、パーティー会場にいる寮員一人ひとりがメインであり、私達イエローファイターズは、それを盛り上げる役、すなわち、BGMに徹しなければならないのである。

私達のBGMによって少しでも会場の雰囲気が盛り上がり、楽しいものになってくれればそれでよいと思う。ほんとうなら、一言や二言位で終ってしまうような会話が、そのBGMによって、終りない会話に続いていくそんな演奏をすることが一番大切なのだと思う。

寮祭が無事終了し、ひっそりとした会場で跡片付けをする寮祭役員と私達音楽分隊、寮祭を楽しむ側があれば、楽しませる側もあり、楽しませる側が多少の苦労があるのは、しかたがないことである。

この寮祭のために「床屋」へ行ったり、わざわざ「背広」を作ったりと、ハプニング？もあったようだが、これも、寮員達の心に残ればそれが一番良いと思う。

今年も、我がイエローファイターズは、すばらしいBGMを作るため、非番や週休を利用し、練習を続けていきたいと思う。でも、私も寮祭の参列者として、女の子と話がしたいなあ。

（中隊員）

駒場寮ダンスパーティー

三機　北迫　広海

年に一度の駒場寮祭が開催された。私は新隊員として初めて機動隊の寮祭を経験したが、寮祭が近づくにつれ、寮長を中心としてその準備が行なわれ、暇をみつけては社交ダンスの練習が行なわれた。日頃、ダンスなどした事などない私にとって、どのように女性をリードすれば良いのか、顔を真っ赤にし、額に汗をかきながらダンスの練習をした。

寮内でも、何を着ていこうかと寮祭の話題がつきないようになり、私も寮祭に合わせて、一張羅の背広を新調し万全な準備をした。

そしていよいよ寮祭当日、私は前夜の当番勤務で車の排気ガスと汗、ほこりで真黒になった体を洗い流し、寮祭会場である「ホテルセンチュリーハイヤット」に向かった。

会場では、「駒場寮ダンスパーティー」と銘打たれ、広報係の先輩の名調子による司会で、始まったが、日頃のデモ行進等に対する警備広報とは違い、大勢の女性を前にしては、いささか緊張気味のようであった。

そして隊長のあいさつ、我々機動隊員の日頃の勤務や仕事内容など紹介されたが、寮祭に招待された女性たちは、ダンスパーティーのこの雰囲気では、なかなかいかめしい仕事の内容も想像つかないことだったろう。続いて隊長の音頭で乾杯が行なわれた。

最初は、我々三機隊員もいつもの勇ましさと違い、隊員の人数よりも数多い女性を前にしては、少しとまどい気味だったが、事前に配られた番号札と風船を使ったゲームやディスコなど寮祭が進行していくにつれ、気持ちもほぐれてきた。職務質問気味の会話から始まり、仲良く懇談しているうちに、訓練に訓練をかさねた社交ダンスの時間となった。

隊長や副隊長など何人かのカップルが前に出て曲に合わせて踊り出したが、なかなか前に出てこない隊員に見かねてか、遂に、隊長から「隊長命、隊員は速やかに女性を誘って前へ出よ」の命令が出た。隊長命とあっては、と思い、私も女性を誘って何とか訓練の成果を出すことができた。

楽しく、我々の駒場寮ダンスパーティーは終了した。機動隊の寮祭を始めて経験した新隊員の私達は、これほど大規模な寮祭ができるということは、何事に対しても真剣に取り組む機動隊員の団結力、実行力の賜物であると感嘆し、機動隊にきた誇りを改めて感じた。

（中隊員）

楽しい一時

四機　塩沢　幸雄

最近は女性の地位や立場が高くなる一方で、自立する女性やキャリアウーマンがもてはやされ、幅をきかせており、進出する職域は広がるばかりである。その中にあって警察に関してだけは、まだまだ男の職場である。

特に機動隊は、男だけの集団であり、女性的な優しさのはいり込む余地のない、妥協を許さない厳しい職場と言えよう。その厳しい男の社会の中にあってとりわけ私の所属する武道小隊は、週休や非番関係なし、彼女なんか二の次、ひたすら柔剣道の修業に打ち込み、署課隊、機動隊対抗試合の優勝を目指して男同志がぶつかり合い、火花を散らし汗を流し合う、強者の集団なのである。

そんな関係から、普段女性との交際が極めて少ない我々にとって、寮祭は、女性との接触を持つ絶好の機会であり、正月を待ちわびるような子供以上の楽しみであり、期待するところも大きい。

今回の寮祭は、東中野の日本閣で行なわれたが、女性客の参加も多くとても楽しい一時を過ごした。私も機動隊員としては今度で四回目であるが、今までで一番思い出に残る有意義な寮祭だったのではないかと思う。

特定の彼女が出来る、出来ないといったような単純な事ではなく、先にも述べたように、普段汗臭い男の集団の中にいるだけに、女性の持つ特有なソフトな面や優しさに触れただけで、心のなごむ思いがしたことである。

次に、いろんな職場で活躍する女性達の芯の強さ、たくましさを知ったことにより、現代女性の責任感と活力に頭の下がる思いがしたことである。

そして最後に、女性の目から見た機動隊員についての感想や、男性に対する希望や理想像から、改めて自分をみつめ直したとき、女性が強くなったとはいえ、昔も今も、女性が男性に求めるものは力強さ、頼もしさであり、優しさではないだろうかということを感じさせられた。

（中隊員）

顔・顔・顔

五機　笹本　功

年に一度の寮員最良の日、それは寮祭であろう。寮祭は多忙な機動隊員にとって、健全な男女交際の出会いを作ってくれる唯一の場でもある。寮員の中には強がりを見せるためか「今日は酒をたっぷり飲んで帰るか」などと、初めから女性との出会いをあきらめているように見える者もいる。しかし内心は出会いを強く希望し、それが交際に発展し、そーて結婚にゴールインというシナリオを描いている。

今回は、中野区内にある日本閣で寮祭を行なった。寮員はこの日とばかり、とっておきのスーツを着込み、期待に胸を躍らせながら日本閣を目ざした。この日が到来するのを一日千秋の思いで待っていたことは、会場に来る顔を見ればわかる。今日という日をいかにも待っていたというような嬉しそうな顔。あるいは期待していたものの、果たして交際のきっかけをつかむことができるかと緊張と不安な心を見せる顔など、様々である。

寮祭開催までには、隊長以下の幹部と寮役員の苦労は計り知れないものがある。それは第一に、寮役員にとっては素晴らしい寮祭であったかどうかにより、役員としての真価が問われることであり、また開催に至るまでには長期間の準備を要し、数日前からは非番週休を返上し、徹夜をするほどの準備作業が続く。役員の職務とはいえ、役員の苦労はなみなみならぬものがある。

第二に、寮祭にとって最も大切なこと、それはいかに機動隊員にふさわしい女性を多数招待するかである。隊長、副隊長、知人から、あるいは知人のつてをたどって招待する等、寮祭を盛りあげるため、できればその中から一生の伴侶を選ぶことができるようにとの苦心である。

寮祭開始直後は、新人類と呼ばれる若い世代にあっても緊張し、なかなか溶け込めない雰囲気にある。そのような中にあって、女性を招待した本部付・中隊長は、寮員と女性の間を動き回って、なごやかなムードを作ろうと懸命な努力を傾けている。その甲斐があってか、あるいは本当の若さの発揮によるものか、堅苦しい雰囲気はすぐに解消され、談笑に興じるようになる。そして会食の後のダンス・ゲーム等和やかなムードの中に閉会となる。

それからが運命の別れ道である。次のデートの機会をいかにつかむか努力一筋である。その結果、寮祭直後の寮の公衆電話はパニック状態となる。しかし一週間、二週間と過ぎるに従って、もとの静かな公衆電話に戻っていく。

寮祭で知りあって結婚に至った話は最近は聞かれないが、今年はぜひ寮祭がとりもつ縁で結婚にゴールイン、という嬉しい話題を聞きたいものである。

（寮務主任）

寮祭を企画して

六機　浅見喜代志

私は昨年六月に寮長に任命されたが、その時真っ先に頭に浮かんだことは「寮祭」という言葉だった。これまでに寮役員をしていた先輩の苦悩する姿を見ているし、また自分でもそんな大規模なパーティーの企画をするなどということは夢にも思わなかった。

前寮長に、前回の寮祭の話を聞くと予想通りで、事前準備は二ケ月前から始め、招待客は二百名以上で、総人員が四百名以

上に及ぶということだった。

そのうちに、当隊の六桜寮寮祭を例年通り各隊のトップをきってやることになり、品川のホテルで実施することに決まった。

第一の悩みは、女性のお客様が果たして来てくれるだろうかということである。前回は寮員と同数の二百名ぐらいが来てくれたということであり、寮員の評判も良かったので、もし今回女性の招待客が少なければどうしようと突然不安に襲われたりもした。二百名の招待客を集めることは容易なことではない。当然、私に二百名もの女性の知り合いはないし、街中を歩いてみると女性の数は多いのだが、この人達を寮祭に呼びこむわけにもいかないしと、頭を悩ませること再三であった。しかし、いろいろと手を尽くして招待状を出したところ、前回と同じくらいの方から出席の返事をもらうことができ、役員一同やっとひと安心した。

次に頭を悩ましたのは、寮祭の実施要領についてである。歌や踊りやアトラクションを取り入れ、楽しくなごやかな雰囲気の中にも酩酊者を出さないように行事を進めていくにはどうしたらいいか。役員一同知恵を絞り、また先輩からのアドバイスをいただきながら案を練り、具体的な行事予定が煮つまったのは、もう寮祭の数日前であった。

寮祭の当日を迎え、招待客の出足の悪さに肝をやしたが、開会時間が近づくにつれて招待者、女性の姿が増えてきたので、安心した。その後は、式の進行で会場内を駆け回っているうちに閉会の時間となってしまい、女性の招待客と話をする時間は、私にはついに一度も訪れなかった。そして、招待客の退場するのを見送り、誰もいなくなった会場を見渡した時、役員一同顔を見合せ「終った」とつぶやくなり、全身の力が抜けた感じがした。他の役員も、私と同様招待客と話をする時間はほとんどなかったようだ。

六桜寮寮祭で知り合い、毎年何組かのカップルがゴールインするということである。今回の寮祭でも、きっと何組かのカップルができたものと思う。寮の役員にも誰かがいい女性を紹介してくれると思っているのだが、まだ何の話もない。

（六桜寮寮長　操車係員）

寮祭！悔いあり

七機　二宮　晃二

待ちに待った寮祭である。私が、寮祭に参加するようになり既に四回目。着隊した頃は、会場は「府中自衛隊」か、さもなければ「東京競馬場」……それが今では都心の「明治記念館」で行なう。まさに隔世の感がある。

ところで、第七機動隊はレンジャー部隊、バスケット小隊、武道小隊、ヤングライオンズ（吹奏楽部）などの特殊小隊を抱えており、それぞれが特徴を持っている。

レンジャー小隊

髪短く、中背、体格はガッシリとして腕力が強い。ほとんどの顔が、歌手の「大川○策」似であるが、若干「少○隊」も見られる。性格は、普段は国民好感度ナンバーワンであるが、ある液体が体に入ると凶暴と化す。最初は、男らしさと紳士ぶりから多くの女性に取り囲まれているが、時間が経つにつれ女性の姿が見られなくなり、男同士で飲むようになる。

バスケット小隊

髪七・三に分け、背高く、均整のとれた体格。顔は甘いマスクが多いが、若干名、今流行の鬼瓦権三がいる。性格は、いつも跳ねているためか軽躁である。しかし、この軽い性格が新人類と言われる女性に合っているらしく、一番の人気で黒山の人だかり。男性一人に女性三人位がくっついている。なかには、自分もこの人気にあやかろうと、一日バスケット部員と化す者が見受けられる。

ヤングライオンズ

演奏に忙しく、女性と話をしている暇などないはずなのに忙中閑あり。漫談の花を咲かせたり、また、腹が空いては演奏できぬと悠然と食事をしている者もチラホラと。（こらこら、今は一人でも多くの部員が必要なんだよ。あきらめて演奏しなさい）とは天の声。

武道小隊

私が籍を置く第三中隊は「柔剣道の猛者」をそろえ、通称「武小」と呼ばれる小隊を持つ。彼らの体は、山の様に大きく、耳はギョーザの様につぶれ、手足にはタコを持ち、眼光は鋭く、言葉は乱暴で怖いもの知らずであるが、気は非常に優しい集団である。この猛者達。道場や犯罪には滅法強いが、唯一の苦手は女性なのである。しかし、女性とは感覚的存在で、これは、古今東西共通の真理なのである。容姿を最大のポイントとするので、武小の連中（私も当然含まれる）は女性と非常に縁遠くなり、なお一層女性を苦手としてしまう。親や道場をうらむわけではないが、もう少し均整のとれた容姿をしていたら今頃私も……。（いやいや泣くまい。愚痴るまい）

今年も「寮祭で良妻をと思っていたのだが、とんだ寮災だ」と、ダジャレを言いながら、来年の寮祭に期待をかけて、男同士で足早に会場を去っていくのであった。

（中隊員）

練習の日々

八機　中村　勉

私が当隊音楽クラブ「ザ・ヤングェイト」に所属してから、十一か月が過ぎようとしている。その間には夏の機動隊対抗「音楽の夕べ」、牛込老人会主催の演芸大会、あるいは隊内各種行事等で演奏、そして最近では各署の寮祭出演と音楽クラブ員として演奏する多くの機会に恵まれた。その中でも、特に当隊の若松寮寮祭での演奏が一番印象に残っている。

この日の為に私達バンドマンは、大変な苦労の日々を体験した。寮祭が近くなれば当然練習量も増えてくるものだが、今回は全員が一緒に練習する時間が非常に少なかった。私達はこのままでは、果たして演奏が成功するのかと不安を感じた。寮祭が近づくにつれ、非番でも夕方までの練習や、日勤終了後夜遅くまでの練習や打ち合わせを余儀なくされた。こうなると仕事中でも、寮祭の事が頭から離れなくなり、早く終って欲しいという思いであった。

寮祭は、東中野にある日本閣というすばらしい会場で行なわれた。招待客（特に女性）が多かったのには驚いた。いよいよ若松寮寮祭が始まった。不安の中、私達は乾杯が終るとすぐ出番となった。会場内が楽しく歓談している中、正面ステージのバンドにパッと眩しいスポットライトが浴びせられた。その瞬間「ワン・ツー・スリー・フォー」「ジャーン……」と会場全体がスピーカーの中にいる様に響きわたった。すると食事中の人、後ろ向きで楽しく話している人も一斉に私達に注目した。一瞬私はドキッとしたが「えい、もういいや、一気にやるか」と半分開き直りの気持で演奏を続けた。

昨日までの不安感も少しずつ少なくなり落ちついてきた。面白いことにこうなると余裕もでてきて、会場の人の顔まで良く見えるようになった。おいしそうな料理を食べている人を見ると「後であれを食べよう」等と演奏中にとんでもないことを考える程余裕もでてきた。（ちなみに食べようと思った物は演奏後、すでになかった）

寮祭が進み、会場も私達の気分も最高潮に達した。最後はディスコタイム、私達の得意のレパートリーである。バンドのリズム、テンポが激しくなってくると自然に会場も熱気にあふれ、演奏していた私は汗だくとなり、次第に疲れを感じた。だが、バンドの前で踊りに熱中している寮員達を見ると疲れも吹き飛び最高の気分となった。そして得意のナンバー「チャチャチャ」を終えると、今まで苦しかった練習の日々もここで一気に消える。「青春の思い出と、人と人との巡り会いを大切にしてほしい」と願いつつ東奔西走することになる。そして最後の準備に熱が入り、実行委員の息もぴったり合ってくる。

自分達の青春時代には経験しなかった寮祭を、脇役として参加出来ることを心待ちにしながら十何年か前の自分の姿に当てはめ、若い寮員と心を一つにして動き回れることを幸せに思う。

「寮祭実行委員会」の事務局に詰める非番の実行委員に一声掛けながら車座になって話し合う時、寮祭の準備を離れて、遠い青春時代の思い出話に花が咲く。結婚の話から東大闘争の体験談等に話が移り、昇任試験の勉強と現実の問題に触れるころ、非番の疲れが顔に現われてくる。

心に残る思い出づくりの手助けをしたい。そう願いつつ、寮員の尻をたたいて回る寮祭であった。

（寮務主任）

雑感

九機　五十嵐　豊

機動隊の猛者も、女性の前でははにかみ屋で、じれったくなる時があり、寮員の尻をたたきながら女性の前へ引っぱり出す。これが毎年のように繰り広げられる寮祭での一光景である。

寮員の「団結と士気」を高める寮祭となるよう寮役員を中心に「寮祭実行委員会」を発足させ、それぞれ準備に入る。実行委員は非番や週休での活動であるので、何回も会議を開いて確認しながら一つひとつを準備することになる。何事もそうであるが、準備の段階が一番苦労が多い。「いつ、どこで、どのような内容で実施するか」毎年のことであるがこれが一苦労であり、またここからが出発。それぞれ任務分担に従って動き出す。時には空回りもあるが……。

成田警備に向けての非番における警備訓練、当番非番の毎日と、今回は非常に厳しい情勢の中での寮祭準備。待機寮の自治活動の一環として自主自律の精神を尊重しつつ、適正に営まれるようアドバイスしながら検討し推進することになる。

はにかみ屋の寮員もやはり男性。年に一度の寮祭を楽しみにしている者も多い。スーツを新調し、寮祭に照準を合わせ「男前」？を上げる努力をする者も居るらしい……。故に、素敵な女性を多く招待出来るかどうかが、重要なポイントとなってくる。

初めての寮祭

特車　山崎　浩二

寮祭は楽しい。日頃、女性に対して引っ込み思案な私でも、こんな雰囲気なら会話を楽しむことができる。私にとって女性に接し、あの軽く明るい声を聞くことができるのは、年一回の寮祭しかないので、ここぞとばかり声をかけまくった。が、みんな素晴らしい同僚や先輩達ばかりなのでチャンスは先輩に一歩譲った。でも、そんなことにはめげず「私は若い。まだまだ来年もそして、その次の年もあるさ」と自分を慰めていた。

ところで私にとって機動隊の寮祭は今回が初めての参加だったが、最も印象的だったのは何といっても「生バンド」があるということだった。所轄ではBGMなど全てテープを使っていたのだが、ここは「生」で、しかも隊員がやっているのだからまた驚いた。その軽快なリズムに合わせて歌って踊ってもう言うことなしだ。女性の皆さんも同様に思ったのではないだろうか。

「こんなに警察の人って明るく陽気なのかしら、本当に警察官？」私が会場でよく言われた言葉である。一般社会では、やはり警察という言葉の響きには重く堅いイメージがあって「近づきがたい人達」と思っていたに違いない。しかしこの日を境に、グンとお巡りさんに親近感を抱いてくれたのではないだろうか。関係企業の方も普段の私達とは違った一面を見てくれたのではないかと思う。

副隊長の挨拶で「この寮祭で何組のカップルが誕生するか期待している。隊員も女性と接する機会が少ないのだから出会いを大切にして彼女を見つけてもらいたい」と言う言葉があったが、人生の伴侶を見つける出会いの場所として寮祭は絶好の機会と言える。幹部の方々も寮祭で知り合いゴールインした人も多いと聞いていたので、私も頑張りたい。

寮祭には、いろいろな意味があり、大切な行事だと思う。華をそえてくれた女性もそうだが、隊員の融和団結そして関係企業との密接な結びつきなどを考えると年一回ではあるが、欠くことのできない行事の一つだと思う。

今年は、行事の企画運営にも積極的に参加し、より素晴らしい寮祭が永く続くよう努力していきたい。隊員は、みんな年一回のこの日を待っているのだから。

（中隊員）

テロ根絶へ
燃える機動隊

大内俊司
東鋼業㈱
栗田工業㈱
高周波熱錬㈱
㈱三榮商会
㈱スチールセンター
杉尾榮俊
大東港運㈱
木村政次
谷本鐵鋼㈱
黒田一
村上益一
中京製線㈱
明鋼材㈱
丸定産業㈱
三和鉄構建設㈱
堀口海運㈱
高橋重廣
中越通運㈱
㈱辻作次郎商店
東北支部（㈳機動隊員等を励ます会）

読者の広場

武田氏興亡の跡

麻生　博

秋空の下、甲府に出かけた。中央高速笹子トンネルを過ぎると勝沼。ブドウ畑の向うに甲州盆地が広がる。四周は山また山で内側を府内、外側を郡内と呼ぶ。

駅から真北に進むと丸山（要害城跡）山麓に、武田神社がある。五百数十年続いた武田氏の最後に、花火の様に咲き散って行った信虎、信玄、勝頼三代の館、つつじが崎館跡である。東西二八三米、南北一九二米、廻りに一重の濠、三米の土手を築いただけである。南にのびる武田通りには、二十四将以下の家臣団の館、職人などの家並が続いて、近世城下町のはしりと云われている。

「人は城、人は石垣、人は堀、情は味方、仇は敵なり」と信玄は云う。府内に城はなかった。郡内にある城は、武田の重臣、服従臣従した地方豪族が守っていた。北は長野、南は御前崎、東は前橋、西は美濃境の広い地域を守るには機動力が必要で、群を抜いていた騎馬軍団がこの役目を果した。

この東南に、夢想国師開山による美事な築庭を持つ恵林寺がある。信玄の墓がある。信玄は二万七千の兵をつれ、三方ケ原で織田徳川を撃破、京へ向う途中駒場で「三年喪を秘せ」の遺言を残して病死する。遺言は守られ、三年後に、正室三条夫人の墓のある円光院近くの仮埋葬地から移された。隣接して、柳澤吉保夫妻の墓もある。

信玄死後十年、天正十年、織田の先峰河尻秀隆が甲府に突入、恵林寺その他ことごとく焼きはらい、僧侶百余人を恵林寺三門にあげ、焼き殺した。長老快川国師が泰然自若、「安禅必ずしも山水をもちいず、心頭滅却すれば火も自ら涼し」と喝破した火定の話は、この楼上での出来である。

信玄の弟逍遙軒の作、鎧不動尊画像・彫像と共に兵火をまぬかれた武田不動尊が残されている。信玄・毛髪を胸部に塗り込め彩色した生不動である。かくまで不動尊を信仰した信玄は、案外心やさしい人であったかも知れない。

府内東のはずれ笹子峠の近くに天目山がある。勝頼は老臣宿将の反対を却け、長篠で沢戦をいどんだが、織田徳川の新兵器三千丁の鉄砲の前に大敗する。老臣宿将の殆どが戦死し、郡内の諸将の離反が相次ぎ、武田の勢力は日に日に低下していく。天正十年織田信忠軍が府内に進入するや、郡内の重臣小山田信義の意見に従い、その居城岩殿城を目指すが、途中その寝返りにあう。前には逆臣、後には織田軍、勝頼主従百余人は、天目山麓景徳院にて自害する。

参道の途中駐車場があり、下を日川が流れる。姫ヶ淵という。勝頼夫人の侍女十数人が身を投げた所である。更に登ると三門脇に老松の繁る中に、勝頼・夫人・嫡男信勝の自害の跡がある。小堂が建ち、立派な墓三基が並ぶ。徳川家康が建てたものである。会津飯盛山の様な思いだ。

勝頼死後三ケ月で、信長は本能寺で殺される。信長は、武田追討の論功行賞を布陣の上諏訪で行ったが、明智光秀が恥辱をうけ、不満に思った事が本能寺につながるのである。

武田三代というが、信虎は無道暴政があり、家臣団により今川氏のもとで隠居させられる。勝頼は頼りにならないとすれば、信玄一代ともいえる。戦略家であると同時に政治家で、治山治水、産業開発、民生安定、殖産事業等々を起した。

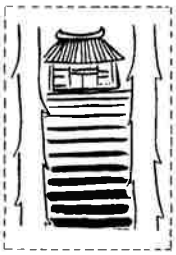
重臣板垣信方が「意のままになさるは、信虎公の百倍にもまさる悪大将」と諫めると、信玄はこれを入れ態度を改めた。勝頼は長篠の合戦前夜、三重臣の意見を却け、当月早朝再度進言する山県昌景に「いくつになっても命は惜しいものだろうな」と嘲った。昌景は単騎突入、壮烈な死を遂げる。主従の信頼関係が違っていた。郡内の諸将諸侯が織田徳川に傾斜していったのが判る。

円光院近くに河尻の逆塚がある。織田軍の先鋒として、悪逆無道の振舞いに武田遺臣民衆が捉え逆吊りで葬ったという。織田に代って入った徳川は、恵林寺その他を復興し、民生の安定と遺臣の人材活用を計った。

武田の勇将飯島虎昌隊は「飯田の赤備え」といって、軍装指物馬具以下刀の鞘まで朱色で統一した。遺臣七十四を核に再編成したのが、井伊の赤備えである。

柳澤吉保の祖も亦徳川に出仕した。六文銭の真田幸隆も長男二男は長篠で戦死するが、この二男が真田十勇士の幸村である。家康は信玄の治政を受けつぎ成功した。

信虎は今川氏滅亡後京へ上り、後、信州高遠で八十一才の天寿を完うした。信玄六女亀姫は信長の嫡子信忠と婚約するが、破談後も独身を通し、家康の計らいで八王子信松院庵主として五十六才の天寿を完うする。皮肉なことである。



初心を忘れるな

長野県中野市　上原　恵太郎

中野市のシンボル高社山（標高一、三五二メートル）の山懐に広がる南西傾斜の果樹地帯にある集落が俊春の故郷です。ここでは、赤いダイヤのサクランボ、黒いダイヤの巨峰ぶどう、真赤なリンゴ等数多くのくだものを生産しています。

中野市の市鳥であり、国の天然記念物でもある「チョウゲンボウ」の集団生息地十三崖の上に位置し、中野市を一望できるところです。特に夜景のすばらしさは天下一品で、左に志賀高原で有名な内ノ内温泉郷、眼下に中野市街地、前方に須坂、長野市と無数の宝石をちりばめたように美しい故郷です。

「親父、俺は高校を卒業したら自分の力を試してみたい。それにはこの道を進みたいんだ」といわれた時は大変驚きました。「俊春、警察官は厳しい仕事なんだよ」と母に心配されても「自分の道は自分で切り開く。警察官になって、大学へも行き勉強するんだ」と言って上京し、警察学校に入校しました。内気な妻は「大丈夫だろうか」と心配顔。「俺の子だ。きっと立派にやり遂げてくれる」と言いきせたが内心は半信半疑でした。しかし、七月奥志賀での野外訓練で助教にお会いして私達はほっと胸をなでおろしました。

そして卒業式の前夜、教官にお褒めの言葉をいただいた時は、よくやってくれたと心から嬉しく思いました。次は、大学、「やっていけるか」というと、「やるよ」と答えてくれたものの、四年間は心配の連続でした。が、それも無事卒業してくれた時は何とも言えない気持でいっぱいになりました。

しかし、私達が警察学校の感動、大学卒業の喜びをかみしめられるのも、教官、助教、神田警察署、第四機動隊の上司・同僚の皆様の深き御理解と御協力の賜物であり、心から感謝しております。

チョウゲンボウのように強く優しい警察官、東京の治安を担う警察官として立派に育つよう、上司・同僚の皆様の御指導を心からお願い申し上げます。

（警視庁四機警備係・上原俊春巡査の父親）

息子三人共警察官

茨城県大子（だいご）町　増子敏美

大子町は茨城県の北方にあり、阿武隈山脈のふところに抱かれ、その間に出来た苗代田断層線によりまして、日本三大瀑布といわれる袋田の滝、別名四度の滝の上流にありますところの生瀬という昔から有名なところです。

奥久慈のリンゴ、和牛、コンニャク、軍鶏の肉、猪肉、ヤマメなどの名物があり、袋田温泉の外に町営の温泉をと観光に力をいれており、さらに三年後にゴルフ場が三ケ所出来ます。また太平洋と日本海を結び、流通経済の発展のため横断道路を建設中です。

昭和三十年に大子町は一町九ケ村を合併し、誕生いたしました。常磐高速道が完成した後、水戸郡山線の開通、道路の改修等により大いに発展しています。現在の人口は、合併当初より減少していますが、町民一同、力を合わせ、観光と産業の発展に努めているところです。県内で一番北にある八溝山が、皆さんの元気な姿を感心して見ています。

私には男の子が三人おりますが、三人とも警察官として頑張っております。私は小、中学校の教員でしたが、四十有余年で定年退職して振り返ってみますと、子供を教え、育てるということは大変難しく、またそれだけに充実していました。それぞれの生活の道は色々ありますが、人材育成の方途は常々警察関係の各誌で述べられているとおりだと思います。信頼される明るい警視庁でありますよう、皆様方の御健勝と御活躍をお祈りし、筆を置きます。

（警視庁五機特務係・増子敏英巡査の父親）

青春

警視庁第二機動隊長　阿部長雄

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却け、勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。……」これはアメリカの詩人サムエル・ウルマンが、八十歳の誕生日に書いた「青春」と題する詩の一節である。

これまで我々が「青春」と言う言葉から受けるイメージは、精神的にも肉体的にも若い人間の生長過程の或る時期を意味しているとするのが一般的ではなかったろうか。

機動隊に奉職し、若い隊員のはつらつとした姿を見て「機動隊は青春の道場」を合言葉に、たゆまぬ自己研鑽を促しつつ自からも心身共に鍛えるべく努力しているが、ともすれば圧倒的な隊員の若さの前に、時として自分の「青春時代」を懐かしむ心境になりかけていた。

こんな時、ふとした機会に接したウルマンの詩は、自分の心に新たな活力を呼び起こしてくれた。「青春」とは「心の様相なのだ」と。

ウルマンは続けて歌う――年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ――

時あたかも沖縄国体関連警備や成田二期工事反対闘争警備など、機動隊員として活躍の正念場を迎えた今、若い隊員の陣頭に立ってこれら諸警備を完遂すべく自分の心の様相が「青春」と呼ぶにふさわしい情熱を常に持ち続けているや否やを検証しつつ、全力投球する覚悟である。

お知らせ

▽当励ます会大阪支部総会を十二月十日（木）十八時から大阪商工会議所内「ニュー国際ホール」にて開催致します。会員各位のご参加お待ち申しあげます。

▽寄付金　㈱高雄から九月二十四日付で一〇〇万円、また、匿名氏から十月二十日付で三十万円のご寄付を頂きました。厚く御礼申しあげます。

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

迅速・的確に対処できる実力養う

警察庁長官　山田英雄

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昭和六十三年の年頭に当り、機動隊員等に、平素から深い御理解と暖かい御激励を賜っております社団法人「機動隊員等を励ます会」の会員の皆様方に対し、深甚なる敬意と謝意を表するものであります。

昨年は、一連の成田闘争警備をはじめ、約二か月間にわたる沖縄国体警衛警備などの重要な警備が続いたのでありますが、会員の皆様方の暖かい御理解と御支援のもと、警視庁、千葉県警察、沖縄県警察等の関係警察はもとより全国警察が文字通り一丸となって対処し、所期の目的を達成することができました。

本年も治安の底流をなす内外の諸情勢は、不安定かつ流動的な様相を呈しており、厳しい情勢展開になることが予想されます。特に極左暴力集団等は、いわゆる成田二期工事を本年最大の闘争課題として取り組むことが予想され、今後更に「テロ」・「ゲリラ」等を含む過激な行動にでてくるものとみられます。

一方、右翼は、最近の左翼諸勢力の動向等内外情勢に危機感を強めており、情勢いかんによっては直接行動も懸念されるところであります。

このような厳しい情勢下において、全国の機動隊員等は、今後ともたゆみなく研さんを積み、いかなる事態にも迅速・的確に対処できる強靭な実力を養い、有事に際しては身命を賭してその責務を全うし、国民の期待に応えてまいる決意であります。

会員の皆様方におかれましては、今後とも国民と機動隊員等を結ぶ「心のかけ橋」として、また、機動隊員等の精神的支柱として、一層の御激励、御叱正を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会のますますの御発展と会員及び御家族の皆様方の御多幸と御健康を祈念して年頭の御挨拶といたします。

誇りと信念を持って重責を全うす

警視総監　鎌倉節

昭和六十三年の年頭にあたり、会員の皆様に新年のご挨拶を申し上げますとともに、平素から機動隊員等に対し、深いご理解と暖かいご支援をいただいていることに対し、心から御礼申し上げます。

顧みますと、昨年は、国内外において、テロ・ゲリラが多発する厳しい情勢の下、皇太子殿下をはじめ各皇族殿下の沖縄国体御臨席に伴う警衛、警護、警備、成田闘争警備など多くの困難な警備活動に携わったのでありますが、会員の皆様方はじめ、各界各層の暖かいご理解と絶大なるご支援によりまして、所期の目的を達成することができました。とに深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

昨年以上に厳しいものがありますと、さて、本年の治安情勢を展望しますと、わけ極左暴力集団は、「成田」を「階級闘争の基軸」、「反戦・反権力の砦」と位置づけ、「二期工事絶対阻止」を呼号し、対決姿勢を一段と強めている模様、「対権力・反皇室」闘争を恒常的課題に掲げ、ゲリラ主導の闘争を展開しているのであります。

また、闘争戦術では「蜂起戦」を基調に、組織の非公然、軍事化を一層強め、その手段・方法も一段と悪質・巧妙化し、武器性能の高度化が顕著となるなど、爆発物発射装置や強力な爆弾を使用した無差別ゲリラの敢行が十分予想されるのであります。

一方、右翼団体等は、国内外の政治・経済・外交・国防等の諸問題に敏感に反応し、「反体制、反権力、国家革新」の原点回帰と直接行動への指向」を段々と強めつつ運動を展開しており、情勢推移によっては、関係要人等に対する直接行動も懸念されるのであります。

これら厳しい情勢下で、治安維持の中核部隊としての機動隊の役割は、ますます重要となってくると思われます。

我が警視庁機動隊は、昭和二十三年五月二十五日、警視庁予備隊として創設され、時を得ることより地の利を得ることより、人の和を得ることが何よりも欠かせない、という意味です。

それでは、人の和は、どうすれば得られるか、ということで、私の好きな「和敬清寂」という言葉があります。これは千利休が説いた禅の心、茶の心の基本ですが、和はお互いの敬があって成り立つ、和して敬すれば誰でも清々しくなり心の安らかさが得られるということで、そうした人の集まりが、人間らしい社会を作り出して行けるのでありましょう。

機動隊員等を励ます会が、これまで年間一二か月間、一段と強めつつ運動を展開しており、情勢推移によっては、関係要人等に対する直接行動も懸念されるのであります。

これら厳しい情勢下で、治安維持の中核部隊としての機動隊の役割は、ますます重要となってくると思われます。

我が警視庁機動隊は、昭和二十三年五月二十五日、警視庁予備隊として創設され、時を得ることより地の利を得ることより、人の和を得ることが何よりも欠かせない、という意味です。

それでは、人の和は、どうすれば得られるか、ということで、私の好きな「和敬清寂」という言葉があります。これは千利休が説いた禅の心、茶の心の基本ですが、和はお互いの敬があって成り立つ、和して敬すれば誰でも清々しくなり心の安らかさが得られるということで、そうした人の集まりが、人間らしい社会を作り出して行けるのでありましょう。

機動隊員等を励ます会が、これまで年

十有五にして

社団法人 機動隊員等を励ます会
理事長　鈴木實

皆さん明けましておめでとうございます。私たちが、清清しく新年を迎えることが出来るのも、世界最高といわれる日本の治安態勢があるからだと、まずもって機動隊員等の皆様に心から御礼を申し上げます。

こうして屠蘇を祝う間も、日本の各地で、昼も夜も隊員等の皆様の、目に見えない敵との闘いが続けられていることを思い、会員の皆様ともども、なお一層、励ます会の発展に尽くしたい所存です。

この機動隊員等を励ます会も今年で十五年目を迎えます。孔子の語録の「三十にして立ち、四十にして惑わず」という句は広く知られていますが、実は、その前に「十有五にして学を志す」という言葉があります。これは、七十四才まで生きた孔子が、その晩年に語った修養の自叙のはじまりであるわけですが、このことから、世に十五才を「志学の年」というようになりました。つまり、漸く物心もはっきりし、人間としての一応の基礎が出来て、分別もつくようになった年を言うわけです。そこではじめて、学ぶということの意味を知るのです。

この機動隊員等を励ます会も、大内名誉会長の御尽力と御指導のもと、充実した発展を重ねて来ることができましたが、「志学」と同じように、会として一応の基礎が作られ、これからが、いよいよ本格的な、人間でいえば大人の人生に入る時期だと思います。

昨年は、とりわけ極左暴力の動きが激しく、われわれも機動隊員等の皆様の頼もしいお姿を、あちこちでお見かけすることも多かったわけですが、今年も大変な年でしょう。道でお会いしたら、「御苦労様」と心からのはげましの声をかけようではありませんか。

人の和に如かず

社団法人 機動隊員等を励ます会
名誉理事長　大内俊司

孟子に「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」という有名な句があります。事にあたって、天の時を得たからといっても、地の利がなかったらものにならない。また地の利を得ていても、人の和がなければ成功しない。つまり、時を得ることより地の利を得ることより、人の和を得ることが何よりも欠かせない、という意味です。

それでは、人の和は、どうすれば得られるか、ということで、私の好きな「和敬清寂」という言葉があります。これは千利休が説いた禅の心、茶の心の基本ですが、和はお互いの敬があって成り立つ、和して敬すれば誰でも清々しくなり心の安らかさが得られるということで、そうした人の集まりが、人間らしい社会を作り出して行けるのでありましょう。

機動隊員等を励ます会が、これまで年を追って発展し、充実した気持ちで新しい年を迎えることが出来るのも、その根本に和の心があるからだと思います。この会には、身分も関係なければ上下もありません。純粋に、機動隊員等を大いに励まして行こうという人たちが、お互いの精神に敬意を持ち合って会を構成している、それだから発展が続けられているのだと思います。

また、人の和で結ばれているこの会の目的も、機動隊員等との和に置かれているわけです。われわれのために二十四時間、自分を犠牲にして苦労して居られる機動隊員等の努力と実績とに深い敬いの心を持つ、そして感謝するという行為が、この会の根本であると考えます。

新年のはじめにあたって、会の本質を見直し、認識し、ますます発展させることを、お互いに期したいものと思います。

全国機動隊長勢揃い

精強部隊育成のために

東北管区機動隊
自然体の警備実施

高橋　敏也

機動隊は、警備現場において千変万化する事象に躊躇することなく、指揮官の指揮に従い一糸乱れず、果敢かつ的確に対応することが要求される。

私達は、このような精強な部隊づくりに日夜努力しているが、間近かに迫っている春の人事異動で全隊員の半数近くが入替わることとなり、管区機動隊の新しいスタートをきることとなる。そして、東北人特有の粘りと根性を活かし、ひたすら治安維持という目標に向かって汗と泥にまみれ、血の滲むような厳しい訓練の中から、東北管区機動隊の実力が培われる。

頼られる強い部隊をつくるには、訓練は勿論のこと、隊員の人づくりが必要である。そのためには、心の解け合う真の融和、血の通った鉄のように強い団結、いかなる困難にもひるまない根性、誇りある管区機動隊員としての自律心、己を研く自学の精神、を築き上げていきたい。

警察のお家芸とも言われる柔道の自然体は、守りも固くかつ攻撃しやすい構えと言われている。

治安警備実施においても、自隊防護をしながら違法行為者を制圧・検挙するという攻撃的な面も有しており、警察の「最後の砦」としての任務を果たすため、自然体での警備実施ができる強靭な部隊づくりを目指して精進したい。

関東管区機動隊
「赤いダイヤ」の下に

谷本　彰

「赤ダイヤ」それは、燃える若さと情熱、強固な団結と精強な部隊を象徴するわが関東管区機動隊のシンボルマークであり、隊員のヘルメット、大楯、警備車に燦然と輝いている。

多くの先輩隊員達が、この赤ダイヤの下で文字どおり血と汗と泥で幾多の困難な事象を乗り越えて来た。そして、いま我々がこの輝かしい伝統を受け継いでいる。

隊員は、「融和・団結・積極果敢・自律自学」の隊訓と「訓練できないことが現場でできるはずがない」「訓練で泣いて現場で笑え」を合い言葉に、今日も「赤ダイヤ」の下で黙々と訓練に励み、あるいは現場で活躍している。

今年は新東京国際空港第二期工事の本格化とあいまって、反対闘争警備も正念場を迎えるであろうと思われる。「成田」は関東管区機動隊の地元である。いかなる事態に際しても与えられた任務に全力で取り組み、職責を全うする決意である。

中部管区機動隊
成田闘争警備に向けて

吉田　善次

ポスト沖縄、愈々メインは成田である。出動する度に変貌してゆく空港内外の情景に時代の流れを感じる。昭和五十二年秋から一年半、第二大隊長として成田空港の警備に携わった。三・二六管制塔襲撃事件のあの屈辱と、五・二〇開港一番機着陸の瞬間、思わず萬歳！と叫んだあの感激は、今も脳裏に焼きついて忘れることはできない。

「開港」それは国家的な大事業である。この二文字を大目標に掲げ幾多の困難を乗り越えてその目的を達成し、「我々の手で開港にこぎつけたのだ」と云う自負心を持ち大いに士気があがった。

あれから十年、第二期工事が急速に進む中で、今度は「完全空港化」の為の警備を無事成し遂げてこそ、はじめて長年にわたる最大の目的を達成したことになるのである。

先輩達の残してくれた幾多の教訓と、尊い犠牲の上に立って、何が何んでも我々の手でその任務を完遂したい」と云う執念にも似た気持ちが湧いて来る。「成田＝海外旅行」と云った享楽的なイメージとは対象的な厳しい環境の中で、「常在戦場」常に心を引き締め、使命感に燃えて頑張って行きたい。

近畿管区機動隊
入校訓練の刷新強化

高尾　明

近畿管区機動隊は、一連の成田空港警備をはじめ東京サミット警備、沖縄国体警備に参加して、完璧にその任務を遂行したことにより、一段と精強部隊としての逞しさを加えつつあるが、さらに新しき伝統を築き、知性のきらめきのある隊員を育成すべく入校訓練の刷新強化に取り組んでいる。

隊員は、年間五十五日間の入校訓練によって、団結と連帯の絆を深めるとともに完全着装、大楯携行・六キロ駈足を中心とした連日の厳しい訓練にいどみ、涙と汗の中で修羅場に耐える一人前の隊員に成長するのであるが、機動隊等が若者の人格陶冶の場としての側面を有している以上、部隊としての精強さを追究するのみでなく、最近の若者気質を共有している隊員個々の資質向上のための施策もまた必要である。

中隊長以上の幹部による訓育、ショートアンサー試験の実施、訓練終了に伴う感想文の提出、校内生活を対象としたアンケートの実施、体力検定の実施と自主トレの推進などは、このような観点から推進したものである。

従来の訓練内容を維持し、これら施策を発展推進することにより入校訓練中の寮生活全般を活性化させ、もって、真の自主自律を備えた優れた隊員を育成することが二十一世紀に向けて組織の期待に応える私共の責務であるとの使命に徹し、たゆまぬ精進努力を積み重ねていく所存である。

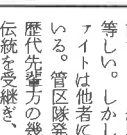
中国管区機動隊
「風林火山」戦法で

原田　志朗

孫子の兵法に「風林火山」という言葉がある。これを部隊活動にたとえるなら、部隊の離合集散は〝風の如く〟迅速機敏に行い、そして対峙するときは〝林の如く〟威風整然とし、また攻撃退避は〝火の如く〟瞬時に行い、防護すべきときは〝山の如く〟微動だにせず死守し、その目的を完遂することである。

最近の飛翔物発射・爆発物使用、あるいは部隊への奇襲攻撃などますますエスカレートする闘争手段に立ち向かうためには、瞬時の油断も許されない。細心にしてかつ果敢な部隊活動が要求されるが、我々中国管区機動隊は「風林火山」を実践理念とし、一歩でも近づくべく猛訓練を積み重ねて強靭な体力・精神力を養い、荒れた現場に強い精強な部隊の育成に努めてまいりたい。

四国管区機動隊
「四国は一つ」の団結力



高木　辰夫

四国管機は、各管機随一の小数部隊であるが、〝山椒は小粒〟のたとえどおり、小数精鋭の精強部隊を目指し、空海ゆかりの地善通寺市所在の管区学校において「猛訓練汗と涙に実る成果」を合言葉に、日夜厳しい訓練に汗を流し実力の涵養に励んでいる。

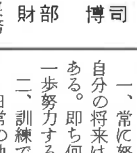
昨年は成田をはじめ、佐賀県植樹祭、沖縄国体警備と三度にわたる県外出動によって貴重な体験を積むとともに、重責を果たした誇りと自信を培った。

本年は香川県において全国植樹祭が開催されるとともに、一〇〇万県民の夢が実現して瀬戸大橋が開通され、時代の大きなうねりの中で瀬戸大橋時代を迎え、有事即応の集団警備力がより高く要請されることとなる。

一方、「二期工事阻止」に対決姿勢を強める極左暴力集団各派の熾烈な反対闘争等成田をめぐる諸情勢は昨年にも増して厳しくなることが予測される。

瀬戸大橋時代への幕開けの年を迎えるにあたり、これらの諸情勢を踏まえて隊員一同決意も新たに、「四国は一つ」の仲間意識のもと、強固な絆に結ばれたより精強な部隊を目指して一層の練成に励み、私たちに寄せられる期待に応える所存である。

九州管区機動隊
信頼される管区隊



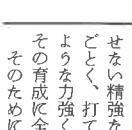
財部　博司

我が九州管機一大隊は、実務経験が浅いうえ若い者が多い。それ故に活気に満ち、勤務意欲旺盛な者ばかりである。厳寒酷暑、峻険泥濘をいとわず、ひたすら任務に邁進する姿がある。いわんや剣電弾雨の中でも雄志を振るい、職務を完遂することを疑わない。

この中にあって私、隊長は新前である。経験と技術は皆無に等しい。しかし、職務意欲とファイトは他者に勝ると自認している。管区隊発足以来十八年、歴代先輩方の幾多の功労による伝統を受継ぎ、昨夏は無事、沖縄国体の警衛警備を全うした。本年も成田、関空等の警備情勢は極めて厳しく、これに対処するであろう者として、出動・訓練の場を通じ

○厳しい条件に耐え得る体力と気力の伸長、○悪口雑言に微動だにしない精神力の養成、○情勢に応じ機敏に反応する感覚の涵養、○常に向上を求める心と創意工夫の心、○一糸乱れぬ団結力と規律の厳守、を掲げ、地味な中にも光を放ち、全幅の信頼を受け、期待される隊長となり管区隊へとしたい。

北海道警察機動隊
北の精鋭ここにあり



石川　岩雄

北の都、札幌に精鋭が集う我が機動隊は、「正義・融和・根気」を隊訓と定め、日夜職務に精励している。

集団警備力の中核部隊である機動隊が警察活動の「最後の砦」といわれる所以は、各級指揮官をはじめ隊員一人ひとりの真剣な努力、そして汗と血と涙による「ひたむき」な訓練の成果によるものである。

機動隊長として過ぎ去りし日々を思いおこし隊員諸君に望むことは、

一、常に努力を忘れるな――自分の将来は自分が決めるのである。即ち何事にも着実に一歩一歩努力することである。

二、訓練で泣いて実戦で笑え――日常の弛まぬ訓練こそが実戦の糧である。実戦では一つの手抜きも許されない。

三、常に勉学に励めよ――隊員には若さがあり、バイタリティーがある、若いうちに知識を貯えてほしい。

おわりに皆に贈る言葉として「順境に在りて驕らず、逆境に在りて怯まず」の精神を忘れることなく、我が機動隊ここにありの意気のもと、一日一日を真剣に取組んで、北の治安を守り抜く精強な部隊となることを念願し、健闘を祈念する。

青森県警察機動隊
雄飛

白取　栢

みちのく津軽路にある我が隊は、極めて士気旺盛である。成田空港・沖縄国体警衛警備をはじめとする数々の県内外の出動いずれも融和団結の名の下に任務を遂行した。

六十三年、我々の任務は、さらに重要性を増し多くの出番がやって来るだろう。『いかなる困難な事態があろうとも、心理的にも肉体的にも絶対弱みをみせない精強な部隊』『寺の鐘のごとく、打てば響き余韻のある力強く自信に満ちた部隊』その育成に全力を傾注したい。

そのためには、警備部隊のプ

ロとしての忍耐力・精神力の涵養、プロとしての警備実施技術の研鑽、そして隊を人格陶冶の場として、社会人としても立派な警察官の育成を目指し、指導していきたい。

隊員一致団結して盛んに活動するという意味の〝雄飛〟それが今の我が隊に結びつく言葉と思う。自分自身、厳しく治安情勢を洞察し、日々たゆみなく自己研鑽し頑張る覚悟である。

岩手県警察機動隊
燃える若虎たち

星　仁見

「強く・明るく・頼もしく」の隊訓のもと、精強を誇るわが若虎部隊はきょうも一丸となって、訓練に文武にと涙と汗にまみれている。

「若虎」は、当隊のニックネームで、警備車・大楯・ヘル等に表した「虎」のマークは、誇りと使命感に燃える勇猛果敢なわが隊員の象徴である。

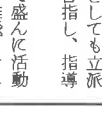
昨年は、沖縄国体警衛警備をはじめ成田出動等の重責を全うすることができた。加えて61・10・12中核派盛岡アジト（地下軍事工場）摘発後の報復ゲリラ等に備え、若虎は力を結集して日夜警戒警備に全力投球するなど各種警備に成果を得た。

また、岩手山での学生遭難者の救助、河川転落者（車両）の捜索等機能別部隊の数多くの活躍、更には管区内柔道大会で準優勝をかちとる等消防の健闘と昇任試験の高い合格率等文武両道に目ざましい成果を収めた。

新年を迎え、治安情勢は昨年に引き続き一段と厳しく、いささかも予断を許さないものと考えられるが、わが若虎部隊は警察活動の最後の砦として決意を新たにし、「訓練で泣いて実戦で笑え」を合言葉に一層精進し、有事即応の体制で県民の期待と信頼にこたえたい。

当面は本県最大の課題である二月の第四三回冬季スキー国体に伴う警衛警備でその真価を発揮せんと意気盛んである。

宮城県警察機動隊
共に伸びよう



大累　勝弘

最近、インフルエンザ予防接種離れが話題になっているが、新型ビールスにワクチンが追いつけないのも一因のようだ。国家社会を破壊する輩をビールスに例えれば、我々は今日のワクチンのようにその威力に疑問視されるようであってはならないと痛感する。

「千人の敵に克つより自分自身に克つ者こそ真の強者」と言われる。即戦部隊として県警のてっぺんに位置する我々機動隊にとって、完全優勝で当然、一敗のとりこぼしも許されない厳しい責務を負っており、国民の期待に確実に応えるためには、それ相応の十分なる力量を常に蓄えておかなければならない。

特に大切なことは克己心が旺盛であることだと思う。もはや敵は正面から喚声をあげて攻撃するパターンは無くなった。本年はどの方向から攻撃されても対応できる「打てば響く」から、さらにもう一歩先を読んで行動に移せるスピードとパワーを兼ね備えた「打つ前に反応する」部隊づくりを目指し、またお互いの長所を見い出しながら「共に伸びよう」を合言葉に、自己の中にまだだ眠っている宝を発見し、大いに磨き出して行きたい。

秋田県警察機動隊
百術不如一誠

平野　幹次

隊員として四年、小隊長として二年を過ごした機動隊には、特別の恩義のようなものを感じている。当時、若さだけがむしゃらに過ごしていた私にとって、〝鬼〟と思った厳しい幹部がふと見せた涙や、暗やみの中でさく烈する火炎びんの炎の中で唇をかんだ同僚の横顔などは、その後の私の人生に多大の活力を与えてくれた。

そんな私が三度の機動隊勤務を命じられたのは昨年の三月十日、私は、早速「百術不如一誠」としたためた色紙を額に納めて赴任した。

〝百術は一誠に如かず〟、幕末の教育者吉田松陰が松下村塾に掲げて教学の柱とした言葉であり、いかなる困難をも打破して〝誠〟を貫く精神は、数多くの維新の指導者を育くんでいった。

かつての自分がそうであったように、私の後輩達はいま人格形成上極めて重要な時期にあり、ここでの生活が彼らの将来に、大きな影響を与えるに違いないと思う。私の責任は重大だ。そんな思いから、自分自身の修養と隊員に少しでも浸透できればと、この色紙を選んだのである。

そして願わくは、松下村塾にあやかって将来の秋田県警察を担う人間が続々と現われないものかと思う。

山形県警察機動隊
機動隊精神

板垣　隆

本県機動隊は、発足以来二十八年目を迎える。その間、幾多の変遷を経ながら、隊員は、多くの現場を経験し、国及び県内の治安維持に貢献して来た。そして、多くの隊員が除隊後それぞれ専務係の中堅として、また幹部として育っている。

これらの隊員一人ひとりを支えているものは、伝統的に言われる機動隊精神である。

機動隊精神とは、強さ（剛健）であり、明るさ（明朗）であり、誠実さ（誠実）である。機動隊の機動隊たる由縁は、警察の最後の砦、集団警備力の中核としての精神強さにある。その強さを支えるものは、厳しい訓練と明朗にして融和団結、血の通った組織体としての心と心のつながりであり、隊員一人ひとりの責任感、誠実さと忍耐、豊かな教養である。

機動隊は、警察学校の初任教養に継ぐ青年警察官育成の場であると思う。隊生活の中で、厳しく自らを律するとともに、勉学に励み、肉体的な強さと精神的な逞しさを身につける場である。新年に当り、改めて機動隊精神を育てていく決意を強くしたところである。

福島県警察機動隊
愚直に徹する

八巻　力夫

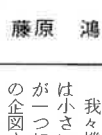
一昨年の暮、小名浜港が再びソ連漁船の寄港地と決定されて以来、我が隊は、例年に数倍する緊張と慌ただしさの中で、心身ともに充実した一年を過すこととなった。

それは、当初からの予想どおり我慢の警備であった。ピーク時には、全国から約百団体、百八十台の街宣車が押しかけ、異様な彩色と激越なスローガンを掲げた車のどれもが、アンプの限界性能を競い合うかのように、独善の主張を絶叫しながら、人口七万余の狭い港町を走り回った。警備部隊への心ない嘲罵は、それを叫ぶ者自身の品性の表れとして、むしろ憐れみをもって失笑に付し得たが、我々が不眠不休で守った漁船員からさえも、非友好的との抗議が寄せられたという。

だが我々は、ひたすら愚直に徹した。違法行為には、躊躇なく制止より検挙を選んだ。どんな風雨の深夜にも黙々と岸壁に立ち続け、海から忍び寄るゲリラも、幾度となく阻止することができたのである。

愚直に徹することこそ、機動隊員の真骨頂ではないだろう。

警視庁第一機動隊
強く凛凛しく



藤原　鴻一

皇居のほとり、北の丸公園の一角に位置する第一機動隊は、昭和八年に警視庁特別警備隊として発足して以来、五十四の歴史を有し、「近衛の一機」「旗本一機」と呼ばれて、首都東京の治安を担ってきた。

隊訓は、「誠実・融和・忍耐」。隊員はこの言葉の下、幾多の先輩が営営として築いたよき伝統を受け継ぎ、精鋭機動隊の中核たらんとして努力している。

変革と多様化が進む今日、日々の警備事象もまた変貌し、過激さもその度を加えている。こうした変化を機敏に洞察して、これに対応する的確な警備を実施し、テロ・ゲリラを始めとする社会不安を鎮静・一掃して国民の期待に応えることこそ、今、われわれ機動隊に求められているものと厳粛に受けとめている。

目標を高く掲げ、団結のきずなを深め、智恵を出し合いながら、真に強く、真に凛凛しい機動隊を目指して、隊員ともども燃焼してまいりたい。

警視庁第二機動隊
今年もプラス思考で

阿部　長雄

水が半分入ったコップを見て「もう半分しかない」と考えるか、「まだ半分ある」と見るかで、物の価値感が大きく違ってくる。

前者は「マイナス思考」、後者は「プラス思考」と呼ばれているが、機動隊員としての職務を遂行する中でも、自分に課せられた任務にどの様な考え方で取組むかによって、その充実感が随分違ってくると思う。

「こんな辛い思いをしながら何の役に立つのか」とマイナス思考で捉えると、夢も希望も見出せないだろうし、反対にプラス思考で取組めば「国の治安を己が双肩で担う」との充実感が得られると思う。

我々機動隊員一人ひとりの力は小さいながらも、みんなの力が一つになれば、極左暴力集団の企図する不法事犯は必ず封圧出来る。

今年も与えられたそれぞれの仕事をプラス思考で捉え、愚直に遂行し、「治安の維持」と言う重大な責務を全うして行きたい。

警視庁第三機動隊
訓練の蓄積

谷口　俊一

目黒駒場の地に、隊が創設されて以来四十年、一度も移転したことのない第三機動隊、当時の環境から「埃の三機」と呼ばれた愛称も、今では「誇りの三機」として定着した。

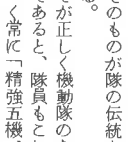
桃太郎のマスコットが示す隊風、相手の身になって物事の考えられる優しさと、いざと言う時何ものをも恐れず敢然と立ち向かう勇気は、先輩達の幾多の努力により築かれ、今も綿々と続いている。

常在戦場の情勢下での六十二年も、R警備をもって締めくくったが、訓練に泣き現場で笑えの合言葉も、重防等警備の連続で、ややもすれば、迫力を欠きがちであった。

本年も我々を取り巻く警備情勢は予断を許さないが、現場での自信につながる訓練を重点として進めなければならない。真に強い機動隊、その根底にあるものは、普段の訓練につぐ訓練の蓄積にある。

原点に返り、歩いた道を見る、冷静な目で反省をする、そしてその上に立って、工夫をこらして反覆訓練し、自分のものとする。これによってこそ、精強な部隊を作れるのである。自信に満ち、余裕をも感じさせる部隊、これこそが真に都民に信頼される機動隊であることを肝に銘じて、一層の努力をしていきたい。

警視庁第四機動隊
新たなる決意



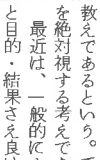
伊藤　忠雄

昨年の当隊は、都内はもとより成田、沖縄の各地で沖縄国体関連警備をはじめとする重要警備に従事し、治安維持の一翼を担うことができた。それまでの道のりは、厳しいゲリラ情勢を反映して極めて長く、険しかったけれど、任務達成時の喜びはひとしお大きなものがあり、さわやかな満足感を抱きつつ新年を迎えるところである。

本年も極左各派は、「皇室」「成田」を中心に強力な爆発物・飛翔物を使用する機会を狙い続けるであろう。極左と正面から対決してゲリラを完全に封じ込めることこそ、「警備のプロ」たる機動隊に課せられた使命である。

「警備のプロ」として、更に隊員一人ひとりの使命感を高め、いかなる勤務にも耐え得る強じんな体力・精神力を養い、部隊活動の練度を向上させるなど、精強四機を確立すべく決意を新たに取組む覚悟である。そして、この成果をいかに困難な警備において、もてる力に発揮して、重責を全うするとともに、機動隊に心からの理解と信頼を寄せる多くの人々の期待に応えていきたい。

警視庁第五機動隊
治安のプロ目指して



城ケ崎　成男

治安のプロ、次代の警察を担う若人の修練の場、それが我が機動隊である。そのために、日夜豊かな人間性と良識の涵養、強靱を体力・気力の練成に汗を流している。

我が隊は、創設三十七年を経てこの間、先輩が幾多の試錬・苦難を克服し輝かしき業績を築き、それが素晴らしい伝統として継承されている。それは、いつしか〝精強五機〟〝学の五機〟の愛称で呼ばれるようになり、この異名そのものが隊の伝統となっている。

これこそが正しく機動隊のあるべき姿であると、隊員もこれを継承すべく常に「精強五機、学の五機の伝統を堅持し、限りない前進をしよう」を合言葉に精進しており、それが隊の指導指針でもある。

我が隊が常に心していることは、豊かな人間性の形成と職業人としての責任ある行動の励行である。時代に相応しい良識と洗練された容姿・礼儀・規律を身につけた凛凛しい機動隊員を、そして組織の一員として課せられた任務を自覚し、責任ある行動を誓い合っている。

そして、治安のプロとして技と体力・気力の養成に、絶え間なく訓練に武道に勉学に励み、若さと活気に満ちた治安のプロ集団を目指して、国民の期待に応えるべく一丸となって邁進している。

警視庁第六機動隊
方便

舟川　明和

新年早々〝うそも方便〟などと云うと、お叱りを受けそうだが、お許し願いたい。〝うそも方便〟は、仏教の教えの言葉である「方便」が転じた一般用語であるという。仏教でいう「方便」とは、目的に向かって無限に近づく、その歩みが大切との教えであるという。手段・過程を絶対視する考えである。

最近は、一般的にやっもすると目的・結果さえ良ければ、手段・過程はどうでも良いという考え方や生き方がみられる。警備に従事する者にとって、心すべきことである。

警備実施に例をとってみょう。実査・計画・戦術会議・訓練等の一連の手段・過程に全力投球し、警備完遂という目的に向かって無限に近づいたうえで、結果が「完遂」。一方、実査……訓練といった手段・過程で手抜きし、結果として違よく「完遂」。手段・過程は異なっても、結果は「完遂」である。「方便」的思考からすると、前者は手段・過程を重視し、「完遂」に向かって無限に近づいたうえでの完遂であり、後者は異なる。

警備情勢が一段と厳しい年を迎えて、機動隊の諸任務遂行に当り、「方便」～目的に向かって無限に近づくその歩みを大

切に努力していくことが、警備警察に携わる者として、真に大切なことと信じている。

おわりに、「励ます会」のますますのご発展を祈念するとともに、今後とも変らぬご支援をお願いする。

警視庁第七機動隊 基本に返る

昭和　井上　美

昨年七月に警視庁第七機動隊長を命ぜられた。昨年は、沖縄国体関連警備等の重要警備を無事完了したが、本年も、極左暴力集団による対権力闘争、成田闘争等、警備情勢は厳しいものと思われる。

当隊にあっては、治安警備・重防警備等どのような形の警備にも対応できるよう基本に立ち返り、「訓練に泣き、現場で笑う」べく、各種訓練を徹底し、精強無比なる機動隊作りに励みたいと思う。

また、機動隊は若い隊員の集まりである。警備を的確に行うためには、集団としての部隊が精強であるということだけではなく、隊員一人ひとりが豊かな人間性を持った優れた警察官でなくてはならない。次代の警察を担う警察官の育成という観点からも、人間修養、教育の場としての機動隊作りに隊員共々更に誠心努力してまいりたい。

警視庁第八機動隊 真の勇気

勝股　良

副都心の新宿若松台に当隊が発足してこの一月十日で満十九歳、「融和・積極・練成」の隊訓のもと幾多の困難な警備を遂行し、先輩の血と汗と涙によって築かれた伝統を継承し、万全の警備力を確保するため今日も厳しい訓練が続く。

精気に満ちた隊員は、自己の目標を達成すべく多忙な合間を柔剣道や勉学に励み、心身の鍛練に努力中だが、ウェイトリフティング、相撲部等は国体をはじめ各種大会で優勝するなど士気の高揚は著しい。

治安をめぐる情勢は大変に厳しいものがあり、中でも治安情勢に大きな影響を及ぼしている極左暴力集団は、時限式爆発物や飛翔物等の武器を使用した手段方法もますます凶悪化の一途を辿り、一般市民を巻き添えにしたテロ・ゲリラを敢行して社会不安の増大を企図している。

これらの事案の防圧検挙と根絶のため、一層強靱な警備体制の確立を目指し隊員ともども精進して、八機全隊員が真の勇気と鍛え抜いた力を結束させ、断固たる対決姿勢で望み、何時如何なる警備事象にも周知綿密な対策と迅速な措置を図り、都民の平穏と安全を守るため全力を尽くす覚悟である。

警視庁第九機動隊 困難は我が友なり

安部　義男

「困難は我が友なり」は、早稲田大学創設者大隈重信の言葉である。困難は避けてはならないという意味であるが、もう一歩踏み込んで考えてみれば、困難を避けることは人生を避けることと同じである。

「困難」の二文字は、生あるかぎりついて回るものであり、これをいかにして乗り越えて行くかに困難克服の妙がある。誰もが少なからず経験したことはあると思うが、事を成し得た後の満足感は、心一杯に広がる涼風の味わいがある。涼風を味わえるか、味わえないかは、つまるところ心の持ち方一つである。

機動隊は困難を避けて通ることは許されない。なぜならば、機動隊は国を支える屋台骨であり、治安の最後の砦という崇高な使命を帯びているからである。

「近づかなければ、近づけない」の言葉どおり、困難を友に例えて、素晴らしい友を得ようとするなら、自ら積極的に近づいてゆく気概が必要なのである。素晴らしい一年になるよう、共に頑張ろう。

警視庁特科車両隊 小数点以下の勝負

石田　博美

過去の警備は、何万、何十万の暴徒対機動隊を中核とする警察部隊の集団警備力との勝負が中心であった。従って、最大公約数的感覚で対処出来た。ところが最近は、極左の動員力も低下し、最大派閥の中核派ですら全国動員で三千名を確保するのがやっとと言っていたらくである。僅かに二百名足らずの革命軍によるゲリラで、死中に活を求めているに過ぎない。いわば小数点以下のところで蠢いている感じである。

だが、これがなかなか侮れない。武器も飛翔弾から圧力釜爆弾までエスカレートしてきている。これを封圧検挙するのは大変に骨が折れる。目が届きにくい小数点以下で勝負しなければならないからだ。従って、大様に横綱相撲を取ろうとすると不覚をとり易い。勝負の分れ目は小さい不審点の見つけ方にかかっている。

しかし、必ず勝てると確信している。そのためには、現在警視庁が行っている種々の対策を、地道に且つ完全にやり切ることが前提となる。あいまって機動隊もその中枢を担って、すべての隊員が与えられた任務を、沖縄国体関連警備のスローガン〝一人一人が警備の主役〟的意識に徹しつつ完璧に全うする必要がある。

六十三年はおそらく、集団警備力発揮の場は成田、小数点以下の勝負は都内となろうが、そのいずれにも、頑張って行く決意である。

茨城県警察機動隊 地道なトレーニングを

荒井　農夫男

機動隊の諸活動は、体力が大きなウエートをしめている。その体力には、行動体力と防衛体力とがあり、我々機動隊員は、どちらの体力も備えていなければならない。

行動体力とは運動能力のことで、瞬発力・持久力・調整力であり、防衛体力とはストレスに対する抵抗力のことであって、ストレスには、高温、強風などの物理的なもの、細菌、ビールスといった生物的なもの、空腹・不眠・疲労といった生理的なもの、緊張・不安などの精神的なものであるといわれている。

このような体力を備えるためには、日常のトレーニングが不可欠である。警備現場では、体力・技術・精神力のすべてが要求され、個々の隊員の持っているものがトータルに問われる事になる。日常生活そのものを、肉体・精神面のトレーニングの場と考え、努力しなければ備わるものではない。トレーニングは、毎日の生活の中で、工夫次第でできるものであって、機動隊員としての自覚そのものである。

この工夫する姿勢が現場で活きてくると同時に、よき社会人として成長する糧となる。しかし、この日常のトレーニングはあくまでサブであって、主は平素からのたゆまぬ訓練で汗をかき、さらに日常生活の場でトレーニングを積むことが、精強な隊員として、またよき社会人として成長する道と信ずる。

栃木県警察機動隊 県機の存在価値

塩田　和男

「頼られる機動隊となれ」、これは私が隊長となった時の初訓示の一項目である。もちろん、我が県機が頼りない隊だというのではなく、より精強となる為、勉学に訓練に励めと強調した際に、ふと口から出た言葉であるが、何んの為に勉強し訓練するのか、その目的はなど、隊員なら皆知っている。

理屈ぬきに、警備部隊のプロとして精強でなければならないの警衛や重防警戒をはじめ極左デモに対する治安出動、暴力団対立抗争での捜査活動、死亡事故抑止に伴う交通指導取締り、更には水難救助へと機動隊の集団警備力を十分に発揮し、めざましい活躍をした。いわゆる頼りがいのある県機として、その存在を大きくアピールした。

県機のシンボルマークは「やしおつつじ」（県花）である。この花は、毎年四月中旬から五月上旬にかけて、県内の山岳地帯に自生するツツジ科の落葉低木に咲き、若葉の芽がふく前の枝の先端に、白色、淡紅色、濃紅紫色等の雄姿を現わすもので、その様は、若葉を持ちかけた木木に対し、己の存在を誇示するかのように見える。

今年もまた、このシンボルマーク同様、己の存在を誇れる県機であるよう、一層の磨きをかけて行きたい。

群馬県警察機動隊 伝統の伸張を目指して

市場　昌平

我が隊は、少数組織であるため、隊員一人ひとりが爆処理、水難、レンジャー、スキー等の機能別訓練をマスターし、一人数役を兼ね、いかなる不測の事態にも適切に対処し得る精強な部隊であることを目標に、日々訓練に努めている。

伝統は人が築き、伝統が組織を形成するといわれるが、組織のあるところ必ず先人の築いた伝統と歴史がある。

赤城、榛名、妙義の上毛三山を形どった襟章を誇りとし、先人の労を偲びつつ輝かしい伝統の上にあぐらをかくことなく、知恵を出し、努力を重ねて毎日の勤務に訓練に先人以上に汗を流し、一丸となって練度の向上を図り、県民生活の安全と平穏な生活を護る県警の尖兵として、県民から愛され信頼される機動隊づくりを目指している。

埼玉県警察機動隊 全一の一

新井　康夫

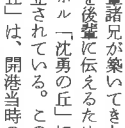
昭和六十三年は、あらゆる面で「厳しい年」と言われ、集団警備力の要としてのわが機動隊の真価を問われる重要な節目の年になると確信する。

この厳しい情勢に的確に対応し得る「機動隊の力」とは何であろうか。それは言うまでもなく、隊友一人ひとりである。一人ひとりが持つ体力・気力を基盤として、日々変化する事象に臨機応変に対応する為の「知識・技術」等々その個人の力が組織のエネルギーとなり、さらに組織を活性化する。〝組織は人なり〟と言われるゆえんは、そこにあると思う。

「全一の一」ということばがある。物事をなすに当っては、常に最善を尽くせという教えである。十の波には十の力、五の波には五の力を持ってこれを乗りきること、すなわち常に一生懸命、トータル〝一〟の力を尽くすことである。

要は組織人としての一人ひとりが、いかなる事象にも最善を尽くせるだけの力を、常に吸収し養っておくことが大切である。本年は、これらのことを基本として、集団警備力のより向上に努め、部内外の信頼と期待に応え得る組織作りに努力したい。

千葉県警察第一機動隊 使命感に徹する



青柳　義俊

当隊は、治安警備の中核部隊として主に日本の空の表玄関成田空港の安全運行の確保と空港関連工事の警戒警備に従事している。

成田空港も開港して十年を迎えるが、いまだに空港周辺には極左暴力集団の団結小屋が点在し、各セクトの構成員が常駐して連日集会やデモ行進を繰り返し、空港内に突入する機会を窺っている。極左暴力集団は、常に部隊の動きを見て部隊の力量を計っており、隙をみせれば発射弾を打ち込み爆発物をしかけ、部隊に対し直接攻撃してくる。

このような厳しい情勢下で警備の万全を期すためには、空港の安全は我々が守るという使命感が隊員一人ひとりの胸の中に燃えたぎることが大切である。使命感に徹すればこそ、何事をも恐れない勇気とどんなときにも挫けない不撓不屈の闘志が生まれてくる。

我隊も日々変化する社会情勢に素早く対応できる規律厳正を、さらには違法行為は徹底検挙する現場に強い精強部隊となるため「強く、正しく、明るく」を合言葉に訓練に励み国民の期待に応えていきたい。

千葉県警察第二機動隊 「成田」・今年は正念場

池田　茂

今年、成田空港は開港十周年を迎える。一昨年秋開始された完全空港化への動きは、今年、大きく進展するものとみられる。一方これに反対する諸勢力、とりわけ極左暴力集団は、ゲリラを主体に一層熾烈な阻止闘争を展開することが予想される。

「いよいよ成田は正念場」というのが実感である。

過去幾多の先輩達は、文字通り血と汗と泥にまみれながら、その使命を果たしてきた。当隊では、先輩諸兄が築いてきた栄光と伝統を後輩に伝えるため、隊のシンボル「沈勇の丘」に記念碑が建立されている。この「沈勇の丘」は、開港当時の本部長、中村安雄氏の命名によるもので、「沈勇」とは、いかなる事態に遭遇しようとも冷静沈着、何ものをも恐れぬ勇気、すなわち「真の勇気」を表わしている。

隊員はこの記念碑の前に立ち、先輩の苦労を偲びながら「よし俺もー」「俺達もやらねば！」と使命感に燃えている。正念場を迎えて、隊員ともども決意を新たにし、今年も成田空港の安全確保に全力投球をしていく所存である。

新東京国際空港機動隊 備えあれば憂いなし

篠崎　映介

年頭に当たり、成田空港をとりまく諸情勢を展望すると、完全空港へ向けての諸工事は引き続き着実に進められるものと思われ、一方極左暴力集団は、集団武闘・対人対物ゲリラ等、ますます凶悪無差別な反対行動を行うことも十分予想される。

当隊は、どのような情勢下であろうと、引き続き特別出向隊員を含め、一致団結して「備えあれば憂いなし」をモットーに、新東京国際空港の安全確保のため、万全を期する覚悟である。

このためには、予想されるあらゆる事案を防圧するための部隊運用を含めた「事前対策」と、事案が予想され、または発生したときに的確に対応して、違法行為に対しては完全検挙が図れる「警備戦術」と、さらに、それを現場で立派に遂行できる「部隊練度」の三者が、最低限度必要なことはいうまでもない。

本年も、隊長以下全隊員が、それぞれの立場で知恵を出し、額に汗して愚直に任務を遂行することを誓いあい、名誉ある任務を完遂したい。

神奈川県警察第一機動隊 やれば出来る

佐久間　順也

成田空港第二期工事の本格化に伴い、飛翔弾、火炎放射器、圧力釜爆弾とエスカレートする武器、一段とゲリラ指向を強める極左暴力集団各派の動向等、本年の警備情勢は益々厳しさを加え、予断を許さぬものがある。

これら緊迫の度を加える厳しい警備情勢に対処していく為に、

部隊としてはあらゆる事態に応じ得る実力を備える事が肝要であるが、私は、基本的に部隊の構成員たる隊員個々の資質向上が緊急不可欠な要素であると確信している。

教育の要は、重複と圧力にあると言われるが、私はいわゆる根性論に陥るの弊を避けながらも、常々、精神力、気力の優位を説き、「やれば出来る」「やる気がなければ何一つ実現できない」と平易な言葉を選んでくり返し教養し、過酷とも思うが、日課として武道、サーキット・トレーニング、ウエイト・トレーニング、学習の四者を課し、体力、気力、判断力等個々の実力向上を図っている。

着任に当たっては、幾多の先輩が築きあげてきた隊風、伝統を継承し、発展されるべく「常に精鋭たれ」「団結を図れ」「知行合一たれ」の三点を掲げ、その実践を求めてきたが、今後ともこの指針を堅持していきたい。

神奈川県警察第二機動隊
的確に対処するために

小川　幸雄

我々機動隊が対処すべき警備事案は、世の中の激しい移り変りに伴って、いろいろと変化してきており、特に最近は、いつどこで何が起きても不思議はないと言われているとおり、我々の経験したことのない事案が次次と起きている。

こうした事案に的確に対処するため、私は、常々次のようなことを口にしている。

○警備現場で自信とゆとりが持てるのは、訓練を積み重ねたかどうかで決まる。訓練は厳しく絶対に手を抜くな！

○和のないところに強い部隊は生れない。お互いに人格を尊重し、融和団結を図れ！

○幹部は、自己規律を強め、陣頭指揮をとれ！

○隊員一人ひとりが、自己の目標を設定しその実現に向けて全力を尽くせ！

○先輩が築きあげた歴史と伝統に学べ！

本年も一段と厳しい警備情勢が予想されるところから、訓練に訓練を積み重ね、いついかなる事態が起きても迅速的確に対応し得る精強部隊を目指し、更に努力していきたい。

新潟県警察機動隊
やる気と根性

井村　敏英

いかなる職業にあっても、やる気と根性がなければ、与えられた任務を遂行し責任を果たすことはできない。国民生活の安全と平穏を守り、治安維持の責務を担う警察官にとって、やる気と根性は、責務遂行の源である。

やる気とは何事にも積極的に取組む意欲であり、根性とは強い精神力に支えられた努力の継続であるが、人間いかに頭が良くて能力があっても、やる気と根性がなければ物事は成功しない。

我々機動隊員は治安維持にあたるプロとして、その責務を全うする責任がある。プロである以上、アマと違った厳しさが要求され、単に知識や技術が優秀であるというだけではプロと言えない。プロとは、不断の努力によって必要な知識技術を身につけ、与えられた責任を果たすことでなければならない。そこには中途半端、いいかげんな仕事やわがままは許されない。

私達の毎日の勤務の過程には、楽な仕事や楽しいことばかりでなく、むしろ困難なこと、辛いことの方が多いかも知れない。しかし、困難や苦労に敢然と立ち向かい、最善の努力を傾注してこそ目標が達成され、将来の展望も開けてくるのである。そして「俺はやった」というさわやかな満足感こそ真の働きがいである。

自ら選んだ警察官、そして多くの警察官から選び抜かれた機動隊員としての誇りを持ち、やる気と根性で、国民の期待と信頼に応えたい。

山梨県警察機動隊
挙り起て「武田菱」

神宮寺　守

新年の抱負は、有事即応体制の確立と多数隊員の昇任試験突破である。

少数精鋭主義の県機「武田菱」は、集団警備力の中核であると同時に、精選機能別部隊員でもある。そして、いかなる事象にも迅速的確に対処し得る精強機動隊を合言葉に、全員がスペシャリスト集団としての気概に燃え猛訓練を積んでいる。この煮えたぎるエネルギーは、日常の特訓と相俟って、必ずや昇任試験の大量合格に結びつくものと確信する。

私の信念は「為せばなる為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」に尽きる。

隊員の指導方針としては先憂後楽を隊是とし、自己の管理目標達成に向け不断の努力を続ける。このため幹部に対しては、鉄は熱いうちに打て、部下の指導育成は幹部の責務であり義務である、それは本人のため組織のためなのだ、との確たる信念をもって鍛えよ、としている。隊員に対しては、若いうちの苦労は買ってもせよ、と教えている。

機動隊は登竜門である。与えられた飛躍のチャンスだ。積極果敢に邁進せよ。道は必ず開ける。最後に好きな言葉、「初心忘るるべからず」を肝に銘じている。

長野県警察機動隊
心を一つに

樋口　幸美

当隊は、昨年創設三十五周年を迎え、本年は機動隊舎が歴史の町「松代」に移って五年目の節目を迎える。この年に当たり、先人の築いてきた伝統を継承し、「昨日の我に飽きたり」の精神で、有事に備えて訓練を重ねていきたい。

当隊の小隊長以上を除く全隊員は、柔・剣道、けん銃特練生と山岳、レスキュー隊員のいずれかに所属している。このため、融和団結に心がけ、警備活動に際しては常に、全隊員の動作が指揮官一人の動作に見えるところまで到達していなくてはいけないと思っている。そして、その姿が、最強の部隊の姿であり、それは芸術にも等しく、見る人に畏敬の念をも与えるものであると信じている。

この最強の部隊は、全隊員が相互に個性を尊重し、「全隊員は一人の隊員のために、一人の隊員は全隊員のために」の精神で、心を一つにしなければできないものである。本年も、これを目標に進んで行きたい。

静岡県警察機動隊
変幻自在な部隊活動

稲葉　忠博

前回の辰年は、管機の中隊長として開港警備までの二年間、ちょうど一回り違う隊員と夢中になって北総の台地を駆け回った。それから十二年経た現在は、二回りも違う隊員と完全装備で汗を流し頑張っている。

「辰」＝「竜」、古代中国人が想像した変幻自在の霊獣で、頭に角があり、胴は大蛇のようで鱗があり、鋭い爪の四足をもち、春分には天にのぼるという。

昭和三年生まれを昭和初代の竜とすると自分は二代目、鱗も次第にはがれ色あせてきた。しかし当隊には、四代目の銀鱗輝く逞しき青年竜が十五人、いまにも天にのぼる勢いで活躍している。

在隊三年目を迎える中堅隊員で、この辰年の前後を合わせると幹部を除く隊員の五〇パーセント以上を占める。部隊として、強いも弱いもこの辺の錬度いかんにかかってくる。

いよいよ「成田二期」の本格化に伴い、機動隊もかつての開港前夜のように全国規模の出陣となろうが、あれ狂う極左集団の集団武装闘争や「ゲリラ」戦の現場に臨んで、これら精鋭が、自己の管理目標達成に向け不断の努力を続ける。

富山県警察機動隊
伝統を守る

中居他輝夫

「強靱で心から頼りにされ信頼される機動隊」、それは我々にとっては永久の目標であり、そのために先輩方が多くの汗を流してきた。この血と汗とで営々として築いた治安を守る最後の砦としての使命感、旺盛な士気、不屈の精神は、今や我が隊にしっかりと根を下ろした伝統である。我々はこの伝統をしっかりと継承し、更にたくましく育て、後輩に確実に引き継がなければならないと思う。

現下の社会情勢は、極左問題をはじめとして、我々には極めて厳しいものがある。しかしたゆまない訓練によって、四戒をなくし備えに万全を期さなければならない。融和団結、質実剛健、自学自律の精神の我が隊訓のもとに、永久の目標に向かって限りない前進を続けたいと思う。

好きな言葉「知行合一」がある。情報化時代と言われ、ともすれば評論・理屈が先行しがちである。今、我々に必要とするのは、行動の中に真理を求め、行動実践こそ第一と教える「知行合一」の精神である。この精神こそ機動隊魂と直結するものであり、新たな伝統のために流す汗を誇りにしたいものである。

石川県警察機動隊
獅子奮迅の年に

安藤　眞規

本年は、県警にとって警備上重要な二大イベントがある。一つは、三月頃に予定される能登原発第二次公開ヒアリングであり、あと一つは七月に開催される第三十回自然公園大会行啓警衛警備である。何れも、主会場は能登半島に位置し、県都金沢市からは遠距離にある。

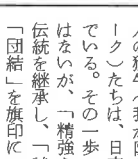
我が隊は、これら警備の本番に向けて、警備基本訓練はもとより機能別部隊の練度の向上をめざして訓練に励んでいるところである。

私は、鈴木前警察庁長官が昭和五十八年本県での全国植樹祭行幸に際して、警衛事前調査に来県された折り、各隊幹部に対して「平時において汗流すこと多ければ戦時において血流すこと少ない」と訓示された言葉を実感として受けとめ、隊員指導の基本にしていきたいと思っている。

我が第一小隊（本機）のシンボルマークは「加賀獅子」であり、その勇敢さを象徴し、第二小隊（管機）は、由緒ある加賀藩の「剣梅鉢御紋」をシンボルマークとし、槍をとっては天下一と謳われた藩祖前田利家公に心随したものである。

二大イベントの偉業を無事果たすため、我が機動隊は警備部隊の中核として獅子奮迅の活躍をめざす年である。

福井県警察機動隊
辰年生れのおらが年



木下　忍

本県機動隊は、昭和二十七年十月の辰年生れで、本年は四回目のおらが年を迎えたことになる。

当隊は発足当時、県内で「あばれ川」と異名をとる九頭龍川にちなんで九頭龍隊のニックネームがつけられた。その後、昭和五十七年には機動隊創立三十周年を期に、隊のシンボルマークを玉を食む「玉龍」と定めるなど生粋の辰年生れの龍である。

辰年は「ふるい動く」の意味があるそうで、元気がよくエネルギッシュな反面、人心を驚かす事の多い年であるといわれている。

昨年は、当隊にとって出動事案も少なく、比較的平穏に推移した年であった。本年も平穏これに過ぐる幸せはないが「治に いて乱を忘れず」「凪の次に嵐が来ることを念頭におけ」の心構えで、隊員と共に一丸となって精強な部隊づくりに励みたい。

一旦、事案発生に当たっては「玉龍」の隊旗を先頭に掲げて、警備部隊の中核としての期待と信頼にこたえていきたいと思っている。

岐阜県警察機動隊
一歩一歩を確実に歩む

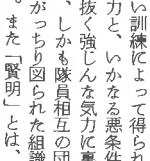
松井　健

日本のほぼ中央部に位置する海を持たない県で、北部の海抜三千メートル級の飛騨の山岳から南部の海抜〇メートルの美濃の水郷地帯まで起伏と変化に富んでおり、「飛騨の山」「美濃の水」と賛美される山と水が織りなすすばらしい景観を、人々は「飛山濃水」と呼んでいる。

しかし山紫水明に富んだこの地形も、一方では災害発生の危険性を多分にはらんでいる。

我が機動隊の活動重点も当然災害警備活動に置かれ、四十三人の猛牛（我が隊のシンボルマーク）たちは、日夜訓練に励んでいる。その一歩一歩に派手さはないが、「精強な機動隊」の伝統を継承し、「誠実」「忍耐」「団結」を旗印に「県民の安全で平穏な生活を守る」ため、一団となってただ黙々と歩みつづける。

愛知県警察機動隊
強さの自信が前提



山本　豊

機動隊は、強くなければならない。部隊行動で強いことはもちろんであるが、隊員個々の行動においても、それぞれ自らが考え、咄嗟に行動できる隊員の集団、これこそ真に精強な機動隊であると思う。

精強な部隊づくりは、日頃のきめ細かな教養と厳しい訓練の積み重ね以外にない。幸い当隊には、ファイトあふれる優秀な幹部と、無限の可能性を秘めた若い隊員に恵まれている。

隊長として八ケ月が過ぎようとしているが、新年を迎えるに際し、自らにも厳しさを課しつつ、隊員全員が確固たる信念を持ち、いかなる事態にも対処できる精強な部隊の育成に努めたいと思う。

警察官には、国民の安全と平穏を守る崇高な使命が託されているが、その中でも、機動隊は「治安の最後の砦」である。強さの自信があってこそ、明るく、親切な職務執行も可能ではなかろうか。

心身ともに健康な若い隊員とともに、厳しい中にも血のかよった明るく、強い機動隊として日々前進して行きたいものである。

三重県警察機動隊
より強くより賢明に

萩原　健

治安をめぐる諸情勢は、流動的かつ波乱含みに推移しており、予断を許されない厳しいものがある。こうした情勢のなかで治安維持の要であり、国民の平穏な生活を守る〝切り札〟でもある機動隊の責務は、更に重大になってきている。

この厳粛にして崇高な責務を果たすため、我々は、より強く、より賢明でなければならないと考える。「強い」とは、恒常的な厳しい訓練によって得られた強い体力と、いかなる悪条件にも耐え抜く強じんな気力に裏打ちされ、しかも隊員相互の団結融和がかっちり図られた組織体である。また「賢明」とは、良識豊かな人格を備え、職業人として担当する事務を的確に処理できる知識と技能を有することである。

しかし、部隊活動としてもっと重要なことは、指揮官の指揮

能力である。部隊指揮とは、指揮官と隊員相互の信頼の上に展開する命令であって、その前提は冷静にして的確な状況判断のもとで、部隊活動を通じて警察法二条の目的を具現していくことである。そのためには、隊員に負けない強さと賢明さが要求される訳である。

年頭に当たり、部隊の長としてまず自らを厳しく戒め、自らを律し、より強くより賢明な部隊づくりに最善の努力を傾注したい。

滋賀県警察機動隊
父親のような厳しさ

石田　義昭

ある本に部下指導について、アメリカのプロ野球の監督の心得として、その第一番目に父親のような厳しさをもって指導しなければならないと書かれていた記憶がある。これとは異なるかも知れないが、父親の厳しさは子供の心を汲みとった思いやりのある厳しさであり、部下指導に当たって心掛けているところである。

私は小学生の頃〝やんちゃ坊主〟で担任のA先生から何回となく〝ビンタ〟を受けたことがある。しかし、卒業後現在まで何かとその先生を訪問し、いろいろ相談にのってもらっており、今では私の尊敬する人の一人でもある。それは私達生徒に対し、父親のような厳しさで教育されたのにほかならないと思っている。

本県のような小人数の隊にあっては、隊は家庭そのものであり、隊員の兄貴となり父親となったつもりで指導し、精強な部隊育成はもとより、将来本県警察を背負って立つ警察官の育成に努めたいと思う。現隊員は十分その資質・能力を備えているものと確信している。

こうして筆をとっている間にも、グランドから隊員の力強い訓練のかけ声が聞こえており、将来に大きな期待をかけているところである。

京都府警察機動隊
二巡目の国体を前にして

内田　憲幸

昭和二十一年、焦土と化した国土の復興に、全国民が一丸となって努力しているなかで、第一回国民体育大会が、古都千年の地、京都の地を中心に開催された。それから四十数年、国体は昨年の沖縄国体で全国を一巡し、本年、二巡目第一回国体が京都で開催される。

現在、京都府警察は、二巡目京都国体を最良の治安状態で迎えるべく、府警を上げて「未来くん平安作戦」を展開中である。

我が京都府機動隊は、昭和二十七年九月一日の創設以来、学生運動の西の拠点である京都大学を中心とした運動、その他の大衆運動に伴う不法事案に対し、常にその先頭に立って「不法事案は看過せず」の姿勢で対処し、数々の実績を挙げて来た。

新年を迎え、我が隊は、目前にしたこの二巡目国体の平穏を開催を目指し、集団警備力の中核として、国体警備の主力となるべく、隊訓の『限りなき前進と良き伝統を培うために、一、我ら高き知性を養おう、一、我ら使命に情熱を燃やそう、一、我ら堅き団結を誇ろう』の下、「現場で血を流さない訓練で汗を流せ」をモットーに、日々訓練に励んでいる。

大阪府警察第一機動隊
永遠のテーマ

高木　康夫

精強な部隊づくりは、機動隊に課せられた永遠のテーマである。部隊が強くなるには、何と言っても荒れる現場を数多く経験することであろうが、府下でもその機会が殆どなくなった。恒例となった成田出動や昨年の沖縄国体警衛警備などは、我々にとっては有難いチャンスである。

本年も可能な限り部隊訓練の機会を確保したいと考えているが、そのほか、

一、幹部の指揮能力の向上＝近年、幹部の高令化（とくに小隊長の平均年令は当隊で三十五歳を上回っている）、未経験者の登用などの諸問題を克服してレベルアップを図る。

二、隊員の心身の鍛練の強化＝全体的に体力の低下がみられるところから術科訓練等を通じた強い隊員づくりに努める、を計画的かつ継続的に実施し、真に期待に応えうる部隊づくりを進めて行きたい。

大阪府警察第二機動隊
足らざるを恐れる

前田　康行

士気旺盛にして団結強固、規律厳正にして練度の高い精強な部隊育成は、機動隊の永遠の基本課題であり、歴代隊長・諸先輩は、日夜の訓練に励まれ輝かしい伝統を継承されて来た。

私はこの伝統と意志を受け継ぎ、いかなる困難な事態に遭遇しようとも耐える精強にして洗練された部隊づくりに、微力ながら努力しているところである。

真に精強な部隊は、単に力強さのみならず内に秘めた優しさ、人間味を基礎として、強固な意志の下に行動しうる部隊でなければならず、根底には隊員個々の強い自律心が必要とされる。

指導の中心としては、他人の苦しみ、悲しみ、痛さが分る思いやりと良識ある隊員づくりに力を注ぎ、自己に対しては、絶えず〝足らざるを恐れる〟精神で、隊訓「進取、克己、団結」と、シンボルマークの隼と共に、日夜励んでいきたい。

兵庫県警察機動隊
勇往邁進

加藤　和也

機動隊長に就任して、はじめての新春を迎える。今年もまた、厳しい警備活動の現場が予想される。心新たにして、この一年を全力投球で乗り切る覚悟である。

兵庫県警察は、「強く・正しく・温かく」を警察活動の指針としている。なかでも、強い警察を体現化するのは、我々機動隊員の究極の任務である。「集団警備力の中核であり、警察活動における最後の砦である」機動隊の任務を再確認し、心身ともに逞しい機動隊員の育成に心がけている。

強い部隊づくりの基本は、指揮官も隊員も自信を持つことである。機動隊員の自信は、実戦さながらの厳しい訓練の積み重ねにより、はじめて生れるものである。

葉隠の中に「武勇と少人は、我は日本一と大高慢にてなければならず」の一節がある。不遜な言葉とも取られかねないが、我々は、火の出るような厳しい訓練を通して養った、大高慢ともいえる強い自信を身につけてこそ、如何なる重大困難な事態に遭遇しても、心にゆとりを持ち、毅然たる態度で職務執行が出来る精強な部隊となり得るものと考え、日々訓練に邁進していく所存である。

奈良県警察機動隊
鉄壁の備え

山本　一則

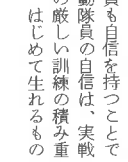
機動隊は、警備実施の中核部隊として治安警備及び災害警備に従事するほか、部隊活動を必要とする各種警察活動に当たることをその任務としている。

我が奈良県警察機動隊では、この任務を完遂するために「鉄壁の備えと果敢な攻め」をモットーとして、個々の隊員の自己啓発と精強な部隊づくりに日々励んでいる。「鉄壁の備え」とは、体力を練成し、知識を培え、そして精強な部隊づくりの猛訓練を行うことである。

この基礎に立って柔剣道をはじめとする警察術科の向上があ、適正な職務執行、昇任試験の合格が可能となり、また警備現場においてゆとりと自信をもった活動が可能となる。このことが「果敢な攻め」として実現されることである。

本年は、奈良県誕県百年行事の一環としてシルクロード博覧会が開催され、我が機動隊の果たす役割りは極めて重要である。いま一度「鉄壁の備えと果敢な攻め」のモットーをかみしめ任務遂行の万全を期したいものである。

和歌山県警察機動隊
汗と涙



青貝　勇

士気旺盛にして団結強固、規律厳正にして練度の高い精強な部隊の育成こそが、機動隊永遠の課題であるといわれて久しい。

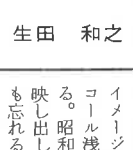
いうまでもなく、こうした課題は、単なるスローガンや掛声だけで成就できるものではなく、まさに「汗と涙」「忍耐と努力」によってのみ可能である。

本県機動隊は、県機と管機を統合し運用していることから、これまで各隊相互に有する長所をさらに発展させ、短所を補完した小隊訓練、合同訓練を強化して練度の向上に努めるとともに融和・団結に配意し、心、技、体ともに充実した「精強な部隊」「頼りになる機動隊」を目指し取り組んできた。

必ずしも十分であったとはいえないにしても、汗と涙を流し、忍耐と努力はしたつもりであり、相応の成果があったと自負している。本年もこの姿勢を貫きたいと考えている。

今、隊員ともども「憂きことのなおこの上につもれかし、限りある身の力試さん」の心境である。

鳥取県警察機動隊
存在感ある機動隊として



生田　和之

治安警備出動の機会がめきり少なくなった昨今、ともすれば県機の目が、柔剣道特練のほうに行きがちになるのは、ある程度やむ得ないことかも知れない。しかし、柔剣道が本務になってしまうのは許されない。

情勢がないから、少ないからといって、本務たる厳しい警備訓練を忘れてしまっては、機動隊としての存在価値はないに等しい。いざというときの存在感こそ、機動隊が県警の最後の砦といわれるゆえんであるから、情勢の多寡で練度を左右してはならない。

昨年前半、「今年は沖縄に行く」が大きな支えになっていた。その点で管区内各県機合同訓練は、時機に応じたものであったし、今後もますます発展的に実施すべきであろう。

鳥取県は、全国一の小規模県であることに間違いはないが、多年、ちょっと気を抜けば怪我人続発請け合いの厳しい訓練で培われた機動隊の誇りを忘れず、その点では誰にも敗けないを本隊の合言葉として、本年も汗と涙にまみれる決意は、一隊員の端まで徹底している。

治安警備はいうに及ばず、何事にも県警の中で頼りにされ、存在感溢れる機動隊として、本年も邁進する所存である。

島根県警察機動隊
風雨深山臥竜たれ

船越　進

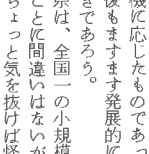
我が島根県機動隊は、創設以来二十七年を数えようとしている。全国機動隊がこれまでに刻んだ年輪の中で、幾多の先輩がこの世を花にするために、どれほどの血と汗と涙を流したことであろうか。

私は「機動隊」という三文字とその言葉の響きが大好きである。だが、私の好きな機動隊のイメージはなぜか、「機動隊イコール浅間山荘事件」なのである。昭和四十七年二月テレビが映し出したあの壮絶な戦場を今も忘れることができないからであり、あの事件こそ機動隊の真の姿を象徴していると信ずるからである。

機動隊には困難を回避することは許されない。いかなる事態にも、いかなる暴徒にも敢然と立ちむかわなければならない。

「風雨深山臥竜たれ」という言葉がある。これは、風雨の中深い山奥で気力を込めて伏せている竜のように、平常は黙々と実力を蓄え、一日緩急あらば決然としていかなる困難にも立ち向う勇者たれ、の意である。今年は辰年、機動隊はこの竜にあやかり、竜が玉を吐くように、命を吐こうではないか。

岡山県警察機動隊
時流に対応の精神



松田　博志

本県の機動隊精神は、常に最悪の事態を想定して事に当たり、最良の結果を生むことである。

この教訓は、第二次安保闘争の渦中で発生した隊員の殉職に起因するもので、当時（昭四四・四・一二）学園紛争の最盛期にあった岡山大学の立入警備の最中、学生の投石にあい、紛争の犠牲となった、有本隊員を忘れることはできない。以来、彼の死を無にするなを合言葉に、最悪の事態を考えながら、時代に即応した訓練を重ね、精強な機動隊づくりに精進し、県民の信頼と期待に応えている。

とくに本県は、世界的大事業と言われる瀬戸大橋の開通を三月に控え、完成の記念行事が種々計画されており、それに出席される国内外の要人等に対する大型の警備が予定されている。

飛躍する県政に歩調を合わせ、治安維持に一段の努力を傾注すべき年でもある。隊員各自の決意も新たに、世情に即応した調和と統制のある機動隊の構成を目指している。

広島県警察機動隊
若き時代の蓄財

警察官としての三十年を振り返るとき、警察学校入校当時は、どちらかといえば、ひ弱かった私が、ここまで荒波をしのいでこれたのは、あの若き隊員の時代に、汗と泥と涙の苦しい鍛練によって蓄えられた気力・体力という有形無形の財産のおかげで、もし機動隊員に指名されなかったらと思うと、感慨深いものがある。

松尾　一

さて、我が国の治安をめぐる諸情勢は、極左暴力集団によるテロ・ゲリラの凶悪化、右翼団体の対決行動の激化等、厳しいものがある。

集団警備力の中核である機動隊は、国民の平穏で安全な生活を守る「最後の砦」として悪に対し微動だにしない精強な部隊でなければならない。それは厳しく苦しい訓練によってのみ可能である。また、若い隊員は、これからの人生航路を逆波を受けながら勇往しなければならない。

したがって、隊員諸君は今が絶好の機会としてとらえ、自己の限界に挑戦し、気力・体力という財産を蓄え、これを資本とした堂々たる人生を貫徹することと念じている。

このような意味から、ある時には鬼になり、ある時には父親となって、心身ともに強靱な隊員を育成したい。国民の負託に応えるために!!

山口県警察機動隊
信・強・和のもとで

井上　保利

我が隊は、幕末明治維新の原動力となった奇兵隊の先人の血が流れており、破邪顕正のためには「千万人といえども我往かん」の気概をもつ外柔内剛のサムライ集団である。

これまで、幾多の警備活動にも集団警備力の中核部隊として愚直にその任務を遂行して県民の信頼を得、また各種術科や昇任試験等文武の道にも励み、優

秀な業績を残すなど心・気・体の充実した精強揃いである。

この伝統を支えているものは「信・強・和」の隊訓下、日夜汗にまみれての猛訓練、寸暇を惜んでの勉学、これらを通しての心の絆であり、目的に向かって日々黙々と努力し耐えてきた結果である。

混とんとした社会情勢のなかで迎える新しい年は、治安的にも予測しがたい困難な事態が幾多起ると考えられるが、我々はただひたすら県民の平和と安全を願い、伝統の名に恥じない逞しい力を備えた機動隊たるよう、全隊員が一丸となって精進を重ねたい。

徳島県警察機動隊 脱皮

前川　文夫

「阿波おどり」のメッカ、徳島市の中心部から南東へ約五キロメートル、清流勝浦川河口に聳える我が隊は、数多くの俊秀を送り出した輝かしい伝統があり、鍛え、学ぶには絶好の環境にある。

隊訓にも、一、隊員である自覚と誇りを持つ、一、心身を鍛練し実務技術の向上に努める、とあるとおり、我々は選ばれた精鋭として胸を張り、心・技・体を極めるために大いに学び、鍛えたいと思う。

本年も、治安情勢は複雑で極めて流動的に推移する内外情勢を背景に、極左暴力集団による不法行為をはじめ、いつどこで、どんな事案が発生するか全く予測がつかない。この不透明な時にあって、機動隊はいよいよ集団警備力の中核として実力を備え、有事即応の練度の高い精強部隊となるために全力を傾注しなければならない。

また、隊員一人ひとりが自らの技能を高め、力を蓄積して古い殻を打ち破り、二十一世紀に羽ばたく警察官へと脱皮を図ってほしいものである。

香川県警察機動隊 魁となって

宮脇　博文

源平合戦で有名な屋島を望み、四国の玄関高松市の中心からやや西寄りの瀬戸に面したところに我が隊がある。訓練環境抜群のこの地にあって「和・明・強」の隊訓の下、百尺竿頭一歩を進むの心境で、幾多の先訓に学びつつ、頼りがい、頼られがいのある機動隊たらんと日夜文武の道に励んでいる。

今年、本県では瀬戸大橋の開通と架橋博覧会の開催、四国横断自動車道の供用開始、第三十九回全国植樹祭の開催等大型行事が目白押しで、これらイベントに対する対策とその後の社会経済の変革に対応する治安水準の確保という、県警としても鼎の軽重を問われる重要にして大きな節目の年でもある。

今年の干支竜は、平時は淵にひっそりと身を隠し、時至らば一気に天に駆け昇ると言われる。

今こそ我が機動隊が、鍛え抜いた力を一致結束し、県民の魁となり、県警の尖兵となって、本県治安維持のために献身努力する決意を新たに、頑張り抜く覚悟である。

愛媛県警察機動隊 「秀聚」の評価を興す

白石　三

隊長室の正面に「秀聚（しゅうじゅう）」と墨書された額がある。それを仰ぎ見る度に「すべてに秀でた集団であれ」と語りかけてくる。

関西の最高峰、石鎚山での母娘遭難事故において、我が県警機動隊が二人を無事救助し、登山口で浴びた拍手喝采は、真に県民からの「秀聚」の評価であったに違いない。

新たな激動の年を迎え、警備部隊の中核とし、かつ治安維持の最後の砦として、ここ一番どんな場面にも通じる精強な部隊へと着実に前進したいものである。

部隊組織の基本は隊員にあり、それを左右するのは人間関係である。「秀聚」の道を究めるための良好な人間関係作りは、共に汗と涙を流し、埃と泥にまみれた集団訓練によりおのずと沸いてくるものと信ずる。

十五万石松山城の石垣を眺めるたびに浮ぶ戦国武将武田信玄の「人は石垣、人は城……」を座右の銘として、真に県民の期待と信頼にこたえる「秀聚」なる部隊へと努力したい。

高知県警察機動隊 今年こそは……

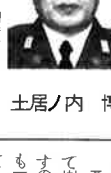
山脇　虎吉

高知県には戦国の時代、四国を平定した長曾我部元親という武将が居た。元親は「一領具足」（具足一領を常に備えておく意）の制度を設け、一定以上の田畑を持つ百姓に対し侍の身分を与え、野良で仕事をする時はいつもたんぼの畦に槍を突き立て、そのそばに刀・甲冑・兵糧を置き、一朝事あるときは武士に早変りさせて戦列に加わえさせていたという。この武士達は、戦もなく雨天で農耕ができない日には家に居て学問に励み、或は武術の訓練に精出していたに違いない。実に無駄のない素晴らしい発想であると思う。

現在、県警機動隊には専任の機動隊（第一機動隊）と、平素は刑事・防犯・交通・外勤等の職務に従事し、有事には機動隊の任務を遂行する管区機動隊・第二機動隊・地区警備隊があり、それぞれ所定の訓練を実施している。

増員が望めない現下の情勢において、県民に信頼される強い機動隊になる方法は質の向上より他にないと思う。今年こそは、元親が考案した一領具足の制度の長所をことごとく吸収し、精強部隊の育成をはかりたいと考えている。

福岡県警察第一機動隊 釣鐘のごとく



土居ノ内　博

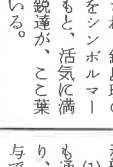
かつて幕府海軍奉行勝海舟は、維新の回天西郷隆盛の人物像を評して、あれは釣鐘のような男だ、大きく突けば大きく、小さく打てば小さく響くと言った。

我ら第一機動隊は、安全で平穏な市民生活を守るため、強じんで、このことばのように大きくも小さくも響く機動隊員づくりを目指して日夜努力している。

その指針として、私は三人の友と声を出して語りあっている。その一人目は誰か。挑戦する気概であり、行動の源泉としての「勇気」である。ふたり目は誰か。自分であればどうするのか、こうあるべきであるという「判断」である。三人目は誰か。続けなければベテランになれない「継続」という力である。この勇気と判断と継続を友として、十分に自己を活かすことが大切である。

野球の衣笠選手、柔道の山下選手は引退することができるが、我が第一機動隊には引退はない。営々と築かれた伝統と栄光は守り続けて行かねばならない。そのためにも努力を欠かすことはできない。努力こそ才能を発揮し、磨き、発展させる原動力である。これからも三人の友と共に、唇に歌「この道」を口ずさみ、明日があるから明日のために、ただそれだけを創るために、前進あるのみだ。

福岡県警察第二機動隊 固い団結



水城　賢二

機動隊の身上は「強さ」にある。どのような悪条件下に置かれようとも、ひとたび警備現場に立つと辺りを威圧する無言の雰囲気が必要である。その「強さ」や「威圧」を培うもの、それこそまさに団結心であり、帰属意識であると思う。当隊は幸いなるかな、団結心を養うに絶好の条件が二つある。その一つは、素晴らしい環境とグランドの広さにある。

勇姿を誇る足立山を目前にして樹令七十数年を数える老松やくすの木が隊庭の周りを覆い、しかも五千坪のグランド二面を有していることにある。グランドが広いこともあって、室外でのクラブ活動が盛んで、ラグビーは県警チームと二機チームを擁し、福岡県下における春秋のリーグ戦では常に上位で活躍している。また、野球チームもA、B二チームを有し、官公庁大会や早期野球大会に出場しては、優秀な成績を収めている。さらに、選手以外の隊員も応援を通して帰属意識は、いやがうえにも高まるばかりである。

その二つは、当隊発足からの伝統である「礼節」が、完全に定着していることにある。上司・先輩・同僚間における敬礼と挨拶の励行、先輩後輩間における活力みなぎる職場である。

隊長に着任して未だ八カ月、機動隊内にあっては、正真正銘の新隊員であるが、精鋭二機の伝統である「団結心」と「礼節」をさらに深め、今年もまた県内外からの出動要請に的確に対応できるよう頑張って行きたい。

佐賀県警察機動隊 愛される強い機動隊

坂田　民雄

我が機動隊は、県機、管機の二個小隊で編成され、鍋島班の〝杏葉〟の家紋をシンボルマークとする隊旗のもと、活気に満ち溢れた若き精鋭達が、ここ葉隠の地に集っている。

「強く・正しく・明るく・愛される・学の機動隊」が、我が隊の隊訓であるが、本年は特に、このなかで「愛される強い機動隊」の前進を目指して、訓練に、出動に、汗と涙を流していきたい。

昨年は、天皇陛下をお迎えして〝第三十八回全国植樹祭〟が本県で開催され、我が機動隊は、精鋭部隊としてこの行幸警衛警備の任務に当たったが、無事にこの大任を果たし、県民の期待と信頼に応えることができた。

本年は、この貴重な経験を踏まえ、激しく揺れ動く治安情勢に対処するため、「愛される強い機動隊」を合言葉に、更に、精強な部隊を創りあげていきたい。

長崎県警察機動隊 花も実もある

松下　泰男

一　「治にいて乱を忘れず」の正姿勢の確立

(1) 平素から有事に備え、厳しい訓練を反復継続して練度と技術能力の向上を図り、「逆境に打ち勝つ忍耐心」「大胆不敵の精神力」「油断大敵の心構え」を体得させ、風林火山を地でいく精強な部隊を育成する。

(2) 物事に一喜一憂しない不動の胆力養成と自己に厳しい隊員を育成し、何事にも正姿勢をもって柔軟に対応しうる機動隊を確立する。

二　文武両道の実践による自主自律心の確立

厳しい訓練で培った強い肉体とたくましい精神力を、勉学意欲に発展燃焼させて自主自律心を高め、「他人の、組織の期待に応える」を行動の指針として「辛い涙と汗を無駄にするな」を合言葉に、文武両道のバランス感覚に富む隊員を育成する。

三　有能な人材を育成する勤務環境の確立

(1) 平素から他部門の仕事にも通用する実務能力の向上を図り、いつでも総合力の発揮に寄与できる隊員を育成する。

(2) 問題意識の高揚と積極的な提案、創意工夫を奨励して「豊かな創造性」「やる気と責任感」を助長し、常に前向きの活気ある環境を確立する。

(3) 「勝負は土俵外にあり」を合言葉に、自己啓発の投資を惜しまず、余暇の善用にいそしむ隊風を確立する。

(4) 心技体兼備の溌剌ある隊員を育成し、各級昇任試験における合格率の向上を図るとともに将来の県警察を背負うべき有能な人材の養成に努める。

熊本県警察機動隊 機動隊勤務を大切に

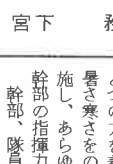
林　行茂

「今の若い者は……」とか「新人類」など、とかく今の若い者に対する悪評を寄せつけない機動隊員は、年齢は若く、そのため社会経験は乏しい。しかし、日々若鮎のごとく体力を超越して訓練に励み、出動時は、どのように危険な場においても躊躇逡巡することなく活動する機動隊員の将来は洋々たるものでなければならない。

隊の運営に携わる幹部は苦悩することも多いが、要は幹部を含め全隊員が日々生起する事象に対し適切に対応するとともに、将来を見透し機動隊員として充実した毎日を過ごすことが大切なことであろうと思われる。

今年も国民の平穏な生活を脅かすばかりか、我が国の社会秩序を根本から覆すような諸事象の発生が予想され、機動隊の出動する機会も多いことと思われるが、除隊した先輩隊員も機動隊員であったことの誇りを胸に秘め、また機動隊勤務時代に培った体力・気力を存分に発揮しながら、今日も第一線等で勤務しているのである。

大分県警察機動隊 継続は力なり



宮下　務

昨年は、本県警察警備史に残る九州初の日米共同訓練に伴う反対闘争の警備実施を経験した。今年は、大きな警備実施は予定されていないものの、極左暴力集団及び暴力団等の取締りや他県への応援等いつ如何なる事態にも迅速的確に対応し、その実効を期するため次の四点を重点にその推進を図りたい。

一、治安警備力の充実強化、二、突発事案に対処できる有時即応体制の確立、三、士気の高揚と団結の強化、四、実践的教養の推進。

特に指揮官と隊員が一体となったより精強な部隊の育成のため、昨年の体験をふまえて「訓練に立いて本番で笑え」を合言葉に、あらゆる想定に基づく訓練を徹底したいと思う。また、職務の遂行に当たっては、警備部隊の中核としての誇りと使命感をもって任務の完遂にあたり、大分県が推進中の〝身も心も豊かな豊の国づくり〟の一翼を担い、辰年にふさわしい躍進を遂げることを、新年の誓いとしたい。

宮崎県警察機動隊 練度を高める

岩永　一夫

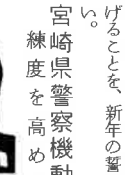
宮崎県機は柔道・剣道の猛者グループである。本県の治安の最後の砦として隊訓「練磨・融和・剛健」をモットーとして、より精強部隊の育成を期している。

まず、隊員の自己啓発をより活発化させたい。組織は人、人は心である。一人ひとりの心を大事にしながら、熱き心をもつ隊員に育てたい。そして的確な情報の選択力、強い体力、走力をつけるとともに旺盛な職責の自覚を促したい。

その二は、訓練の強化に努めたい。泥と汗にまみれて一つひとつの力を養っていくしかない。暑さ寒さをのりこえて訓練を実施し、あらゆる現場をとらえて、幹部の指揮力を高めていきたい。

幹部、隊員ともに汗を流し、その中に創意工夫をこらして一歩一歩と練度の高い宮崎県機をめざしていく決意であり、そのために体を張りたい。

鹿児島県警察機動隊 県民に頼られる機動隊に



和田　秀見

剣道の修業に「一源三流」と

読者の広場

機動隊に感謝と協力

金森賢二

社団法人機動隊員等を励ます一会で発行される「はげまし」を読みながら、いつも若い元気な機動隊員の各地に於ける活躍と苦労、そして又、非常時に備えての心身の鍛錬されていることの頼もしさに感激し、感謝しています。

国際化された経済と共に、海外へ仕事で出張される多くの人々、或いは円高でレジャーも大型になり、海外を観光される方々はそれぞれに、海外の国々の治安維持を肌で感じていられるように、治安は段々と悪くなっています。恐らく日本の治安は最も良く、安心して生活できる国の一つであると思います。これには、機動隊の活躍が大きく貢献していると云えるでしょう。

こうした感謝と協力を更に進めるために、〃機動隊員等を励ます会〃の運動と運営に何かよい方法がないかと思案しています。

「はげまし」の昭和六十二年十一月号の警視庁機動隊の〃寮祭あれこれ〃を読み、又、各支部の総会と、機動隊員を招待し共に懇談される楽しいパーティの写真や報告を見て、こうした行事は機動隊員の方々に、本当に喜んで頂いているのだと、つくづく思います。

各支部では、これまで同一都市で行なわれていますが、三年に一度でもよい、支部の管轄区域内で、場所を替えて、二県或いは三県、又、北海道支部では三地方ぐらいに分けて、交通面と隊員の配置・人数を考慮して、都合のよい中心都市で開催し、その地域の隊員と励ます会の会員、更にその地区の人々も加わって〃機動隊への認識と協力〃のPRを兼ねて開催することにすれば、もっと強力に機動隊への感謝の念と共に、協力度を昂揚できるのではないかと思われます。

これは〃機動隊員等を励ます会〃の本部の理解と各支部の協力は勿論、各県、或いは地区の警備部警備課機動隊にご相談申し上げ、ご了解の上でのことです。

とにかく国家として、又、社会的な重点警備は、地方よりの出動を含め、現状は羽田、首都圏や特別地区が中心になっていますが、前述のようにすれば、それぞれの地方に於ける非常事態に対する出動と警備、そして民間の機動隊に対する協力と認識が高まるものと思います。

機動隊員等を励ます会は、本部、各支部と共に、各地区、各県に於いても、それぞれの警備部警備課機動隊と連絡し、機動隊に協力しています。富山県は、新日鉄富山営業所長・安田亮一様が、機動隊餅つき会をはじめ、其の他色々と御連絡や御協力にご苦労して頂き、厚く御礼申し上げます。

沖縄県警察機動隊

共通の目標に向かって

半世紀に一度の大イベント、そして沖縄県の本土復帰十五年という節目に、県民挙げての願いであった「海邦国体」が開催され、全国機動隊諸兄のご支援のもとに、警衛・警備の任務を全うする事ができた。

上村　正直

本警衛・警備の万全を期しその責を果たすことが、あの「ひめゆりの塔事件」の汚名を挽回する千載一遇の好機であり、また県民の期待に応えるすべであると、隊員一丸となって「目標」達成に燃えた。

荒れた警備現場を体験した事のない若い隊員にとって、初めて経験する火炎びん、火炎放射器、飛翔弾等の新型武器対応訓練は、かん難辛苦の極みであったに違いない。

今年は、昨年に比すると最大の「目標」に欠けるものの、変貌する警備情勢に即応できる「精強な部隊づくり」という全国機動隊共通の課題を堅持している。

「精強な部隊づくり」は、共通の「目標」を持つ者が「目標」に向かって尽力することで成就できるのではないだろうか。

「海邦国体警衛・警備」で培った貴い体験を伝承すべく、身体で覚える実戦訓練と「目標」を持った隊員の育成に全知全能を傾注する所存である。

ゴキブリ族

樋浦　忠

私の友人の息子さんが大怪我をした。交通事故で、原因は息子さんのオートバイの無謀運転だった。――私は正直のところ友人に対して、心からの同情はできなかった。暴走の結果、息子さん自身でなくて、ひとに怪我をさせたら、この親はどうやって詫びるつもりだったのだろう、という気持ちがあったからである。

若者のオートバイは、事故が起きないのが不思議な位だ。友人は、息子さんがオートバイに乗ることに大反対したのだが、どうしても言うことを聞かないから、仕方なしに買い与えたのだという。それならば、育てかたが悪い。冷たいようだが自業自得である。

私は若者の乗るオートバイが大嫌いだ。仕事の必要があってのことならともかく、本人は、いっぱしのレーサーかアドベンチャラー気取りなのだろうが、はたからみると、無作法、自己陶酔、珍妙な非情感、それでいて小心者という、全部が全部ではないが、堪えがたい厭らしさがある。

私の知合いの老運転手は、彼等をゴキブリと呼ぶ。どこからともなくゾロゾロ出てきて、どこへでも割り込んで来る。踏みつぶすのも気持ちが悪い。だいいち、あんなものは車じゃない。「自動二輪が乗り物ならば蝶々トンボも鳥のうち」だ、という。これは「輜重輸卒が兵隊ならば蝶々トンボも鳥のうち」という、輜重兵を冷やかした者の歌の転用だ。――老運転手に言わせると、昔は雨の日の運転が厭だったが、近頃は雨のほうが気分が良い、ゴキブリが少ないからだ、とコテンパンである。

だいぶ以前の話になるが、深夜までやかましく走り回る暴走族のオートバイを懲らしめるために、道筋に針金を張り、それにひっかかって暴走族が死んだか大怪我をしたかの事件があった。過剰防衛ではあるが、大方の共感が加害者に向けられたことも事実だ。

何はともあれ、交通行政として、若者のオートバイ対策を何とかならないものだろうか。自動者も歩行者も、突拍子もない音に悩まされる家の中の住民も、彼等のために大迷惑し、危険にさらされているのだ。

オートバイの交通規則をより大きく制限する、罰則を強化する。走行時間帯を決める、メーカーを指導してスピードの出ない構造にする、などなど、勝手に頭をめぐらせてみるのだが、やはり、いちばん望ましいことは、免許年令の大巾引上げだろう。

自動車保険も、二十六才未満の運転には割増し料金がかかる。運転を覚えたての者が多いという理由以上に若者の事故率は高い。社会的責任の自覚をもつのは、たしかに二十六才位かも知れない。

二十六才はともかくとして、十六才でオートバイの運転免許がとれるというのは、どだいが無茶である。マンガを読み、オモチャで遊んでいる少年に、走る凶器を許可するのだから常識的でない。免許の年令を引き上げる動きもあるようだが、思い切って大巾に改訂してほしいものだ。

いずれにせよ、当面は取締り当局の厳格な対応に期待したい。分かっていない少年たち自体に対する保護でもあるだろう。

機動隊、極左に備える

お知らせ

東北支部総会　六十三年一月二十七日（水）十七時三十分より仙台市「バレス平安」にて開催致します。会員のご参会をお待ちしております。

新年のお慶びを申しあげます

大内俊司　姫田清美
鈴木實　加納保成
青山特殊鋼㈱　田島鋼材㈱
関東銑鐵㈱　豊田通商㈱
㈲嘉悦学園　東海レベラー鋼業㈱
亨和興業㈱　松田鉄鋼㈱
草野産業㈱　皆川博司
高周波熱錬㈱　宮崎精鋼㈱
光洋商事㈱　広島シャーリング工業㈱
芝本龍平　中村是一
㈱周東商会　丸橋正彦
スカイコート㈱　自見産業㈱
東南貿易㈱　飯田正雄
村山文雄　豊鋼材工業㈱
小川運輸㈱　藤田金属㈱
平和農産工業㈱　㈱大川鉄工所
廣慶太郎　金森藤平商事㈱
木村利秋　三星金属工業㈱
高島浩一　北海鋼機㈱
西野公庸
橋本尚吾

㈳機動隊員等を励ます会 東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

大阪支部総会報告

信頼と感謝の輪を充実

当励ます会は東京本部と八つの支部を擁するが、六十二年の最後を飾って大阪支部総会が盛大に開催された。機動隊員等を招いてその労をねぎらったが、こうした歓談の輪を幾重にも大強化していくことが、警察と国民の信頼関係を構築していくことになる。

第十四回大阪支部総会が十二月十日十八時から大阪商工会議所ビル内「ニューコクサイ」で開かれた。

南谷重樹氏の開会の辞、全員による国歌斉唱に続いて当励ます会・鈴木實理事長が挨拶した。極左暴力集団が強力な爆発物や発射物等の武器を用い、市民生活を巻き添えにした凶悪なテロ・ゲリラ事件を引き起こしているなかで、治安の要として第一線で活躍する機動隊員に対する励ましの声にも一段と熱が入るというものだ。

六十二年最大の警備であった沖縄国体関連警備も完遂したが、隊員たちはこれからも気をぬくわけにはいかない。極左暴力集団は成田二期工事を最大の闘争課題としており、これに危機感を強めている右翼が直接行動に出ることも懸念される。また、関西新空港計画が動き出したことによって新左翼や右翼が入り乱れ、厳しい治安情勢になることが予測されている。

国家治安の任に当たる機動隊員等は、もちろんそれぞれの立場で自己の任務や役割を十分に自覚している。席上、来賓として挨拶に立った近畿管区・吉野穀警察局長と大阪府警察・鈴木良一警察本部長はともに、引き続き治安維持に全力投球していく決意のほどを語った。

励ます会・自見真清九州支部長が乾杯の音頭をとり、懇親パーティに移った。励ます会・麻生博監事の万歳三唱で閉幕したが、頼もしい若い機動隊員と会員の心の交流は高まるばかりだった。機動隊員等を励ます会は国民と警察の大きい懸け橋となっている。

今月の言葉

一掬一掌血

一掬一掌血（いっかくいっしょうけつ）と云う言葉がある。（傳習録第一三二）元々の意味と少し違うが、何事であれ、一つの事を成し遂げるには掌に血ぬらす努力が必要である、と云う意味に解釈して戴いてよいと思う。私は幾多の名言の中で、此の言葉が特に好きである。

およそ学問であれ、芸術であれ、運動競技であれ、又事業であれ、一流となる為には人は人知れず、何処かで必死の努力を続けたに違いないと思う。

何事も志を立てたら掌に血ぬらす努力と、そして忍耐が無ければ決して成就しない。「他人が一回で出来るなら十回やれ」と言う訓があるが、十回や二十回やって失敗したからと言って意気消沈していては、人生に於て一物をも摑み得ることは出来ない。

一芸に秀でた人は、必ず人知れず常に掌に血塗らしている筈であり、それ故にこそ、尊敬に価するのである。

人はそれぞれに顔立ちが違う様に、能力も体力も異なるが、どうにも出来ないのは時と共に老いる事だけである。各々の能力と体力に応じて、やれば必ず出来ると云う確信と努力があれば物事は成就する。手を拱いていては成功は決して向うからやって来ない。

希望を持ち、目標を立て、それに向って一途に努力する人は、時に利あらずたとえ成功しなくとも、常に若々しく、活力に溢れ、充実した生き甲斐のある人生を送ることが出来る。

○求めよさらば与えられる（イエス）○努力に欠くるなかりしや（海軍五省）○天は自ら助ける者を助く（スマイル）○道邇（ちかし）しと雖も行かざれば至らず（荀子）○切に願うことは叶えられる（道元）

「切に願う」とは、正月に神社仏閣に参拝してよしとすることではない。一掬一掌血の努力が裏打ちされていなければならない。（中村貞夫）

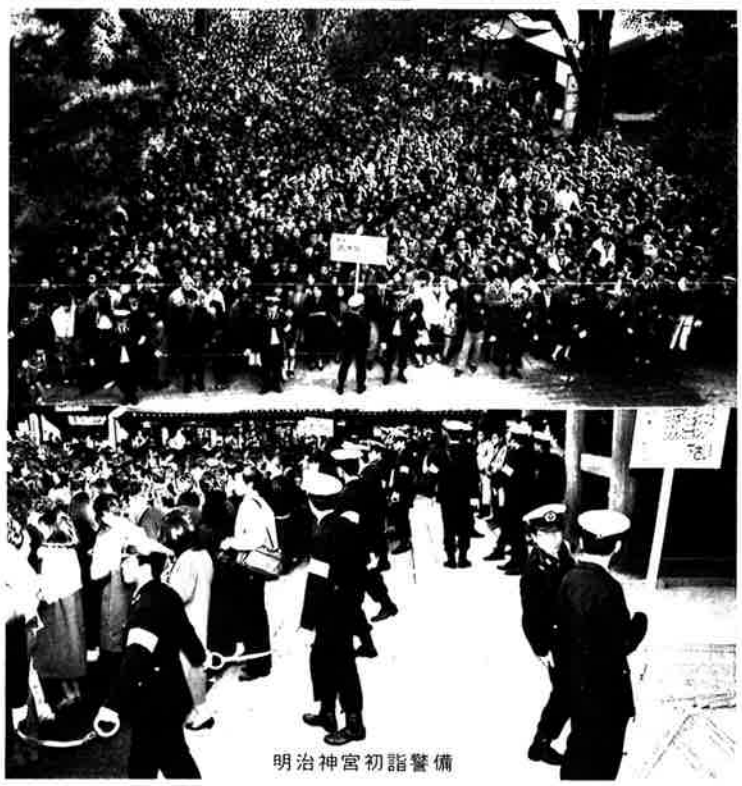
初詣雑踏警備に出動
本年も治安維持に万全

機動隊は本年も初詣警備に出動した。この一年間の幸運を祈る善男善女の波また波、このなかで休日を返上した隊員たちの雑踏警備で、全国各地の正月賑わいが秩序だって進められたわけだが、警備に明け警備に暮れる機動隊員の苦労をねぎらいたい。

警察庁のまとめた三が日の初もうで客は、全国で七千九百三十七万人と昨年より三百三万人増えた。この十年では五番目に多い人数である。

上位十五位の神社、仏閣は昨年とほぼ変わらず、明治神宮（東京）が九年連続の第一位で三百九十九万人、続いては川崎大師（神奈川）三百四十四万人、成田山新勝寺（千葉）三百十六万人、住吉大社（大阪）二百八十九万人、伏見稲荷大社（京都）二百三十八万人がベスト・ファイブ。

機動隊は、警備実施の中核部隊として治安警備および災害警備に当たるが、こうした雑踏警備も重要な任務のひとつである。この縁の下の地味な警備が庶民のささやかな幸せを守るが、本年も社会の安全と平和へ向けた機動隊員等の集団警備に惜しまぬ声援を送りたい。


明治神宮初詣警備

我らが支えたR警備

警視庁機動隊

テロ・ゲリラが多発するなかで、昨年は一連の成田闘争警備、沖縄国体警衛警備などを完遂したが、今年の治安情勢はさらに厳しいものが予想される。極左は「成田」を階級闘争の基軸とし、右翼は「直接行動」を指向している。こうしたなかで、全国機動隊員等の役割は一段と重要になってくるが、隊員たちはいつでもこれに対処できる実力を養っている。ここは改めて、昨年のR警備における隊員の心構えと意気込みのほどを垣間見ることにした。

多くの人に支えられて

一機　村元　英彦

「村上巡査は、技術係技術担当、兼ねて第六中隊伝令を命ぜられました」、八月二十一日申告を終え、「これからは本部員として、今まで以上に頑張っていかなければならないぞ」と心も新たに自分自身、一からやり直すつもりで、新隊員訓練、特別機動隊の警備訓練にと取り組んできた。特に特別機動隊員とは、来る警備では寝食を共にする為に少しでも早く馴れる様にと、訓練中でも顔と名前を一日も早く覚える努力をした。

そのさ中に、ついに爆発物が発射された。急拠特別機動隊員が召集され、R警備本番へと、突入した。私は技術係へ職務換えになる前に、ある程度中隊で無線担当の経験があったので、警備の流れについては、大体心得ていたつもりだったが、所属の違う特別機動隊員である。心の片隅には「これから先、六中隊が一つにまとまっていけるだろうか」という一抹の不安があったことも確かだった。

機動隊の力、警備力は、隊員一人ひとりのやる気に加えて互いにまとまり、一つの中隊として団結が図られた時に、はじめてその力が発揮される。

もっともそんな心配も、ほんの数日で解消した。それは、あるデモ警備に従事した際の事、当六中隊がデモ隊の併進規制に当たり、蛇行進を始めようとする対象を押え、約五キロの道のりを完璧に守り遂げた。その整然と規制している姿は、基幹隊に比べても、勝るとも劣ることはなく、隊員誰もが警備を完遂したという自信に満ちた表情を浮かべていた。

それからは、私も今まで以上に特別機動隊員の為に汗を流そうと決心した。装備資器材の点検と準備等、少しでも勤務がし易い様にと心掛け、そのために何度か隊に泊り込んで作業をしたこともあり、家に帰る時は、いつもくたくたという状態が続くことが多かった。

しかし、家に帰り着くと、私の疲れた様子を察してか妻はいつも笑顔で「お帰りなさい、お疲れ様でした」と言って迎えてくれ、その一言も、私にとっては大きな励みになった。考えてみれば、私は多くの人達に支えられて今日まできている。

私は、この「R警備」という重大警備の完遂のために、特別機動隊員とともに気を引き締め直し、伝令として今何をなすべきかを再認識し、精いっぱい努力したことに満足している。

（技術係員）

可能性にチャレンジ

二機　佐藤　健一

私が警視庁第二機動隊に着隊したのは、昭和六十二年八月二十一日、いよいよR警備本番という大変な時期で、毎日先輩方が資器材の積み込みや車両の整備などに汗だくになっている時だった。

その姿を見て「なんてひどい時に来てしまったんだ。所轄にいればこんなに辛い思いをしなくてすんだのに」と、今考えると、本当に自分が恥かしくなるような事を心の中で呟いていた。

日を追う毎に厳しくなる新隊員訓練。はじめのうちは、「ああもういやだ、もう何もやりたくない」という気持であったのが、徐々に体が慣れてきたせいか、「気合いを入れてやれば何んでもできる、今日の訓練が終れば楽しい時間がやってくるんだ」と知らず知らずのうちに前向きになっている自分に気がついた。それは自分だけではなく、着隊同期の誰もが同じ気持であったに違いない。

新隊員訓練も残り二日という時、神田署管内においてゲリラ事件が発生。新隊員訓練の有終の美を飾る警備部長査閲が中止となってしまった。私は、この時非常に残念に思うと同時に、「もう本番に入ったのだ、絶対に失敗の許されない仕事なのだ、自分にできるのであろうか」などという考えが交差し、不安な気持ちで一杯になった。

頭の切り替えも済まぬままについた当番勤務、先輩方から事細かな点まで指導を受け、なんとか無事にその日の勤務を全うすることができた。しかし、肉体的にも精神的にもかなり疲れてしまい、この仕事を続けていたらいつか倒れてしまうのではないか、などという考えが頭の中を何度もよぎった。

時の経つのは早いもので、仕事にも少しずつ慣れてきたが、余裕などまったくない。しかし自分で希望して進んだ道だ。「男の仕事」、とにかくやるだけだ。「自分の可能性にチャレンジ」という気持で頑張りたい。

このR警備、我々機動隊員が原動力となり、そして全ての機動隊が力を合わせ、更には警察全体が一丸となった時に完遂されるものと信じてきた。その為には我々一人ひとりがいさいという時、持てる力の全てを出しきる事が必要だと考え、そのように努めてきた。これからも二機隊員として、そして武道小隊員として、このR警備完遂と同様に、日々努力精進していく。

（中隊員）

埃をかぶった警備記録

三機　佐藤　勇造

先日、警備倉庫の整理をしていると、ほこりをかぶった警備記録が片隅でねむっているのを見つけた。開いてみると、成田警備はもちろん渋谷暴動や第二次安保闘争など当時の警備係員が記したと思われる部隊活動が書いてあり、また記録用紙は焦げていたり、ほこりがしみ込んでいるものあり、一見して投石と火炎びんのとび交う中で書いたと思われるのもある。

今まで単なる警備倉庫としか思っていなかったのに、過去の歴史を語るメモリー館でもあったのだ。このメモリーを発見して、私はかつての大先輩に負けないように、警備係として次のことに心掛けR警備を完遂していきたいと決意を新たにした。

一　「知らない」「できない」と言わない。

上司から又は周囲から仕事のことについて聞かれたら、いつでも応えられるよう常に研究し把握しておく。今回のR警備（沖縄国体関連警備）は、現場実査がおのずと限られており地形も複雑であるので、不慣れな地での警備は困難が伴った。しかし、少なくとも精強三機担当区だけは地図を見なくても書けるようにし、また日程や部隊配備にしても、すべて頭に入れていつでも応用がきくようにしておいた。

二　装備資器材を再点検する。

「精強部隊」と言えど、装備資器材が不十分では力を十分に発揮することはできない。派遣部隊以外の残留部隊も後方治安という重要な任務を担っている。装備担当として、両者のバランスを考え、中隊・係と何度も打合せをし、現場で「資材が足りない」「壊れている」と言われないよう、再度入念に確認した。

三　絶対泣き事を言わない。

過去私達の先輩は、三機メモリー館が語るように、多くの負傷者を出しながらも首都の治安を守ってきた。当時とは情勢が異なるとはいえ、現に極左は、無差別ゲリラを敢行するという厳しい情勢にあり、更に堂々犯行声明まで出している。治安の任務に当たる者として、平和を念ずる者として、彼らの跳梁を断じて許すことはできない。

我々機動隊員は、首都治安の最後の砦であり、先頭でもある。泣き事を言ったのでは伝統に泥をぬることになり、士気の低下にもつながり、暴徒を防圧検挙することができない。今こそ一層気持ちを引き締め、先人に学ぼうと前向きの姿勢で臨んだ。

おわりに、最近読んだ本の一節に、「人々がビートルズに酔いしれている時、ベトナムでは二十歳そこそこの若者たちが熾烈な戦いを続けている」というのがあった。機動隊といえば治安の要である。一睡もせず検問やエリア警戒に従事している時、同世代の人間が酒に酔って罵声や暴言を吐いて走り去っていく。それでも愚痴もこぼさず、じっと耐えている隊員の姿をみていると、「R警備は絶対完遂してやるぞ」と燃えずにはおれなかったのが私の本心だった。

（警備係）

警備の裏方として

四機　山本　長利

「警視庁から各局、神田署管内から皇居に向けて飛翔物が発射された」八月二十七日午後八時二十分の出来事である。この時から、R警備に突入した。翌日から特別機動隊員も召集され、各地で検問が始まった。当隊は沖縄国体警備を控え、その準備もあって一段と忙しくなった。

そして九月九日、沖縄派遣部隊の出発、私たちは部隊の出発式、見送りにと庶務係総出でこれに当たった。当然ながらR警備が始まる前に、私たちは庶務主任を中心に、どうして隊員の士気を高めるかを考え、警備の裏方としての勤務に徹することはいうまでもなく、さらに、「待機場所の確保……」「隊舎警備は……」「学校部隊との連絡は……」等々細かく検討し万全を期した。

R警備が始まり、必然的に隊舎警備も強化され、庶務係は隊内外の環境整備を実施した。今年は猛暑だったせいで木や草も伸び放題という状態で、非番の寮員の応援を得て草刈を行ったが、これは結構骨が折れる作業であった。そして沖縄国体警備に基幹隊の大半が出動したため、隊舎警備も残った本部員で当たった。

R警備に入って連日のように副隊長指揮の警備が実施され、私は副隊長の伝令として出動した。九月十九日は、早朝から浩宮殿下の訪沖阻止を叫ぶ中核派の集会とデモ警備に当たった。対象がR警備の始まるきっかけともいえる飛翔物を発射した中核派だけに、実査・戦術会議と慎重を詰めを行っての警備であった。

こちらに残った部隊も、沖縄派遣部隊に負けないつもりでがっちりと規制したため、集会デモは平穏に推移し、事故もなく解散した。この間にも庶務本来の仕事をおろそかには出来ない。沖縄警備を終えて帰隊する部隊を迎える準備、家族慰安会の準備も今からしておかなければならない。体を使ったり頭を使ったり、私にはいろんなことを覚えるよい機会であった。

また庶務係は、隊員が病気やケガをしたときにその世話をする係でもある。今回もみんな元気でこのR警備に完遂したが、不幸にしてケガをしたときは、私たちがその仕事に当たらなければならない。

これからもR警備のように長きゃびしい勤務が続くが、私は、警備の裏方として一所懸命頑張ろうと思っている。それと共に一人のケガ人や病人も出さずに、諸々の警備を乗り切っていけるよう願ってやまない。

（庶務係員）

私の勤務日誌から

五機　畠山　義彦

「R警備完遂」、私にとってまたひとつ大きく、そして貴重な思い出が増えた。厳しい日々の連続であったが、機動隊員としての誇りを堅持し、組長としての責任を果すため懸命に努力した毎日であり、それだけに充実した期間であったと思う。以下期間中の数々を紹介してみたい。

九月十二日　日勤

「明大前で検問中の警察官の足をひいた被疑者（極左）を、明大校舎内から出てきた極左約三十名に奪還された」という事件が発生し、その旨が基幹系で流れた。周辺で検問中であった当中隊の遊撃車の一台が当初、「明大前」を「米大前」と聞き違え、危うく米国大使館に向け緊急発進を開始するところであったという。幸いにも続報を確実にキャッチし事なきを得たが、部隊活動にとって無線は命であり、中枢神経としての役割を果たすものである。機動隊員として警備訓練等で気力体力の錬磨を図ることはもちろん重要であるが、無線機に対する認識を新たにし、その操作要領に習熟することがいかに大切であるかを痛感させられた出来事であった。

九月十六日　当番

検問、検問の日々が続き、ゲリラ車両を検挙しようと一所懸命やっていると、無免許・酒気帯び・覚せい剤違反、さらには指名手配などいろいろとつかまる。今日も検問開始の直後、無免許運転の被疑者を現行犯逮捕した。久しぶりの逮捕手続書だが、いざ書き出すとなかなか筆が進まない。時間のかかること数時間、自分の能力のなさを痛感する。自信をもって仕事ができるよう、書類作成訓練にも真剣に取り組まなければと思う。

九月十九日　当番

R警備の真只中、今日は、天皇陛下の沖縄御訪問に反対する極左のデモ警備である。検問からはじまり、併進規制、解散地に至るまで一時も目を離せない。何事もなく解散地に送り込んだ後の充実感は、機動隊員だからこそ味わえるのであり、この気持ちを忘れずR警備を乗り切るために頑張ろうと心に誓う。

「四万人、ひとりひとりが警備の主役」のスローガンのもと、機動隊の組長として恥かしくないよう、自分なりに最後まで油断することなく極左に立ち向か

ったつもりである。緊張の連続であった。それだけに警備が完遂された時の満足感は、何ものにもかえ難いものであった。

R警備を通じて得た教訓は計り知れないものがある。精強五機の一員としてさらに成長するため、今後そのひとつひとつを着実に生かし努力していきたいと考えている。（中隊員）

強い絆に結ばれて

六機　塚谷　徳夫

緊張感がビーンと張りつめる。見えざる敵と一瞬一瞬の戦いである。第六機動隊は、羽田空港のターミナル地区及び整備場地区において、秋季警備のスタートとゴールのテープを、スマートにしかも安全に切らせなければならない重要任務であった。

空港警備は、「警視庁の最後の砦であるがゆえに、第六機動隊が任務につける誇りがある」と舟川隊長が訓授の中で示された。「正義のために血を流す男の集団」である、という強い使命感に燃え、羽田空港を死守した。

◎事前実査と家庭サービス

羽田空港では何度となく警備に従事したが、「隅から隅までの動静がわかるか」と問われると自信がなかった。これを克服するためには休みを利用し、一般人として実査することを考え、秋季警備に突入する前の夏休みに、家族サービスを兼ねて、羽田空港の見学を実施した。私が妻に「空港に連れて行く」と言うと、驚いた顔をしたものだ。家族三人で、ターミナルを回った後、展望テラスで食事をしたことは、想い出に残るものであった。

◎感激の一言

連日の警備による疲労と慣れから、ややもすると勤務が緩慢となりそうなターミナル地区での勤務中、空港の関係者と思われる紳士風の方から「お巡りさん、もう少しですね、居なくなると淋しくなります」と沖縄国体関連警備も終盤の頃、なにげなく掛けられた言葉の中に、我々を信頼し、陰から支えてくれていた人々の期待を痛感した。

◎第六機動隊の絆

ある雨の日、担当の隊員が、深夜の交代時に早めに起きて交代に行くので、「どうした」と聞くと、「立番中の隊員が雨にぬれて、帰っても直ぐに休めないと思うので、早めに交代します」とのことであった。厳しい警備もかかわらず、同僚を気遣う隊員の心根に、警備が厳しくなればなるほど連帯感が生まれ、強い絆で結ばれて行く「第六機動隊の融和団結と絆が強くなる源がある」と強く感じた。

厳しい秋季警備を完遂し、隊全体に喜びと満足感が満ちあふれている。今後、この貴重な体験を活かすため、あらゆる事象に積極的に取り組み、さらに、第六機動隊の伝統を積み上げ発展させていく覚悟である。（分隊長）

都内の治安よーし

七機　滝口　秀次

警視庁の総力を上げてのR警備。スローガンは、「四万人、一人ひとりが警備の主役」であった。

R警備は九月一日から始まる予定であったが、直前に中核派の発射式爆発物が皇居を目標に発射されたため、ただちに警戒強化がなされ、我々機動隊員はもちろんのこと、当庁職員の全てがこの警備の重大さの認識を新たにするとともに、R警備の完遂を誓った。

ところで、「史上空前の大警備」と言われたサミット警備には、私は中隊員として警備に従事した。今回のR警備では、操車係の一員として中隊バスの運転を担当した。中隊バスの運転担当は、操車係の花形であり多くの警備現場へ出動する。それ故に係員として、常に心がけなければならないことも多くある。隊員を安全かつ迅速に搬送する、突発時にはいち早く現場へ急行する、そのためには何をおいても地理に精通していること、等々であり、この基本を忠実に実行できるか否かが、重要なポイントである。

また、R警備期間中、東宮御所警備をはじめ高速出口検問、各地区二キロ圏ならびにエリア検問等、さまざまな検問警備に従事した。特に各検問の際には種々のことに遭遇した。

地理指導では感謝され、お礼を言われることもあるが、検問になるとそうはいかずトラック運転手などからは「またですか、さっきもそこで止められたばかりですよ。何回止めれば気がすむんですか」とか、「おれは忙しいんだ。もういい加減にしてくれ」など、不愛想たのうえない言葉で、応答されたものである。それでも私は、「顔で笑って、心を鬼にして」、この様な地道な任務がゲリラから首都の治安を守るのだと信じ、警備に従事した。

これから先、まだまだいくつもの大警備が待ち構えているだろう。しかしその時、たとえ操車係でなくとも、その警備がいかなる警備であろうとも、今回の長期に亘ったR警備を完遂したという自信を胸に、取り組みたいと思う。そして今、「R警備完遂」ということで、私の運転するバスは、次の警備に向けて発車した。「右、よし」「左、巻き込みなし」「都内の治安よーし」、今日もまた、私の運転するバスは都内へ向かって走っている。（操車係員）

無線担当として

八機　寺山　勝人

昨年九月七日、私は第四中隊の伝令（無線担当）を命ぜられた。昭和五十九年秋、着隊以来早や三年。今まで無我夢中で過してきたが、ふと自分を見つめるとも中隊の組長という立場にあり、またR警備というサミット警備にも匹敵する大警備の完遂を目標とする大切な時期に当たり、いやがおうでも責任の重大さを感じない訳にはいかなかった。

そこで私が考えたことは、曲がりなりにも無線担当として、今まで経験し得たものを全て後輩にたたき込もうということで実行できるか否かが、重要なポイントである。

また、R警備期間中の八機の任務は高速対策、エリア警戒、皇居警戒など部隊がいくつかに別れて点として配置することも多く、警備に従事するたびごとにこの点を結ぶ無線の重要性を認識し、厳しいR警備期間中、尻を叩きながらも訓練を重ねておいてよかったと思った。

私は、後輩に教えるということで資料に何度も目を通し、通話を前もって練習したり、これが私自身の訓練にもなり、新米無線担当ながらどうにか無事R警備を完遂する力になれたと思っている。

これからも中隊の無線担当として知識・技能の向上に努め、伝令として中隊をよくまとめ、今後の警備に全力を尽して行きたい。（中隊員）

事務局は熱く燃えた

九機　柿原　浩進

着隊してから今までに大警備をいくつか経験したが、その中で、今回のR警備は、東京サミットに匹敵する大警備といえる。極左暴力集団が執拗にゲリラを企図する情勢下で、都内でも検問・検索等をはじめとするゲリラ事案防圧対策が日夜続けられた。我らR警備事務局が、練りに練った警備計画が実行に移され、一応R警備完遂の一翼を担うことができたと思うと感無量だ。

私は警備係員として、これほどの大警備に従事できた事に大変な責任と喜びを感ずる反面、その任務の重大性を考えた時、身の引き締まるのを覚えた。

R警備も終盤に近づいてきた時、まだまだ情勢はどのように変化するか分からないので、R警備事務局は熱く燃え続けており、その気魄を肌にひしひしと感じた。警備主任を筆頭としたR警備事務局は、それぞれが分担された仕事を持ち、地道に計画を練り、少しずつ積み重ねて形を作ってきたのだが、その途中には色々なエピソードや失敗がたくさんあった。

私の担当は、ビニール地図の作成と、パソコンで警備計画の文章を作成することだが、夜中にパソコンを使用していると、時に睡魔に襲われ、ふっと気がついて見ると、せっかく苦労して作成した文章を全部消滅させ、また一からやり直しと言うような、実に不合理で愚かな失敗をし、怒りの持って行き場がなかったこともしばしばだった。

また、資料を印刷し綴じる段階になると、あまり分厚いのでホッチキスが下まで通らず、文房具店を何軒も回って探した事もあった。しかし、当R警備事務局は素晴らしい大先輩ばかりで、失敗があってもすぐにカバーをしてもらえ、仕事も順調に進んだ。

「備えあれば憂いなし」の言葉通りにあらゆる状況を考え、完璧に完璧を重ね警備実施計画を作成し、R警備に携わる隊員個々の頭の中にたたき込む事が、事務局の任務と考え頑張ってきた。

緊張の糸が益々張りつめて行った終盤、私自身、自分の役目をよく見極め、事務局の士気高揚に努めながらR警備完遂のため、残された期間に全力を傾注していったのである。（警備係員）

勤務中異常なし

特車　大田　悦二

機動隊勤務は三回目になるが、気持だけは若い？機動隊員である。今回の沖縄国体関連警備では、特科車両隊は東京国際空港を担当し、とりわけ武道小隊を主軸とする我が精鋭三中隊は、空港の中枢部ともいうべきターミナル地区の警備に当たった。

この激務の中で、沖縄国体関連警備完遂を合言葉に連日の早朝柔剣道訓練をはじめ、非番日も猛烈な警備訓練を実施し、訓練を通して一致団結を図ると共に忍耐力をつけ、気力を充実させてきた。

R警備の最中、本庁舎警備を担当した某日の当番日、午後十時頃、総合庁舎勤務員から、爆発音がした旨の報告を受けた。直ちに待機員によって検索を実施するとともに、他の配置員が確認した結果、そのような音はしなかったとの報告である。又、検索するも異常がなかったため、一時間後に検索を打ち切り、通常勤務に復帰し、本日も異常なしかと思ったとたんに再度、本庁舎指揮所において火災警報、総合庁舎ではサイレンが鳴り渡った。

場所は総合庁舎地下一階を示しており、私は、「ゲリラにやられた」と思ったとたん一瞬体の血が抜けていく様な感じで呆然となったが、すぐ無線で配置員に指示し、巡視中の中隊長に即報すると共に、待機員と一緒に現場に急行した。検索及び場所の確認をしたが、総合庁舎一階はどこも異常がなく、火災報知器を全部確認した結果、煙感知器の故障と判明し安堵した。

実はこの場所は、約一ヶ月前に私の指揮で検索点検を実施した担当区だった。約一時間前の爆発音の件とともに警報器が鳴ったとたん、寿命は十年も二十年も縮む程の驚きであった。私は隊員として群馬県下日航機墜落事故に従事したが、これほどまでに肝を冷やしたことはなかった。

幹部の巡視とともに、東京空港ターミナル地区に「勤務中異常なし」という隊員の声が響き渡った。勤務終了後、帰隊し隊庭に整列した隊員の顔は、仮眠もほとんどできないターミナル地区警備のため、どす黒く煤けているが、眼は生き生きしており、まさにこれぞ警備のプロ機動隊員の顔という感じであった。

R警備完遂を合言葉に、今日も三中隊一丸となり気迫と団結で頑張っている。（小隊長）

R警備での検問

精強機動隊
本年も宜しく

鈴木実
東鋼業㈱
大野興業㈱
高周波熱錬㈱
㈱スチールセンター
大洋製鋼㈱
東京ニッケル㈱
㈱上野百貨店
大東港運㈱
橋山和正
国見山㈱
浅田弥三郎
竹之上誠剛
岡谷鋼機㈱
中京製線㈱
東海鋼材工業㈱
内外運輸㈱
堀口海運㈱
早達運送㈱
北越メタル㈱
㈲機動隊員等を励ます会
東北支部

読者の広場

佐渡行——順徳院を偲ぶ

滋岡長平

明治、大正の頃お正月の遊びと云えば都鄙を問はず百人一首のカルタが全盛であった。

従ってその頃門前の小僧に過ぎなかった我々でも、有名な古歌は聞きかじって居たものである。

この百首は、中世の大歌人でありかの明月記の筆者である藤原定家の選と傳へられて居るが、末尾の二首は、彼が寵を受けた英主後鳥羽院の「人も惜し」で始まる御製と、上皇最愛の皇子順徳帝の「百敷や古き軒端の忍ぶにもなほ余りある昔なりけり」と云う御歌で終って居る。

順徳院が承久の変に討幕を企てられた上皇に従ひ、事敗れて父君は隠岐に、自らは佐渡に配流せられ、二十余年の後に此の島で崩ぜられたのは周知の史實である。

昨年十月半ば急に思ひ立って夫婦で佐渡に二泊三日の旅を試みた。駆け足の旅行で語るのはおこがましいが、此の島は意外と温暖で農漁業共に豊かであり、風光も美しく、文化遺産の多いことが印象に残った。

遺跡の中には、慶長時代から多数の無宿人を酷使して幕藩体制を支へる金を堀り出した相川鉱山もあるが、初めて国府、国分寺を置いた古代から、政治宗教及び芸術にかゝわる人々が為政者の忌諱に触れて配流された遺跡や傳承が残されて居る。

穂積老、文覚、日蓮、京極為兼、世阿彌等は在島の後赦免され、その辛苦が後に酬はれたが、順徳院や後の日野資朝の如く此の島で生を終えた流人には哀傷を禁じ得ない。茲に十善の御位を廃せられ不本意を生涯を過された院の御事績を偲ぶことにしたい。

院は御母修明門院、御鳥羽院の第三皇子で、承元四年（一二一〇年）兄君土御門上皇の後を受け十四才にして即位された。

その前後から朝幕間に暗雲がきざして居たが、源實朝が殺されるや、将軍の後嗣と畿内の荘園の支配権問題が尖鋭化し、承久三年（一二二一年）後鳥羽院から執権北條義時追討の院宣が下った。

直ちに十万の幕軍は西上し京方を打倒して終に三上皇を配流する他、反幕の朝臣等を厳に処断した。「百敷や」の御製は変に先立つ六年の院の御嘆きであるが素直な御性格から、文武兼備の豪邁な父君に凡て殉じて行動されたものと思はれる。

変後八月、院の佐渡行に扈従する者十一名、下命された筆頭の冷泉為家は何故か御供を逃れて居る。一行は寺泊から小佐渡に上陸され、国中平野の北西、泉に仮の庵を営まれた。

二百余年の後、世阿彌が著した金島書にも記されて居るが、現在金井町泉の黒木御所跡として傳へられて居る辺りであらう。また南敷紆の真野町に御火葬塚跡がある。

七百余年前の辺地に、僅かの近侍等と過された原始生活に等しい御日常は察するだに痛ましい。この島で儲けられた三人の御子が凡て早世された事は、夫を如實に物語って居る。

院は若年から讀書家で八雲御抄、禁秘抄等の著作もあり、和歌は主として俊成女に就き、紫禁和歌抄、佐渡百首の御集があり、後者は都の定家、家隆に送られた。

順良な御性質のまま飾ることなき平明な調べなるに、定家は妖艶なると主観的な褒詞を呈して居るのは如何なるものであらうか。

先に述べた如く百人一首は定家の撰に依るものだが、戦後の研究に依ると、宇都宮頼綱が乞うて小倉山荘の障子を飾るべき最初の選歌の中に、後鳥羽院と順徳院の御製は除かれて居たことが判明した。

両院にあれ程重用された定家が幕府を怖れて当代の二名手を省いた事は当時も大方のきびしい批判を受けたと傳へられる。後鳥羽院が定家を西行と対比され、「歌の上手」と評された通り彼は技巧を尊ぶ作家に過ぎず、実生活でも官位や財を好む俗臭があった様に思ふ。

然し乍ら後年、両院の御製を他と入れ替えたのは定家の子で冷泉家の祖となった為家であるとされる。順徳院御在位の時特に目をかけて用ひられたのに、佐渡御遷幸の際御供することもなく、長らく忸怩たる想にかられて居た彼が罪滅ぼしの為に行った事であらうか。

万事不如意な生活の中で、院は御帰京を諦めず風雅の道に紛らはして居られたが、十九年を経て父君隠岐に崩ぜられるを聞し召されて三年の後、四十六才の生涯を閉じられた。実は絶食に依る御憤死と傳へられて居る。御遺骸は真野の丘に運んで荼毗に付し、御遺骨は藤原康光が捧持して洛北の後鳥羽院大原陵に合葬し奉った。

源平争覇の後、鎌倉幕府が創立されたが、後白河法皇から後鳥羽上皇に至る間、朝権恢復を目ざす度々の御企図もこの承久の変でピリオドを打ち、武家政治の確立を見るに至った。

この度は秋酣な佐渡を訪れてその明媚な風光の中に、その悲しい歴史を追想する旅をした。離島には何故か旅情をそそる魅力がある。

この次は隠岐の島に渡って不覇の帝王にして新古今集の真の撰者であられた後鳥羽上皇の旧蹟を訪ねて見たい。

ボランティア活動の推進

堀口薫

今、全国津々浦々は、「知恵比べ」「力比べ」の競演の時代となっている。地域振興も従来のような行政依存型から、民間の知恵と力を基盤とする質的な転換がみられる。

こうした状況の中で、活力ある地域社会を作りあげていくためには、行政の効果的な政策運営はもちろん必須の条件であるが、市民の自立・自助に支えられた社会参加活動への積極的参加を行政運営に反映することが必要である。

また、社会環境（所得水準の上昇・高学歴化・余暇時間の増大）、市民生活ニーズ（生活の個性化・生きがいの充実）の多様化といった社会変化に伴い、市民の社会参加活動への意欲は高まり、各種民間団体への参加活動も促進されつつある。こうした市民の社会参加活動は、今後も強い高まりをみせてくるものと予想される。

市民が自発的に社会参加活動を行なうことは、民間の知恵と力を行政運営にも生かすことになり、地域ぐるみでの「まち」の活性化につながるとともに、地域全体に社会的活力を与えるようになることが期待されよう。

一般にわが国では、こうした社会参加活動は〝福祉ボランティア活動〟という名称にみられるように、福祉領域のみに限定されやすい嫌いがあった。しかし、近年のわが国のボランティア活動も、教育・学習活動・健康・医療活動・福祉活動・生活環境改善活動・消費生活改善活動・趣味・スポーツ・文化活動等といったように、活動対象も多種多様化するとともに、あらゆる生活領域がボランティア活動の対象となりつつある。

したがって、今後、こうしたボランティア活動の推進に当たっては、市民の生活ニーズに対応した広範な領域を、その対象として考えることが必要となってくるであろう。

そこで、こうした市民の自主的社会参加活動をより一層推進し、いわゆる「民間活力」として活用するためには、行政としてもこれまでのような〝福祉ボランティア〟に偏在化した政策対応では、十分に機能を発揮できないものと考えられる。そのためには、こうした民間活力が最大限にその効果を発揮できるような総合的なボランティア活動支援のためのシステムづくりが必要となってこよう。

その意味で、まず地域に内在しているボランティア活動推進のための資源（人・物・財・ノウハウ・時間等）の見直しを図らねばならない。

さらに、一般の①ボランティア活動の活動場所、②ボランティア・リーダーの育成、③ボランティア情報活動の提供、④ボランティア活動への財政援助のあり方等といったボランティア活動活性化のための環境づくりに政策的に対応しなければならないだろう。

海峡の町

山口県下関市　深野幸親

港町下関は、本州最西端に位置し、古くから本州と九州を結ぶ要所として栄えました。特に、大陸（韓国）との玄関口となっており、ソウル五輪を目指し、ターミナルビルの改築中です。この港から、多くの選手や見物客が出港していく事と思われます。

私は、健康管理の為、早期五時頃起床し、近くの球場を十周、公園を一廻り散歩する事を日課としています。未だ明けやらぬ空を仰ぎながら公園の頂上に至りますと、左に関門橋、それに連なる対岸の門司、小倉、戸畑と街の灯が続き、その灯の上に風師山、戸上山と連峰が浮かびます。その間の海峡を、多くの船が汽笛を鳴らしながら行き来する様子は、正に一幅の絵であり、その美しさにただただ見とれてしまいます。

海に囲まれた下関は、新鮮な魚介類に恵まれ、うにとふぐが特に有名です。昨年も九月十七日から南風泊市場で初せりが行われ、本格的なふぐシーズンを迎えました。下関にお出かけの折は是非御賞味下さい。ふぐ通になること請け合いです。

息子を思う

鹿児島県川内市　橋口直道

昭和五十六年三月十九日、警視庁警察学校への入学通知が届いた時には、息子本人はもとよりうのないものがありました。それと同時に息子が卒業できるだろうかと心配していました。その頃息子から電話がくる度に励ます言葉は「上司の命令に忠実にあれ」そして、「立派な友人を持ってお互いに励ますように」と言い聞かせました。

そうしているうちに、一年間の学校生活が終わり、警察学校から卒業式の案内状が届いた時には、当日が待ちどおしい気持ちで一杯でした。警察学校の卒業式には夫婦で参加させていただきましたが、卒業式での先生と生徒の別れを惜しむ姿を見た時、感極まるものがありました。

卒業式でのあの姿を生涯忘れず、苦しい時には初心に返り、学校での想い出、又、友情を大切にし、将来に向かって努力してもらいたい。人間一生の間には、苦しい事、楽しい事があるが、先輩の指導をよく守り、警察官としての誇りを持って、与えられた任務を自分から進んでやり遂げる忍耐と根性を持って努力して欲しい。

最後に、田舎者で世間知らずの息子ですが、上司、同僚の皆様の御指導を心からお願い申し上げます。

（警視庁七機・橋口浩久巡査の父親）

しい上司、先輩、同僚に恵まれた息子が、人々の為、故郷（下関）の代表者としてなお一層の努力を心から期待しています。

どうぞ機動隊の皆様、健康に充分留意され、益々の御活躍を祈っております。

（警視庁六機・庶務係深野巡査長の父親）

お知らせ

当励ます会支部総会を次のとおり開催致します。会員各位奮ってのご参会お待ちしております。

東北支部総会　一月二十七日（水）十七時三十分より仙台市「パレス平安」にて。

名古屋支部総会　二月二日（火）十七時より名古屋郵便貯金会館にて。

北陸支部総会　二月十七日（水）十七時三十分より新潟グランドホテルにて。

無差別殺人集団「極左」

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

東北 名古屋 支部総会盛大

暖冬に暖かい心の通い合い

昇り竜の幕開け

十五年目を迎えた機動隊員等を励ます会は、年を追ってますます充実し、その輪も拡がっている。東京本部と全国八つの各支部では、今年も機動隊員等を招いて、盛大な総会や支部総会及び懇親会を次々と予定しているが、その幕明けとして、東北と名古屋支部総会が開かれた。

東北支部総会

小雪舞うなか、第十二回東北支部総会が一月二十七日仙台市で開催された。

小笠原義男・励ます会東北支部世話人の開会の辞で始まり、励ます会三澤昭郎・東北支部長と鈴木實・理事長がそれぞれ力強く励ましの言葉を述べた。

来賓祝辞として東北管区・古山剛警察局長と宮城県警察・小林健司本部長は、昨年の沖縄R警備や成田への出動に続いて今年も「むつ」新母港への入港警備に機動隊員が出動、任務を全うしたが、引続き治安維持に傾注する決意を語った。

麻生博・励ます会監事の乾杯の音頭で懇親パーティーに移り、柴田秀次朗・東北支部世話人の万歳三唱、宮城県警・大累勝弘機動隊長の手締めで閉会した。

名古屋支部総会

第十三回名古屋支部総会は二月二日名古屋郵便貯金会館で盛大に開かれた。

式次第どおり励ます会会員・成田清賢氏の司会で、全員が国歌を斉唱、励ます会岡谷篤一・名古屋支部長と鈴木實・理事長が、隊員たちの日頃の労をねぎらうと共に励ましの輪を強化していくと挨拶した。

中部管区・福島静雄警察局長と愛知県警察・於久昭臣本部長は、来賓として「励ます会の支援に感謝、今後とも治安の維持に努力して国民の期待に応えていく」と祝辞を述べた。

励ます会・木村政次大阪支部長が乾杯の音頭をとり、歌あり寸劇ありの余興をバックに隊員と会員が歓談、名残惜しまゝに愛知県警・山本豊機動隊長の謝辞、麻生博・励ます会監事発声による万歳三唱で幕を閉じた。

一段と高まる励まし

昨年は多事多端な年であったが、本年も警備情勢はいぜんとして厳しいものがある。警察は総合力を発揮して、極左暴力集団の根絶など治安維持に万全を期すが、この中核となるのが機動隊員等である。警備のプロとして、その強じんな体力と精神力、集団警備での高度な技術は自他共に認めるところだ。

しかし、精強を誇る機動隊が任務を完遂するためには、国民の理解と協力が前提になる。善良な国民の警察への理解からくる協力は、また警備遂行につながる。今年も静かな一年を送れることを希求して、国民と警察の〝かけ橋〟である当励ます会の励ましにも一段と力が入る。

今月の言葉

国際化する犯罪と日本

昨秋三菱銀行有楽町支店前で現金輸送車が襲われ、三億三千万円が強奪された事件は、意外にもフランス人の犯行であり、しかもフランスでの名画の盗難や密売が絡むという事件にまで発展した。これも高度成長した日本と歩調を合せるかのように犯罪も国際化の傾向にある。この現金強奪事件では、その中心人物と見られる犯人がパリ近郊で殺害された。また最近では、その犯人グループの一人が逮捕されたとか、いずれにしても背後にはマフィア、シンジケートが存在するものと見られている。しかもこの事件の橋渡し役に日本人が登場するなど、これまでの犯罪とは全く様相を異にしているのが特徴である。

高度成長により、世界の中でも屈指の大金持の国になった日本が、海外の犯罪者から見れば絶好のマーケットに映るのではないだろうか。海外で名画と言われる絵画を何億円もの大金をはたいて競り落したり、またハワイやニューヨーク等では、ホテルやビルを買い取ったりして話題になるのもその良い例である。

プロの犯罪者グループが自国でその道の訓練を受けて来日し、短期間に広い範囲で犯行を繰り返し、直ぐに離日する事例も目立っており、これでは世界に誇る日本警察の警備体制をもってしても、十分な防止対策も捜査も思うに任せないのが実状であり、誠に腹立たしい限りである。海を越えて日本に上陸して引き起す外国人による犯罪ばかりではなく、日本人による海外での犯罪も多く、保険金殺人や広域暴力団による麻薬や覚醒剤それに銃砲等の輸入など、年を追って増加し、その方法も悪質化・巧妙化しているのが現実の実態である。日本で働き期限の切れたパスポートなどで不法に残留し、検挙される外国人が急増しているのも偽らない事実である。

貧しい国から豊かな日本に希望を持って来日した外国人が切羽詰まった時、これらの犯罪に走るのではないかとも考えられる。犯罪の種類は異なるが、ビルマ沖アンダマン海域上空で発生した大韓航空機の爆破事件も、ソウル五輪を妨害する北朝鮮特殊工作員の犯行であったことが判明するなど誠に物騒な世の中でもある。

また新設されたばかりの警視庁国際捜査課の手によって、昨年ニューヨークの有名な楽器店から盗まれたバイオリンの名器「ストラディバリウス」がアメリカ人によって日本に持ち込まれ、密売しようとして東京で捕まった事件等、これらも金持国日本がマーケットとして計画された犯罪なのである。

航空機等の発達で国と国、人と人が容易に交流することが出来ることは、お互いに国同士の理解を深め未知の世界を知り、より国際化が進むことは大いに歓迎するところであるが、しかし国と国との交流が密になることにより、国境という境界が次第に消えて行くことにもなる。犯罪の交流で国境が消えて行くのは、如何に国際化が進むとはいえ、この様な形での国際化は遠慮したいものである。

この様な世界情勢下にあって、今日もまた何時もと変わることなく、成田新東京国際空港では世界の各国より、また日本から世界の国々へ、それぞれの目的をもって多くの人々が発着して行く中、日本の治安維持のため、誇りと信念のもとに如何なる事態にも迅速かつ的確に対処出来る強靱な気力と体力と団結力をもって、任務に全うされている機動隊員等の皆様方に対し、心から敬意を表する次第である。

（小川郁雄）

辰年に起つ

2月4日の立春、2月18日の旧正月が明けて、新年の行事もひと通り終り、これかららんまんの春を迎えようとしている。さて、勢い盛んといわれる辰年のこの正月に、機動隊の皆様はどんな抱負と考えを持たれたことだろうか。警備情勢が厳しく、テロ・ゲリラの国際化が憂慮されるなかで、その使命をいかに全うしていくか、率直な感想を聞かせて頂くことにした。

警視庁機動隊

今、思うこと

一機　廿楽（つづら）　省吾

「光陰矢の如し」、年末になると頭をよぎる言葉である。高校を卒業し希望に燃えて警察学校の門をくぐった昭和五十七年の春。現在に至るまで、あっという間に月日が流れたように感じる。今年は年男、ここで心機一転し、襟を正し、更なる飛躍をすべく、しっかりした目標を立てて前進する心構えだ。

まず仕事面の抱負、目標として、一人前の機動隊員になることはもとより、庶務係員として大いに貢献できる隊員になるよう心がけていきたい。反省や後悔は誰もが持つものだ。昨年の反省を今後の長い人生に生かすために、今年の抱負を具体的に述べたい。

一、庶務係員として

庶務係の任務は他の係・中隊がより仕事をしやすくすることである。そこで私は各係との連絡を密にし、縁の下の力持ちに徹したい。

二、一機隊員として

当隊は各国要人、大臣並びに当庁各級幹部視察に伴う諸行事が年間を通じて数多くあることから、第一機動隊員としての誇りを感じると同時に、仕事に対しても生き甲斐を感じる。一つひとつの行事が終わることに「やった」という充実感が覚える。機動隊に来てよかったと思う瞬間である。常に自分の足元を見つめ「今自分がやるべき事は何か」を認識し、任された仕事はもとより、仕事を先取りするくらいの積極的な姿勢を堅持したい。

三、勉学を継続する

人並みの事をしていたのでは、昇任試験に合格することは無理だと思う。また勉学を励行することは、何よりも難しい事でもある。合格という栄冠を目標に、挫折することのないように心掛ける。全項目ごとに、勉強計画を立て、効率のあがるように、時間を有効に使いたい。

おわりに、決意だけでは誰でもできる事である。今年の終わりに昨年と同じ反省や後悔をしない様に努力したい。

（庶務係員）

今年の目標

二機　青山　大一（たかかず）

一、はじめに

私は機動隊に着隊して二回目の正月を迎えた。毎年幾つかの目標を立て、その目標を実践していくのだが、二か月もするとほとんど実践しなくなる。しかし今年は「辰年」で、昭和三十九年生まれである私の年でもあり、頑張って実践して行き、この一年を充実させたい。そこで今年は次の目標を立てた。

二、目　標

(一)　一か月に三冊本を読む

(二)　非番日に三キロ走る

(三)　昇任試験に備えての資料集め等をする

(四)　毎日、新聞を読む

(五)　毎週一回書道をする

三、目標の具体的実践について

(一)については、趣味でもあるのでいくら忙しくても、一日に最低二時間位は読んで目標を達成させる。読書をすることによって文章能力を身につけたり、漢字や諺等を覚えたりするので、僅かな時間でも惜しまずに読書をする。

(二)については、当番勤務で身も心も疲れきっていても、自分の体力維持として行い、走る際は自分のペースで無理なく走る。非番日に走ることと合わせて、走り終えた後は入浴して汗の処理をし、ぐっすり寝て疲れをとり、翌日の厳しい勤務に備える。

(三)については、私は来年受験資格ができるので、それに向け上司や、部長試験に合格した先輩から話しを聞き、その話しを参考にしながら、新聞や毎月購読している刑事資料・質疑回答集・警察公論（SPE）、自警等から、各種の資料を有効に集め試験勉強に取り組んでいく。

(四)については、社会は常に動いており、いろいろな事がおきている。時代に取り残されないようにする為に、毎日新聞を読み、国内外の情勢をつかむ。新聞には、政治経済を始めとして、事件事故や雑学的な事柄等、全般にわたって載っている。これらの記事の中で、昇任試験に必要な判例等を切り抜いて保存する。

(五)については、書道をすると心が落ちつき、字を書くことに集中でき精神面が鍛えられる。毎週一回では少ないと思うが、短時間で集中力等を養い精神面を鍛えるにはもってこいである。また、自警に毎月書道を提出する。

四、おわりに

目標を一年間実践していくことは難しいが、自分自身に厳しく、目標を確実に実践しながら、仕事や私生活に活かして有意義な一年を過ごしていく覚悟である。

（中隊員）

新年三つの決意

三機　住谷　浩

「スミヤユタカと申します。よろしくお願い致します。出身は町田市で……」、前日までの雪も止み、厳しい警察学校での一年間の学校生活にピリオドをうち、卒業配置先での私の挨拶である。

警察学校では基本を身につけたとはいえ、これからの警察人生においては、まだワンステップにも至っておらず、仕事に対する不安で一杯であった。それから何年かの歳月が流れ、多少惰性に流されている現在の自分を見詰め直してみると、不安の中にも希望に満ち、自己の目標に向け努力していたあの頃が想い出されてきて、恥かしく思えてくる。本年は年男という事もあり、二十四歳の自分を再認識するという意味もあって、本年の私の夢、つまり目標をあげてみた。

第一は、警備のプロをめざし、地味で地道な小さな仕事も大切にしていきたい。そしてゲリラ事案は、決して担当区からは発生させない信念をもって何事にも取り組んでいくつもりである。私は副隊長伝令として警備現場で「各警戒員は、惰性に流されることなく新たな目で本警衛警備に当たれ」と何回となく副隊長命を流してきた。聞き流してしまえば、単なる警戒強化の命令と解される内容であるが、私は、適切な命令と思っている。この小さな気配りの積み重ねが警備を成功させる原点であることを肝に銘じ、どんなささいな事をもおろそかにせず、忠実に自己の任務に邁進していきたい。

第二は、体力を向上させ健康に十分気を配るということである。仕事が忙しくなると、とかく忘れられるのが体力造りと健康であると思う。体力に自信がないと警備現場にいっても、与えられた仕事に対しても、自信をもって警備を遂行することが出来ない。自信をもって仕事に取り組むという事は、我々機動隊員にとって特に大事なことであり、万全な警備を遂行することにもつながっていく。私は普段から暇をみては体力増強に努めていくつもりだ。

第三は、昇任試験合格と趣味を持つことである。忙しい中にあっても自分で時間を作り出し、勉学に励むとともに趣味を広げ、自己を磨いて人間的にももっと大きく飛躍したい。

最後に、気持ちにゆとりを持って仕事をするようにしていきたい。しかし、現実には、厳しい事が続くとつい顔に心の状態がそのまま出てしまうことがある。こういう事はまだまだ修養が足らず、自己中心的であると気付いてきた。機動隊は部隊行動であり、チームワークを最も重要とする組織で、個人個人が常に鍛え、和を大切に部隊の一員としてついていけるよう、充実した機動隊生活を送っていきたい。

（通信係員）

一歩一歩の積み重ね

四機　草間　弘明

竹の節目と同じように、人生にも節目というものがある。そして、この人生の節目に立った時、過去を省み、そして未来をどのように過ごして行くかを考える事に、意義深いものがある。「人生は長い様で短いものである」とよく言われるが、この世に生を受けたからには、人生を人一倍充実させて行きたいと誰もが願う。

私は警察官として第一線に立つようになり、今春で四年となる。警察署で二年、そして機動隊に着隊して二年になろうとしている。私が現在警察官として毎日職務執行を行えるのは、私を指導し見守ってきてくれた良き上司、先輩、同僚そして後輩のおかげであると思う。時には励まし、叱り、厳しく指導していただいたからであると痛感している。

私は今年二十四歳の年男である。子供のころは、二十四歳の人はとても大きく見えた。そして私は今、その立場にある。私が子供のころ見たように、私も大きく見られるのであろうか。少なくとも私が子供のころ感じたように、私も大きく重みのある人間になりたいと思う。この重みの中には、単に年をとっただけでなく、優しさ、そして厳しさを兼ね備えていなければならない。日ごろ楽をしていれば、充実感は味わえない。

目標とは、常に苦労の中から生まれて来るのではないだろうか。毎日、その日一日を反省し、明日に期待し、苦しい時こそ力を出すことが充実への第一歩である。そしてこの一歩一歩を、積み重ねて行くことによって、真の充実感が味わえるものであると思う。

私が新隊員のころ行われた東京サミット警備は、日本最大の大警備と言われ、二部制の厳しい勤務であったが、歯をくいしばり頑張った結果、無事完遂することができた。大警備完遂の時の喜びは、口では表現できないものであった。

私は警察官として、まだまだ実務も経験も少ない駈け出しである。職務執行も、社会の複雑化と共に様々な形態が予想され、それに伴い各種警備活動もより一層厳しくなって行くと思われる。これからも知識を養い、訓練に汗を流し、周囲の人々と協力し、微力ではあるが警視庁四万四千人の一人として、職務を遂行して行く覚悟である。

（中隊員）

昇り竜

五機　山神　俊一

R警備という大きな警備を成し遂げたうさぎ年も終り新たな年が明けた。昭和六十三年は辰年である。私は二十四歳の年男である。是非とも良い年になるよう、何事に対しても自分から積極的に取り組んでいきたいと思っている。

私も、機動隊に着隊して一年三か月が過ぎようとしている。最近では、仕事にも機動隊生活にも慣れ、何となく余裕というものを感じている。

そこで今年は、しっかりした目標を立て、それを実行に移したいと思っている。今反省してみるに、去年は意志の弱さが目立つ年であったように思う。そのため自分で自分の首を絞めるような事ばかりであった。もっと我慢が必要だったと痛切に感じているところである。

私は武道小隊員である。目標はもちろん武道専科に入り、剣道の指導者になることである。今年は、その目標に向かって死もの狂いで頑張るつもりである。苦しいかもしれないが、自分で選んだ道であるから、後で後悔することのないよう、歯をくいしばっても人一倍の稽古を積み、必ず目的を達成できるよう努力するつもりである。

同じ「竜」なら、「下り竜」でなく、「昇り竜」になるように努力精進し、自分にとって素晴らしい意義ある一年にする覚悟である。

（中隊員）

決意

六機　百井　仁志

昨年は、かつて経験したことのない最大の警備であるR警備を完遂し、私にとって生涯忘れる事のできない思い出を作り上げた。

昭和六十三年、新しい年の幕あけ、私にとっては二十四回目の正月、また年男でもある。先の警備で得た教訓を活かすため、日々の生活を大切に、年男にふさわしい一年にしたい。そして、二つの目標をたてた。

一、昇任試験合格

今回初めての昇任試験ということで不安があるが、一回目合格をめざし、着実に準備をしてきた。長期間の取り組みの中で、つらくなり、くじけそうになった日もあったが、体全体に気合いを入れ頑張ってきた。本番を目前に、今は、何が重要であるかの詰めを行っているところだ。武道小隊員として、文武両道を実現するため必ず合格したい。

二、機動隊対抗柔道大会優勝

昨年の警視庁柔剣道大会は、決勝戦に進出しながら惜敗してしまった。準優勝と言う事で、非常に悔しい思いをした。武道小隊の中堅として、六機柔道部の先頭に立ち、今年こそ全試合に出場したい。そのためには、基本を守り、苦難に飛び込み、あらゆる訓練に挑戦する覚悟である。優勝の二文字を胸に秘め一歩一歩前進し、必ず達成したい。

おわりに、本年は年男として、是非目標を達成出来る様に何事にも一生懸命打ち込み、第六機

治安

警視庁機動隊研修を終えて

今年こそ重要な年

七機　東原　俊一

昨年八月、庶務係兼副隊長伝令を命ぜられた。しかし、正直なところ「伝令」の「で」の字も知らぬ未熟者の私が、果たして勤まるであろうかと、不安で胸が一杯だった。そんな中で、早速R警備・成田警備等に従事し、隊長指揮、副隊長指揮と、出動する度に、失敗談を持ち帰るという始末。挙句の果てには、別室勤務中にも失敗を連発してしまい、前途多難なスタートだった。

R警備従事中は、専ら伝令・別室の勤務で無我夢中の毎日の連続、その甲斐があってか、伝令の仕事の方は何とか身についてきた様だが、庶務係員としての役割りは、まだまだである。そんな新米の私であるからこそ、今年は、重要な年になに違いないと思うのである。

昭和三十九年一月十日生、二十四歳。今年は、辰年で年男だ。そんな意義のある新年を迎えて、今年の抱負を述べてみたい。

第一に、副隊長伝令・別室の役割りを、確実に果たす事は勿論のこと、庶務係の一員として、一日も早く一人前になることである。まずは係員としての初歩的な仕事を、スムーズにかつ確実に行いながらも、担当任務を完全にマスターしなければならない。また、庶務係の任務は、機動隊において欠く事のできない重要な仕事である。それ故に、責任感を人一倍に持ち、若々しさを忘れる事なく仕事に励みたい。

第二に、昇任試験合格である。昨年からの目標であったのだが、計画倒れに終わり、達成できなかった。人間はとかく「仕事が忙しい」、「時間がない」と、自分に都合のよい理由をつけて、楽な方へ流されがちである。言うは易く、行うは難しというが、まさしく、「努力なくして、昇任試験合格はない」ということを、念頭に置き、勉学に励む。

第三に、バスケットボール部員としての役割りの再確認である。レギュラーの枠から出ない様に、人一倍練習する事は勿論、体力の維持向上に努め、チーム内での役割りを果たす事。例えば、後輩の指導にあたるとか、決して消極的にならない様にしたい。

庶務係は、私にとって重責だが、着隊して以来希望していた係なので、係のためそして七機のために、役立つ立場になり、ある時には、副隊長の手となり足となって一人前に働けるよう日々精進するつもりだ。そして、今年は、私の人生の一つの節目として、くぎりをつけるためにも、早く仕事に慣れ、飛躍の年とすべく、大いに奮闘する覚悟である。

（庶務係員）

二十四歳の自覚

八機　岡崎　武

新しい年、私の年を迎えた。昨年は最大の警備に伴い、沖縄県に派遣された事が記憶に新しいところである。勤務の源である健康も、風邪一つひくことなく、無事任務を全うすることができ、また公私ともに充実した日々を送ることができた。

さて、今年こそは自分にとって、一大躍進の年にしたいものである。機動隊に着隊して一年がたち、これからが中隊の中においても自分自身を生かすことのできる、最良の時期とも思える。今年は、自分というものを、ある程度前面に押し出す努力が必要だ。即ちアピールの年だと思う。中隊は同じ年代のライバル達が大勢いる。その中にのみ込まれてはならないのだ。

私が警察官になろうと決心し、上京してから、今年は節目とも言える。五年目にあたり、また私の干支「辰年」でもある。またまた「辰」は十二支の五番目にもあたる。「辰」は、いわゆる中国の伝説にある蛇型の鬼神である。空中、水中、地上に住する。雲雨を自在に操る力を持つ。神霊視される鱗類の長である。

幼いころから母は「お前は辰年生まれだから、男らしく立派に成長して欲しい」と言っていた。私はこの母の言葉を、少々迷惑に感じたこともあったが、この母の言葉にいつしか植え込まれた自分の強い意志、信念があることを自覚している。母のお陰で、私は「辰年」を誇りに思し、それに恥じぬよう前向きの姿勢で全てに取り組むことができたのだと言ってもよい。

この「前向きの姿勢」こそが今も一番大切であり必要なことだと思う。今年は、この言葉を再確認し、健康に留意し、昇任試験合格をめざし有意義な一大躍進の年にしたい。（中隊員）

新しい明日へ第一歩

九機　菅（かん）　武浩

昭和六十一年二月に東京サミット開催に伴う大警備の忙しい中、九機に着隊して以来、はや二年の歳月が過ぎようとしている。

そんな私も中隊の組長を命ぜられ、私の年、辰年が巡ってきた。警察官を拝命してまだ僅か四年だが、この機動隊という素晴らしい職場で自分の年が巡ってきたのも何かの縁、今年こそ、公私ともに大きく飛躍の年にしたい。

どのような飛躍をとげようかというと、まず第一に昇任試験合格である。なんといっても私は、今年から待ちに待った受験資格が得られ、ようやく新しい明日へ足を一歩踏み入れる事ができるという、私の警察人生の大きな山場へ差しかかった。私の周りの先輩方が、昇任して誇らしく胸を張り、退隊して行く姿を何度となく見てきた訳だが、祝福する側でなく、祝福される立場にならなくてはいけない時がきた。それには、常に自分自身を磨き、地道な努力を重ね、昇任試験に必ず合格したい。

第二にプロの機動隊員としての自覚である。いろいろな治安警備等に見られるように、最近の極左暴力集団、テロ・ゲリラ等、益々エスカレートさせている。これに対して、私達は常に足元を見つめて、心身を鍛え、訓練に励み体力・気力の充実を図っていく覚悟だ。

第三に後輩の指導育成に心掛ける。機動隊は、どんな警備でも急変する現場で迅速に行動しなければ、重大な結果を招くことになる。したがって組長としては、後輩に対し言うべきことは言う、時には叱責することが、真の組長としての姿であり、後輩の信頼を得ることであり、義務であると心掛け、後輩の育成に当たろうと思っている。

最後に、一般の人達への警察官としての適切な応接の励行である。都民には、昨年もR警備で大変迷惑をかけ、警視総監も常々訓示等で述べておられるが、都民への適切な応接こそが警察官として、機動隊員としてのあるべき姿だと思う。これなくしては絶対に職務を遂行できない。それには、どんな時でも「的確な執行務、適切な応接」を心掛け、都民の理解と厚い信頼を受けるよう努力する事が本当に大切であると思う。

私は、ここに掲げた四つの目標を達成すべく頑張り抜こうと思っている。また「継続は力なり」という言葉を肝に銘じて努力精進したい。

干支である「辰」は、「龍」とも書く。龍が雷雲の中を勇ましく登っていくように、努力を継続し、邁進飛躍し大空高く登っていきたいと思う。

（中隊員）

治にいて乱を忘れず

特車　高野　哲郎

ほとんどの皆様が、昨年八月から続いた「沖縄国体関連警備」と「成田警備」の完遂という、警視庁史にも稀な大警備を成し遂げた充実感と、重責を全うした解放感に浸りながら、「ほっと一息」といった気持ちで、新年を迎えられたことと思う。

顧りみると、昭和六十二年は正に激動の年であった。社会問題だけを取りあげても、税制改革、地価の暴騰、円高による倒産、雇用不安、貿易摩擦、国鉄民営化、政権の交代、株の暴落等々の大きな問題が打ち寄せる波のごとく連続したし、また、これらの問題の多くが未解決のまま、今年に持ち越されている。そしてどれをとっても単純な国内問題とは言えず、深く複雑に外国とかかわる国際問題であるという点が特徴である。正に私達が国際化社会に立たされているということを痛感しないではいられない。

治安情勢、犯罪情勢にしても例外ではない。フランスの美術品窃盗団による三億円強奪事件、三浦事件、日本赤軍の丸岡修逮捕事案など、過去には地球の裏側の出来事として済まされていた犯罪や事件が、いつ私達の問題として降りかかって来るか予測のできない時代であると思われる。

これらを通じ機動隊の警備主任として、昨年来私が感じたことの一つは、「治にいて乱を忘れず」ということである。今から五、六年前のことだが、三〇年代、四〇年代の、街頭闘争、学園闘争華やかなりし頃の過激派の勢力もかげりを見せ、内ゲバに走り、集会等の動員力の減少や学生のノンポリ化をマスコミ等でも盛んに取りあげたことがあった。これらの現実に対して警備、公安警察の縮少を唱える声を耳にし、私も内心、一時的にではあったが、同感の意を抱いた事を覚えている。しかし、これがとんでもない間違いであったことは、最近の過激派のテロ・ゲリラ活動という現実の前に明らかである。

マルクス哲学の唯物史観では、社会の発展の過程として「量から質への転換」を唱えている。運動の形態として、大衆運動という量的活動の限界に対し、質的変化を遂げてテロ・ゲリラ化という形態に移行することは、むしろ必然であり当然のことであったわけだが、こんなことに気がつかなかった自分に対し、全く赤面汗顔の思いでいる。

従って、表見的な動きがない時こそ、私達は心してかかり、徹底的に敵を叩かねばならない時であると信じている。大警備後の今をねらって敵は、視察、連絡、調査、調達等の活動を活発にすることだろう。一連の大警備成功の今こそ、私達は鎌倉武士の気概をもって警備に当たらねばならない。「勝って兜の緒を締めよ」の気構えで、一九八八年辰年のスタートを切りたいと思っている。（警備主任）

組織は人なり

埼玉県機動隊長　新井　康夫

私達警大専科第七一〇期（警備指揮幕僚）学生は、昨年十一月二十五日から二十日間にわたり機動隊活動の諸般にわたり、皆さんと共に、実践的な研修をさせていただきました。

今後私達に与えられた課題は、この研修で得た多くのことがらを、自県機動隊の運営に生かし、名実共に集団警備力の要として、その技と力を磨いていくことにあると理解をしております。

さて、今回の研修中に感じました、一、二の点につきまして申し上げさせていただきます。

その一つは、隊友の一人ひとりが組織の一員として、自分は今何をなすべきかについて、確固とした目標をもたれていることです。

「組織は人なり」といいます。組織の力は個人の力の集積であります。このような隊友の姿勢と行動がどこから生れるのか、それは昭和二十三年に創設され、幾多の先輩が心血を注ぎ築きあげてきた「警視庁機動隊」の歴史と伝統を、今にある隊友の全てが、大きな誇りとしてしっかりと受け継いでいることにほかないと思います。

その二つは、治安・災害等諸訓練に真剣かつ全力を傾注しておられることです。

「全一の一」ということばがあります。十の波には十の力を、五の波には五の力（10＋10＝1）をもって乗り切ること、すなわち事にあたる場合、彼我の力を的確に判断してその場に全力を集中することと思います。それがためには、組織を構成する個人が、常に十二分な力を備え、その力が間隙のない組織力として表現されなければならず、その理解のうえに立って日々訓練され、まさに常駐戦場である心構えをもたれていることであります。

その三つは、隊友相互が強い信頼の絆で結ばれていることであります。

各機動隊に「緊張した警備情勢の中で、その難局を乗り切るための基本は、日頃の明朗な人間関係にある」趣旨のことばが掲示されておりましたが、まさに隊友の全てがその真意を理解し、実践されていることに感銘を受けました。

御指導をいただきました本庁及び隊友の皆さんほんとうに有難うございました。

輝け、カッパの二機

宮崎県機動隊長　岩永　一夫

二十日間、第二機動隊に研修のためお世話になった。下町に位置する二機は、隊長はじめ幹部、隊員の人情厚く、短い期間であったが訓練、重防警戒、警備出動を通じ隊員のキビキビした動作と和やかな雰囲気がとても印象深く機動隊の組織力、優しさを教わり、得るところ大で、大変感銘を受けた。心から感謝申し上げたい。

○　阿部隊長語録

「物事は、常識で判断しなければならない。そして、決断する時は腹でする。決断したことはすべて自分の責任である。逃げてはならない。決断を誤らないためには当然きめ細かな準備とチェックが必要で、詰めを怠らないことである。運営方針は種々あるが、要は隊員が二機に勤務してよかったというような環境作りに努めているし、それが私の使命である。

十一月二十九日成田警備出動前日

「心一つにして頑張ろう。防護具は絶対に省略するな。気持よくみんなで帰ってこよう」

○　訓練

非番の隊員に対し、連日午前十時過ぎから鉄パイプ訓練、水難救助訓練、レンジャー訓練と実施されている。疲れた身体で真剣に取組む姿に警視庁機動隊の強さを再認識し、日本の首都を守る頼もしさと厳しさを見る。

○　Z会作戦

勉強はあとがないという気迫で取組もうとの趣旨で名付けてZ会作戦。当面の各級昇試合格をめざして、早朝学習をはじめ試問などに取組んでいる。隊長提言「一日百ページ読もう」等推進中であり「克己でジャンプ」の合言葉の努力は、必ず成果があることを信じている。

○　重防警戒

吹きぬける風、たたきつける雨をものともせず、その姿を見て国民は何思うだろう。単調な任務遂行こそ苦痛が大きい。地道な忍の一字の勤務をやり遂げる隊員に〝君あってこそ日本〟と肝に銘じ労を感謝したい。

○　ボート部

二機のボート部の名声は全国にとどろく。それは、部員が一丸となり連日午前六時からの自主訓練の賜ものであろう。二機はこのボート部の活躍のほかに、六十二年の各隊対抗の舟艇競争では見事優勝と聞く。玄関先で隊員を見守っているカッパ様も、さぞ満足し惜しみない拍手を送っているにちがいない。ますますの活躍を期待している。

厳しい規律の中にも温さのあるカッパの二機。今後、極左対策をはじめ、警衛、山谷対策、雑踏警備などとフル回転の出番であろう。

読者の広場

現代に甦る仏教文化

麻生　博

唐招提寺鑑真和上御影堂の特別拝覧の機会を得た。鑑真和上は、日本への渡航を決意し渡海を試みたが、度重なる海難にあい、盲目になりながら十二年後六度目の渡海に成功来日する。時は天平勝宝五年（七五三）、千二百年前の事で、唐招提寺はこの鑑真和上の開基によるものである。

「天平の甍」で有名な金堂、そして講堂、鼓楼、礼堂、東室、日本最古の校倉造りの宝蔵・経蔵等々の建造物、廬舎那仏、薬師如来、千手観音、弥勒仏等々の仏像、すべて天平の作で、殆ど完全な姿で千二百年後の今日まで残っている稀有の寺である。和上像も亦天平の作で、厳粛な伽藍配置から離れた東北区域にある御影堂に安置されている。

堂は興福寺一乗院を昭和三十九年移築したもので、白砂の内庭をもつ気品ある広々とした建物である。長老森本考順師が、和上が淋しかろうとの配慮から、東山魁夷画伯に協力を希望された。

画伯は十年の歳月、精魂傾けて、五室八十余枚の障壁画、そして最後にお厨子三面に「瑞光」と題する絵を画き、五十七年完成し、昭和の大作として、世の賞賛を浴びていることは広く知られている。

内庭に面した二室は、「濤声」「山雲」、背後に中央厨子の置かれている室には「揚州薫風」、左の室には「黄山暁雲」、右の室には「桂林月宵」と題する障壁画が取りまき和上をお慰めしているようだ。

濤声の間は、澄目の青緑色で海を画いているが、中央二枚が開かれ、両側は黒ずんだ岩が画かれ、その間から、お厨子内の和上像を拝するのである。お厨子の両側面が開いており、和上像の背後に、瑞光即ち和上上陸地である薩摩秋目浦を思わせる景色が描かれているが、金地に青緑色の山と海、そして金色の雲、日、月、そして小さな遣唐船が画かれ、寧ろ印象画を見るような心地さえする。

早朝、開扉直後で、雨が激しい故か参覧者は疎らで、私は和上の前に正座、時の立つのを知らない程長時間拝覧した。「静かな閉じた両眼の奥に慈愛と尊厳の高い精神性が湛えられている」と画伯は云い、芭蕉も「若葉して、お目のしずく、ぬぐはばや」と述べている。

何か、私は吸いこまれて行くような思いで正座をつづけた。そして、この一千二百年前の尊像が、金色の明るい現代的抽象画の背景に融合し、不調和の点が見えないことに驚いた。

普通の御影堂は古色蒼然とした暗いイメージの所が多い。この御影堂は、端整な伽藍と調和し、内なる尊像は一千二百年の歳月を飛び越え、現代に甦ったように思えてならなかった。

唐招提寺の近くに薬師寺がある。十年程前訪れたとき、再建直後の金堂は華麗すぎ、その金と朱が鮮やかすぎて、何か古都奈良に調和しないような思いがした。此度訪れて様相が一変しているのに驚いた。

薬師寺は白鳳の代表作である薬師三尊、聖観音像と東塔を残して、すべて兵火の中に焼失して了って廃寺に近く、これら堂宇の再建は薬師寺の悲願と云われてはいた。

五十一年金堂、五十六年西塔、五十九年中門を再建した。四周の樹々も育ち、その華麗な伽藍は白鳳の昔をそのまま再現したようだった。金堂に安置されている金銅の黒光りする薬師三尊は、寧ろ現代的で全く所を得た喜びに浸っておられるようだ。

この北側に玄奘三蔵院が建設中で、既に金と朱の華麗な三蔵院・絵殿は姿を見せ、その完成予想図を見るとこの外、中門、廻廊・経蔵二棟が計画され、六十四年完成とある。完成の暁には薬師寺と併せて「青丹よし、奈良の都は、咲く花の、匂ふがごとし、今盛りなり」と歌った万葉人の誇らしさを再現して、私達と古代のへだたりをなくすであろう。

百万人の写経の浄財で金堂を、更に百万人の写経で西塔を、そして更に百万人の参加で三蔵院が完成しようとしている。

奈良の寺には墓はなく、葬儀もない。学問の府なのだ。それなのに、一歩踏み出し、新しい庶民の参加の中に飛鳥時代を再現し、師祖を慕う情から御影堂に現代美術の導入を計り、従来の古色蒼然たる仏教美術から、新しい仏教美術文化の創造が行なわれたのである。古都税問題にゆれる寺院とは「次元」を異にしている様だ。

都内デパートで薬師寺展が開かれたとき、疲れ、憔悴の御様子がうかがえる中でも、懸命にサインを続けておられた、高田好胤師の姿が忘れられない。

仏教文化が、新しい装いで、甦ることは、誠に嬉しい事である。

はんなり京都

高島　浩一

京都の古都税問題も漸く決着がついた。比叡山の僧兵以来の寺の力に行政側が寄り切られた形だが、まずは京都の落ち着きと賑わいが戻って来た。

さき頃、金箔などの貼りかえを終えた金閣寺は、拝観再開最初の日曜日の拝観料が一千万円になったという。修復に要した七億円を回収するのには、わけもないだろう。（やはり無税ですかネ）

修復された金閣寺は、まさに眩いばかりだが、私は、どちらかといえば銀閣寺のほうが好きだ。庭の落ち着きに格段の差があるように思う。――足利三代将軍義満が造営した鹿苑寺金閣の池泉式庭園は、鏡湖池の池辺を土で限ってあるので池の拡がりが伸びやかだ。しかし、八代将軍義政が作った慈照寺銀閣の錦鏡池は、枯山水庭園に移行する過渡期で、池辺の護岸石のきびしさが全体を引き締めている。

まあ、これも好き好きだが、金と銀があるのだから、オリンピックのように銅があってもいいのではないか。ところが、これが見当らない。そんな話をしていると、友人が、鉄閣寺というのがあるよ、と教えてくれた。

それなら私も、当時まだお元気だった永野重雄さんのお伴をして仲間で行ったことがあり、話が弾んだ。

場所は九州博多から、かなり東へ走ったところに、篠栗町というところがある。篠栗川流域に僅かに開けた盆地のほかは山地で、その山地をぬって、知る人は多くないが篠栗四国霊場が点在している。一つの町内で八十八ケ所めぐりが出来るのは珍しいが、巡拝総距離が約三十八キロメートルもあり、一日ではとても無理のようだ。

この霊場の登り口に近いところに、問題の鉄閣寺がある。これは大金持ちになった鉄屋さんが一人で建立したというので、「一建立と言って全国で幾つもないものだ」と教えてあげたら、とても喜ばれた記憶がある。

しかし、やはり鉄では感じが出ない。かなり大きな建物だが、お坊さんも居ないようだった。

今はどうなっているか知らないが、歴史の重みに比肩しようとする試み自体が、シャレにせよ無理のように思えた、と友人も言っている。建立した方はその後、オイルショックの波に翻弄されてしまった。残念なことである。

さて私が京都に移り住んでから十年になる。仕事場は大阪だが、大阪では家に帰った気がしない。自分の家をとう工夫したところで、町全体のフィーリングから離れることは難しい。ニューヨークやパリの日本料理店が味気ないのと同様だ。

私が京都のどこに惹かれるかというと、それは〝はんなり〟した風情である。〝はんなり〟という言葉は、京都中心でしか使われていないようだが、要は、姿恰好について、明るいあでやかさが育ちのいい落ち着きをもっている、ということのように思う。それは人の表現だけでなく、京都の町の雰囲気に、それがある。

私の仕事は、親から引き継いで昨年十二月に四十周年を迎えた不粋な鉄屋だが、それだけに余計、〝はんなり〟に惹かれるのかも知れない。

成長した息子

埼玉県新座市　川田幸子

投稿のお話がありました時は、正直文章を書きなれておりませんので、とまどいを感じ、また恐縮いたしております。息子が大変お世話になっており、これからもよろしく御指導御願い申し上げます。

私の住む新座市は、武蔵野の面影が残る徳川家ゆかりの平林寺や野火止用水があります。学園都市で慶応や立教高校も目の前です。仕事場は副都心新宿から行くと池袋を経て、都内のはずれ板橋区成増で、中華料理店「東京飯店」を営業しております。来年は早いもので三十年になります。

智は、第八機動隊から店まで約一時間のため、非番と思いますが、夕方店に寄り仕事を手伝ってくれる時もあります。小さい時から両親が働いていますので、自然に手伝うのが当り前と思っているようで、私はその心を嬉しく思います。

サイクリングが好きで、秩父の方に出かけ楽しんでますが、長男も結婚していますので、本人もそろそろ考えてもらいたいものです。

昭和五十九年十二月中野警察学校を卒業した時のひと廻り大きく成長した智の姿を見、職業を間違えていなかったと主人と喜んだものです。六十一年機動隊に着隊し、大警備に従事して今日まできておりますが、隊員の皆様方共々これからも厳しい情勢が続くと思います。お体には充分御自愛なされ、首都治安のため頑張って下さい。家族も応援いたしておりますことを心において下さい。

（警視庁八機操車係・川田智巡査の母親）

お知らせ

当励ます会北海道支部総会を三月一日（水）十八時から「札幌パークホテル」にて開催します。会員各位お誘い合わせのご参会お待ち申しあげます。

警備のプロ
誇れ機動隊

大内俊司
(学)嘉悦学園
栗田工業㈱
亨和興業㈱
高周波熱錬㈱
㈱三榮商会
村山文雄
次郎丸嘉介
木村政次
黒田一
高島浩一
谷本鐵鋼㈱
明鋼材㈱
丸定産業㈱
日鐵物流㈱
中村是一
不動鋼板工業㈱
中條鋼材㈱
新潟鋼機㈱
北海鋼機㈱
㈳機動隊員等を励ます会
東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

北陸支部――北海道支部

固い信頼の親睦会

治安万全を希求

機動隊員等を励ます会の北陸支部と北海道支部総会がそれぞれ盛大に開かれた。本会は「平和な国民生活を守る各種の警備実施活動に対する国民の理解を増進し、警備実施活動に当たる警察官の士気を高揚することにより、公共の安全と秩序の維持に寄与する」ことを目的とするが、十五年目を迎えた今、その輪はますます拡大され、活動も充実してきている。

北陸支部総会

第十一回北陸支部総会並びに懇親会は二月十七日、機動隊員等多数を招いて新潟グランドホテルで開催された。

橋本誠・北陸支部世話人の司会でスタート、励ます会主催者代表として藤田文雄・北陸支部長と中村貞夫・本部副理事長が隊員たちの日頃の労をねぎらうとともに、一層の精進をと力強く励ました。

君健男・新潟県知事と齊藤明範・新潟県警察本部長が来賓として「機動隊が治安の中核部隊となって身を挺しているが、励ます会の協力が支えになっている」と祝辞を述べた。

警察幹部及び世話人等の紹介があり、麻生博・本部世話人の音頭で乾杯、懇親会に移った。県警音楽隊の演奏、隊員や会員交互の歌謡ショーをバックに会場は熱気に包まれた。

井村敏英・機動隊長の謝辞、全員による「この道」の大合唱、樋浦忠・北陸支部世話人の万歳三唱で幕を閉じた。

北海道支部総会

今年の日本列島は暖冬といわれるが、三月の北海道はまだ雪と氷の世界である。しかし、三月二日開かれた北海道支部総会会場となった札幌パークホテルは、まさに春らんまん。若い隊員とこれを励ます会員の交流で、一足早い春の訪れとなった。

整然と入場した機動隊員を迎えて、式次第は次のとおり滞りなく進められた。▽開会挨拶＝小原信二・励ます会北海道支部長▽来賓挨拶＝鈴木弘泰・北海道知事（代理）北海道総務部職員監▽来賓挨拶＝勝田義孝・札幌市長（代理）札幌市助役▽挨拶＝廣田千城・北海道警察本部長▽挨拶＝鈴木實・励ます会理事長▽挨拶＝北村卓夫・新日鐵常務室蘭製鐵所長▽懇親会▽謝辞＝石川岩雄・北海道警察機動隊長▽万歳三唱＝都築誠毅・北陸支部世話人▽閉会の辞＝福谷博・励ます会事務局。

明日を担う若人

励ます会・本部および支部総会での励ましに一段と力が入るが、そこは治安の万全を希求するばかりだ。新東京国際空港第二期工事本格着工と絡めて、極左暴力集団による成田闘争を軸としたテロ・ゲリラ事件が執拗にくりかえされているが、二月末、東京都新宿区の都駐車場で東京空港交通のリムジンバス四台が時限式発火装置で放火された事件でも、過激派の中核派が犯行を声明した。

また、三宅島のNLP闘争、日本赤軍や右翼による種々な不法行為が予想される。しかし、寒風吹き荒ぶ中、炎暑の中、黙々と勤務する機動隊員の精悍な顔、使命感に燃え、明日を夢みる澄んだ瞳に接すると、「世界に類のない治安の行き届い『日本』と賞賛される理由が分かってくる。治安の要をしっかり支えている若人たちに惜しまぬ拍手をおくりたい。」

今月の言葉

国立産業技術史博物館の実現を

いま、国立産業技術史博物館（仮称）を実現させようという運動が関西で進められている。技術立国として発展してきたわが国において、産業の発達と展開のあとを語るものは文献や書物だけで、実物で展示してみせるようなものがないからである。

私は、昭和六十年に英国、西独、オーストリア、オランダの欧州各国、翌年には米国、カナダを訪問し、各国の優れた技術博物館を視察する機会を得た。

欧米では、産業革命による文明や社会の変化を、はっきりとした歴史として定着させようという意識から、すでに一九世紀頃よりこうした博物館がいくつも建てられてきた。こういった各国の実情を見聞するにつけ、うらやましく思うと共に、わが国にも是非必要な施設であるとの強い信念を持ったのである。

かつて私達は先人の叡知を産業記念物から学び、新たな創造性を培うきっかけとした。しかし、こうした記念物は急速に進展する技術革新の波に埋もれ、次々とスクラップ化している。今こそそれらを保存し、記録しておかねば復原することさえ難しくなるのである。

この運動は、日本産業技術史学会（会長・吉田光邦京大名誉教授）を中心とし、更に支援組織として官学産による誘致促進協議会を設置し、文部省当局に対し精力的な働きかけを行なっている。

私達の提唱している博物館は、大学の共同利用研究機関としての性格と共に、国の内外を問わず、次の世代を担う青少年育成のためにこの施設を活かすことも考えている。また驚異の発展を遂げた日本に対し、NICS諸国からルックジャパンの動きが見られる中で、世界の先進国家としての責務を果す一助ともなるであろう。

大阪千里の国立民族学博物館や千葉県佐倉の国立歴史民俗博物館と並ぶ国立産業技術史博物館が、一日も早く実現する様、ご関係各位のご支援を願って止まない。（廣 巽太郎）

警視庁機動隊

ふるさとの冬

日本列島の長い冬も、南から北へ向かって次第に明けつつある。春とはいえ、北国には残雪が残り、春休みの学生たちは雪を求め、スキーをかついで北へと走る。この冬の期間は、機動隊員にとってはいうまでもなく、厳しく辛い季節であった。凍てつく中、守りの警備警戒は体の芯まで冷えてしまう。その時、頭の中をよぎるのはそれぞれの生れ育ったふるさとの冬だ。懐かしいふるさとの冬にはそれなりの味わいと楽しみがある。

百万ドルの夜景

一機　大西　可城（かなぐすく）

私は父の仕事の関係で全国各地を転々としたが、その中で故郷と言えるのは神戸だ。神戸はとてもエキゾチックな西洋的ムードと、日本古来の雰囲気を兼ね備えた街である。

明治元年（一八六七年）、国際貿易港として開港した神戸は、港とともに発展した街で、港周辺にできた北野、元町に代表される外人居留地区の繁栄が、現在の神戸の基盤となっている。また、色々の面ですぐ隣の大都市、大阪の影響を受けたり、港に出入りする外国船（人）も多く、国際色豊かである等多種多様の街でもある。

摩耶埠頭、ポートアイランドなど、港湾施設の拡充が行なわれ、あるいは六甲アイランドが造成される等都市機能は、発展の一途をたどっている。年間を通して船舶が寄港する港神戸は、正月には、大型豪華船が来港し、観光客で賑わい、港を中心に多くの催し物が開かれる等、冬の神戸ならではの光景である。この時期、私もよく父に連れられて見物に行ったものだ。

市街地から周囲に目を移すと、街全体をすっぽりと包むように連なる六甲山も神戸名物の一つである。六甲山は、標高七百から八百メートルの山稜で、中心の山頂は緩やかな放物線を描き、山裾に連っている。

山頂から見る夜の神戸は「百万ドルの夜景」と絶賛され、雪をかぶった冬の六甲連山もすばらしい景色だ。

六甲から北東へ約二十分程行くと、日本有数の温泉街「有馬温泉」がある。千三百年を誇るこの温泉の歴史は、道後や草津とならぶもので、今もしっとりとした湯の町としての情緒が残り、春の桜、夏の青葉、秋の紅葉と四季を満喫させてくれる。

冬の有馬温泉では、正月二日に街の仕事初め「温泉入初式」があり、これも伝統行事の一つだ。また有馬温泉は、神戸の顔と言われ、温泉街を散策するだけで寒さを忘れさせてくれる。一度、有馬温泉へ行かれてはいかがだろうか。

その他神戸には、色々名物があり、中でも清酒は「灘の生一本」という言葉に代表され有名だ。灘から四宮の一帯は「宮水」と呼ばれる良質な水と六甲おろしの寒風とを利用して、古くから酒造りが行なわれている。父もこの清酒には目がなく、帰省の都度父と酌み交すが、その味は、冬の寒さを忘れさせてくれる故郷の味だ。

近代的なビルの立ち並ぶ街並みの神戸、いつまでも自然を残す山々、世界に誇るべき港等独特の雰囲気のある街である。

（中隊員）

北海道の冬・雪祭り

二機　若松　弘

北海道の冬と言えば、北海道最大のイベントであり、数々の氷の芸術を生み出してくれる「雪祭り」がまず第一に挙げられる。

「雪と氷の祭典」と題されたこの祭りは、毎年二月一日から三日間、札幌市内大通り公園と真駒内会場の二か所で行なわれ、会場では人身大の物から、二十メートル近くある巨大な雪像、氷像が所狭しと並べられ、場内では、協賛の各会社が催すセレモニーがいたる所で行なわれる。

この雪祭りには、国内だけに止まらず、外国からの観光客も多数訪れる。この人気は、年齢や国籍にかかわらず、誰もが氷の芸術を楽しめるからであろう。

また、それに伴い道内各地でも様々なイベントが行なわれ、代表的なものとして支笏湖、層雲峡などで行なわれる「氷瀑祭り」がある。これは札幌の雪祭りに比べればスケールが小さいながらも、字の示すとおり氷の祭典であり、造形樹氷や大小の氷像が集められている。

この祭りは、札幌の雪祭りとは違い、昼間より夜間の鑑賞をお勧めしたい。それは氷の透明感と照明とが微妙に調和し、氷の像にはまさに生命が吹きこまれた様な雰囲気を思わせる。

また私の故郷の小、中、高校では、夏冬二回の休みが実施される。北海道は関東以南と違い、冬休みの方が若干長く実施され、これもまた唯一の楽しみでもある。冬休みが短い人達には、北海道の長い休みをどの様にして過ごすのか興味深いところであろう。一歩外に出たならば、スキー、スケート等のウインタースポーツを楽しむ場所はいくらでもあり、シーズン中は十分に満喫できる。

北海道のイメージを人に重ねたら、「大地が限りなく続き、見渡す限りの雪景色、そういう所に一度は住んでみたい」と言う人が大部分である。しかし、実際に生活してみると息も凍るような寒さ、大雪の為の屋根の雪落し等、そう美しい光景ばかりではない。

事実一年の半分近くが冬であり、東北などに比べれば雪こそ少ないが、明け方の最低気温がマイナス四十度近い所さえある。

しかし、住めば都と言う言葉があるように、都会の息苦しい生活に比べ、北海道の広い大地の生活を経験すれば、気持ちも大らかになるものである。

大自然の我が故郷「北海道」、あるときは厳しくあるときはやさしさを、その四季の中で教えてくれた。この厳しさ、やさしさを思い出し日々の警備に励みたい。

（中隊員）

皿鉢料理

三機　森澤　憲司

私の「ふるさと」は、冬のイメージとはほど遠い「南国土佐」高知県である。高知といえば幕末の勤皇家「坂本龍馬」や「中岡慎太郎」、自由民権運動の父「板垣退助」、戦後の政治史に「ワンマン」としてその名を大きく刻みこんだ「吉田茂」などを輩出した所である。

青い海、青い空の広がる高知県は、観光地としても有名で、シーズンともなればどこも観光客で賑わっている。

そんな夏のイメージの高知だが、みなさんの知らない南国土佐の冬を紹介してみたい。南国土佐といっても、冬はもちろん寒いが、雪はほとんど降ることがなく、どちらかといえば、過ごしやすい恵まれた気候といえる。

このような環境だから、私は、上京するまでスキーなどする機会もなく、また子供のころは、テレビで雪合戦や雪だるま作りに興じる北国の子供達の姿を見て、羨ましく思ったものだ。

この恵まれた気候を利用して、毎年一月二日になるとプロ野球の「西武ライオンズ」や「阪神タイガース」が県内各地でキャンプをはり、冬の空に球音をとどろかせている。

ところで正月は、どこでも家族・親戚が集まりその地方独特の郷土料理を囲んで楽しく過ごすと思うが、次は高知県の正月料理などについて紹介してみよう。

高知県では、正月に家族・親戚が集まると「皿鉢料理」と呼ばれる郷土料理と地酒に舌づみをうちながら新年を祝う。

皿鉢料理というのは、おおむね直径一メートル位の大きな皿に刺身や寿司、おせち料理などを盛りつけたもので、味もさることながら大変ボリュームがあり、大人数の席には、うってつけの料理である。

これは高知県人が老若男女を問わず酒好きが多いため、一人でなが料理を囲んで酒が飲めるように考えついたのだといわれている。

わが家でも毎年この皿鉢料理を囲んで新年を迎えるが、私はここ数年の正月は、ふるさとに帰る機会がなく、この郷土料理を味わえないのが残念だ。

最近では、交通網の発達により日本中どこでも気軽に旅行ができるようになってきた。本州と四国を結ぶ本四連絡橋「瀬戸大橋」もいよいよ完成が近づき、今後高知県はますます観光地としても注目されることと思う。

機会があれば、みなさんも一度「南国土佐」で、取りたての魚料理と地酒に舌つづみをうちながら、心の休養をしてみてはいかがだろうか。

（中隊員）

裸押し合い祭

四機　畑山　龍治

信越線の列車に乗り「新清水トンネル」を抜けると、新潟県に入る。突然、目の前に、白一色の銀世界が出現する。その光景には、文豪、川端康成ならずとも感動を覚える。

新潟県の冬は、雪を抜きにしては語れない。日本でも有数の豪雪地帯である。山間部では、積雪六メートルを超えることも珍しくなく、一晩にして家全体が雪の中に埋もれてしまうこともある。雪山での雪崩れ遭難で、毎年何人かの貴重な人命が失われる。交通網は寸断され、除雪のために、一つの町だけで、何億円という予算が雪とともに消えて行く。

屋根に積った雪を放っておくと、その重さで家が押し潰されてしまう。一家総出の雪下ろしが、冬の間中繰り返される。危険で骨の折れる作業である。しかし一見、やっかいな雪も、県民にとって大変な恩恵をもたらしてくれることが多い。スキー場には人が集まり、雪解け水は貴重な水資源となる。また雪と寒さによって美味しい「地酒」と「締み」と呼ばれる美しい絹織物が生産される。

天気の良い朝、窓の外には一面の銀世界がひろがる。日光が雪に反射して、まぶしいくらいだ。運がよければ、群をなして飛ぶ白鳥の優美な姿を見ることが出来る。子供達は、寒さももものとせず一日中外へ出て、雪合戦やソリ遊びに興じる。夜は、家族でコタツを囲み鍋料理をつつき、団らんに花が咲く。

群馬県境に近い六日町では、毎年、雪祭りが盛大に開かれる。巨大な雪像をバックに歌謡ショー、着物ショーなど多彩な行事が繰りひろげられる。しかし、県内で行なわれる冬の行事の大多数は、町や村を単位として、ひっそりと行なわれる。そのほとんどが、健康と作物の収穫を祈るものであることは、農業立県、新潟県ならではだ。

とりわけ浦佐町で行なわれる毘沙門堂裸押し合い祭りは、奇祭として全国に知られている。裸の若者が水をかけられながら互いに押し合う。その熱気のため、もうもうたる水蒸気が上る『時差通学』がある。氷点下三十度を越える冬の厳しさを乗りきるために、マイナス二十度を越えると登校時間が「一時間遅れ」とかマイナス三十度を越えると「臨時休校」と言う様に、小学校から高校まで、時差通学が実施される。東京の子供達が聞くと羨ましがるのではないだろうか。

東京で厳寒期を迎えても、氷点下三十度を越える寒さを知っている私にとっては、東京の寒さは何ほどのことはなく、この時期になるといつも北海道の子供達の生活が目に浮かぶのである。

郷里を離れて十四年になるが、厳しい自然に包まれた北海道、旭川をふるさとと呼ぶことをいつも誇りに思っており、やがて娘に冬の旭川の醍醐味を教えてやることを楽しみにしていることの頃である。

（会計係員）

素晴らしい季節

五機　谷口　精一

昨年十二月に一枚のハガキが届いた。私の小学校時代の恩師からである。旭川は初雪がそのまま根雪になったそうだ。

警察官になって九回目の冬を迎えるが、一度も冬の田舎へ帰っていない。今冬の東京は、戦後はじめて十二月中の積雪をみた。妻も同郷の旭川であり、これを機会に二人して三歳になる娘に旭川の冬のことを理解させようとしたが、娘は親の話しをどそっちのけで雪の中を走り回り、身体中雪だらけになって遊んでいた。雪の珍しい東京では、娘にとって別世界を見ている様なのだろう。東京に降る雪は北海道の雪とは違って水分が多く、身体につくとすぐに溶けてしまう。娘の手も足も洋服もビショビショに濡れてしまった。

私が生まれた北海道の旭川は、上川盆地のほぼ中央部に位置し、夏は摂氏三十度を越え、冬は氷点下三十数度を何度も記録する一年間の温度差は実に七十度近い。厳しい気象条件であるが、

「五月頃一度に花が咲き、短い夏を精一杯吸収し、九月に紅葉が北海道全体を飾り、やがて六か月間の銀世界となる」など素晴らしい季節感を味わうことが出来る。

その四季の中でも私は冬の旭川が一番好きである。照明設備の整ったスキー・スケート場で、家族や友人同志が揃って滑り合う光景が見られ、街全体が和やかな雰囲気に包まれる。そしてそのハイライトが二月頃の市民全員が参加する『雪まつり』であり、冬の厳しい寒さを吹き飛ばすほど盛大に行なわれる。

また懐かしい思い出の一つに『時差通学』がある。氷点下三十度を越える冬の厳しさを乗りきるために、マイナス二十度を越えると登校時間が「一時間遅れ」とかマイナス三十度を越えると「臨時休校」と言う様に、小学校から高校まで、時差通学が実施される。東京の子供達が聞くと羨ましがるのではないだろうか。

東京で厳寒期を迎えても、氷点下三十度を越える寒さを知っている私にとっては、東京の寒さは何ほどのことはなく、この時期になるといつも北海道の子供達の生活が目に浮かぶのである。

郷里を離れて十四年になるが、厳しい自然に包まれた北海道、旭川をふるさとと呼ぶことをいつも誇りに思っており、やがて娘に冬の旭川の醍醐味を教えてやることを楽しみにしていることの頃である。

（会計係員）

阿蘇の「野焼き」

六機　今井　英典

自宅のコタツの中でミカンの皮をむきながら、ふと遠い熊本の故郷を想いだした。冬といっても、雪は少なく（積雪1～2センチメートルなどめったにない）、また北風も強くなく、温

暖な気候の中、子供であった私は、熊本城の城内を「やっこ凧」の糸を持ち走り回ったものだった。

私の心にある冬のイメージ、小学校の社会科の教科書に載っていた写真で、豪雪地帯で雪を掻き分け走るラッセル車と、青くお茶ったフェニックスの日南海岸の一ページである。従って雪のある生活がいかなるものかと不安に思っていた。

どうして?と、よく人に問われるが、それは私が雪の世界を知らないからである。学生時代（小・中・高校を通じて）、朝目が覚め、外を見ると白い雪が一面を覆っている日は、うれしくて顔も洗わず、白い大地に一番最初の足跡をつけるため走り回ったものだ。そしてもっとうれしいことに、学校に行くと午前中の授業が中止となって全校生徒と先生とが雪合戦（但し、雪の玉は上混じりのもの）に、また、雪ダルマ作りに一生懸命になったものである。

こんな故郷で育った私が、雪の世界を知らないのも察しがつくことだろう。（ウインタースポーツのスキーやスケートなど不得意どころかやったことがない）

熊本でも、雄大な阿蘇山や九州山脈の山間部は多少の積雪はあるものの平野部では、それもない。そんな熊本の風物として有名なのは、雄大な阿蘇の裾野の「野焼き」（枯れ草を焼き払うもの）である。広大な肥後和牛（赤牛）の放牧地で春の新芽を待つため一斉に枯れ草に火を放つもので、赤い炎の帯が山頂へ〝メラメラ〟と白い煙と共に上り始める。

そして後に残るものは、黒く焼き焦がされた大地だが、そこには、春を待つ新しい大地が冬の過ぎるのをじっと我慢している。こんな冬が私の心の冬景色である。（庶務係巡査部長）

珊瑚礁の島

七機　国吉　博美

沖縄本島と石垣島の中間に位置し、東京からは二千キロメートル以上も離れ、地図で見ると

より台湾寄りにある。周りを大平洋と東シナ海の青い海に囲まれ、珊瑚礁でできた小さな島が私の故郷、「宮古島」である。

人口が約五万人、砂糖キビが主な産物で、冬ともなれば、四メートル大に成長した砂糖キビの白い穂で島一面白色におおわれ、空と海のブルーとのコントラストは、美しいの一言である。

一口に亜熱帯といわれる沖縄だが、具体的にいえば、夏は熱帯、冬は温帯、春と秋は亜熱帯ということになる。が、四季の変化は明確でなく、秋の紅葉もなければ降雪などはまったくない。年平均気温二十三度、そのため一年中、若芽を持った鮮やかな緑、多彩な花々が色どり、「自然のふるさと」の趣を失わない魅力のある島である。

沖縄では冬でも十度以下になろうものなら記録的な寒さといわれる。そこで雪を見ることが幼いころの私の夢であった。生まれて初めて見た雪は、東京に来てからで、積雪といっても周りがうっすらと白く染まる程度であったが、寒さも忘れてしまうほど感動してしまった。

私の生れ育った宮古島にはない神秘の世界に感じられ、東京に来て以来、冬になって雪が降るたびに、雪を見たことのない故郷の人達にも見せてあげたい気持ちにかられる。

海の中にポツンと浮かんでいるように所在する宮古島。冬の島の人々の生活は、一月から四月にかけて砂糖キビの収穫に追われ、冬はあっというまに過ぎてしまう。かなりの重労働で休む暇もなく、猫の手も借りたいほどで、一年中で一番忙しい時期が沖縄の冬なのである。

東京の冬は、機動隊員にとって寒風の中、雪の中、体の芯まで冷えてしまい、厳しくて辛い季節である。しかし、どんなに寒くても寒そうな格好をしない。警視庁機動隊員としての誇りを持っているからである。これからも首都東京の治安の要として誇りを持って各種の警備に従事していきたい。（中隊員）

神有月

八機　伊藤　博忠

私の故郷である島根県は、中国地方の日本海側に面している。そのため広島、岡山といった山陽側とは違い、冬の空はどんよりと曇り、海は荒れているといった気候が毎日続く。

そういうことから島根の出雲地方には、昔から家を北風から守るという意味でついじ松というものが植えられている。たぶんこのついじ松を管理、維持していくのはとても苦労がかかるらしく、今ではこの風習を守っている家も少なくなっており、出雲平野の一部でしか見ることができなくなっている。私としては、昔からの知恵、文化であるこのついじ松をなんとか守り通してもらいたい、島根伝統の火を消してもらいたくないと思っている。

島根地方に残る風俗、文化として有名な三つのものを紹介したい。

まず一つは、西の大鼓谷稲荷神社である。この大鼓谷稲荷神社は三大稲荷の一つであり、島根の小京都と言われる津和野町にある。正月になると、地方の商売人はもとより、九州、広島、大阪方面より参拝客が来るほどだ。私も故郷にいる時は、家から近かったため、季節を問わず良く津和野に足をはこんだものだった。

次は西の稲荷神社に対抗すべく、東の出雲大社である。出雲大社は、全国に縁結びの神様として知られあまりにも有名だ。

ここにも正月には何十万人という参拝客が集まり、今や島根の顔と言ってもよいほどだ。それにここには昔から十月になると全国の神様が集まると言われ、旧暦では神無月と言われるが、ここ出雲大社では、神有月と言われている。このように出雲大社は、神社の中の神社であり、今風に言うならば「ブランド物」であると言えよう。

最後に私の住んでいた益田地方に残る独特の風習として、正月の三日間は、朝の食事は女性ではなく、男性が作る。これはなぜなのかよくは知らないが、自分なりに考えてみると、いつも毎日女性ばかりに炊事をさせているので、せめて正月の三日間ぐらいは体を休めてもらおうという感謝の気持ちからくるものではないかと思う。ここにも人柄のよい島根県人気質が現われていると思う。この素晴らしい文化、遺産を絶やすことなく次の世代に引き継いで行きたいと思っている。（中隊員）

家族との団欒

九機　五十嵐　誠

私の故郷は、長良川の鵜飼で知られる山紫水明の地、岐阜県である。岐阜県は、雪の多い北部の飛弾地方と南部の美濃地方からなり、私の実家は美濃地方、岐阜市の北部に位置する三田洞にある。

近くに岐阜薬科大学、三田洞弘法があり、幼いころは冬になると、雪だるまを作ったり、ボール紙や板切れをそりにするなどして、野山を自分の庭のように遊び回っていた。

飛弾地方の冬は、北アルプスや高山で知られているように、積雪が多くスキー場もたくさんあり、ウインタースポーツがさかんに行なわれる。中学生の頃までは、毎年、蛭ケ野高原や荘川高原、伊吹山へ父や弟とよくスキーに行ったものだ。

故郷の冬は、それ程雪も降らず東京の冬とあまり変わらない。しかし、朝起きてみると一面が銀世界になっていたことがよくあった。

正月は、岐阜のほとんどの人が岐阜市の中心部にある伊奈波神社へ初詣にでかける。正月の三ケ日は明治神宮にはとてもかなわないが、すごい人出だ。それから、岐阜城で知られる金華山へ御来光を拝みに、よく登ったものだ。そこからは、長良川をはさんで岐阜の街が一望できる素晴らしい眺めである。織田信長も斉藤道三もここから御来光を眺めたのではないだろ…。

冬の過ごし方で、特に変わった事はないが、やはり一番楽しい思い出は、ストーブの入った暖かい部屋でコタツに入り、テレビを見ながらの家族団らんである。今年七十三歳になる祖母を囲んで、昔の話をよく聞いたものだった。東京に来てからは、コタツで団らんすることは出来ないが、雪が降ったりすると、故郷で過ごした冬が時々懐かしく思い出される。

東京に来て四月で三年になる。いつまでも故郷を大切にし、また故郷の家族や友人達を大切にして、これからも首都治安維持のために、努力精進していきたいと思っている。（中隊員）

雪の町

特車　佐々木　哲

私は青森県青森市から西へ約四十キロメートル離れた弘前という町の出身である。弘前、ヒロマエと読みがちだがヒロサキと少し変わった呼び方をする。

先日朝起きて外を見たところ、隊庭は真白だった。お城とリンゴで有名な故郷も、今は、あたり一面雪に覆われていることと思う。冬の凍った歩道でのスリップが原因の交通事故防止の為、産業の少ない弘前でもいろいろな措置がとられている。

一つはヒートポンプという地下水をくみ上げ、科学反応を起こさせることにより得た熱を歩道上に伝え、雪や氷の張るのを防ぐ装置。

二つは消雪パイプという、海水を汲み上げそれを道路上へ流し続けることにより、道路上の雪が降り積もるのを防ぐ装置。

三つは流雪溝という、温泉の廃湯を疎水に流し続け、その疎水に雪かきをした雪を捨てることにより雪をなくす装置等がある。

これらは昔から雪に悩まされ続けた町であるがゆえに、県庁をはじめとする官公署等が工夫、研究をしてきた成果である。

秋も深まるころ、近所のスーパーマーケットでは、白菜が箱ごと赤札で売られている風景がよく見られた。当時は何気ない店頭の様子と思っていたが、厳しく寒い故郷では冬場になると野菜がとれなくなり、ビタミンCの確保ということで、店側から「これは漬け物用です。どんどん買って下さい」という願いをこめて売っているもので、今感慨深くその情景を思い起こしている。

また一方で、夏場はセミ採りやバッタ、カマキリ採りで重宝がられたリンゴ畑も、厳しい冬場になると、枯れ木林に変わってしまう。しかし、そんなリンゴ畑も、冬になるとリンゴの木の枝が真白に雪化粧をする。それは洒落た障害物にもなり、訪れるスキー客を楽しませる素敵なスキー場に変わる。そんな中を夢中で何度もくぐり抜け滑った後は、知らぬまに顔にみみず腫れができることがある。（中隊員）

◀総理訪米・加警護警備

◀右翼対策（自民党大会警備）　▲節分会警備（左：西新井大師、右：池上本門寺）

読者の広場

国際テロの波 いよいよ極東へ

松本三良

雑誌「諸君」二月号によりますと、リビアのカダフィを元締とする国際テロの手が、今や太平洋地域に、日本に及ぼうとしているとのことです。日本国民として重大な関心を抱いて見守って行かねばならぬと思いますので、私見を加えながら解説してみましょう。

丸岡逮捕と大韓航空機墜落

昨年十月「日本赤軍」の丸岡が成田で逮捕され、十一月には南アフリカと韓国の航空機が続いて印度洋上に墜落しました。

この事故の直前に「日本赤軍が航空機への攻撃を企てている」という警報が、国際航空運輸協会（IATA）から加盟各社（世界中の航空会社ほか）に通告されていたこと、今年一月十五日韓国国家安全企画部が「大韓航空機の墜落は、北朝鮮が金正日書記の指示に基づいて行なった爆破テロであり、『蜂谷親子』の犯行である」と発表したことを想起して下さい。

国際テロと日本赤軍

ところでカダフィ・北朝鮮・日本赤軍のつながりですが、カダフィは、リビアの莫大な石油収入をもって全世界の反体制過激派を公然と支援するとともに、国内各地にテロ訓練所を設けており、北朝鮮はこの訓練所に多数の教官を送りこんでおり、日本赤軍は首領の重信房子を、カダフィが主催する反体制・過激派の国際会議に出席させて常に気脈を通じる等々、反体制・国際テロのいろいろな面で互いに深くかかわり合っているのです。

丸岡は昨年七月沖縄に「帰国」して偽造旅券を入手し、東南アジアを動き廻り、日本・北京に出入りしていたもので、策源地フィリピンには前後三回行き滞在二十日を数えています。

そのフィリピンでカダフィが、反政府運動諸派を長く支援して来ていることはよく知られています。丸岡は、朝鮮・中国行きの航空券を持っていたと伝えられていて、彼が、カダフィの環太平洋地域撹乱構想の中で、極東・東南アジア部門を受け持って動いていた形が見えて来るではありませんか。

日本赤軍活動の消長

もともと日本赤軍は、パレスチナ解放人民戦線の外人傭兵隊で、丸岡修はその実行部隊の長だったのです。その日本赤軍は、一九七四年シンガポールでシェル襲撃を、その秋にはハーグでフランス大使館占拠を、一九七七年にはダッカでハイジャックを行ないました。

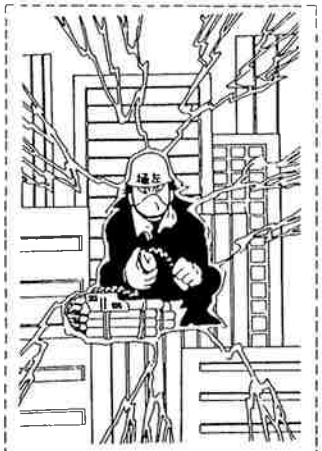
ダッカ事件後十年間息をひそめていましたが、昨年夏ジャカルタで騒ぎを起こしたことは、強く記憶に留めていただきたいところです。

カダフィの太平洋介入

昨年四月カダフィは、自国内ミスラタで、環太平洋地域の過激派会議を開き、この地域への介入を宣言しました。

ミスラタ会議の後カダフィは治安・諜報担当の首脳をタイに派遣しましたが、丁度その時機、丸岡は香港に居たのです。このように日本赤軍の背後にカダフィの影が見えかくれしますので、丸岡奪回のための事件がいつどこで起こっても不思議はありません。わが国周辺にも国際テロリズムの波が近づいて来るただならぬ気配が感じられます。

これを予防・制圧できるのは警察をおいて外にはなく、機動隊の皆さんへの国民の期待はいよいよ大きなものがあります。切に皆さん方のご自愛ご健闘をお祈りいたします。



悪質ゲリラ犯人
発見にご協力を

親離れ、子離れ

南保夫

NHKの大河ドラマ「武田信玄」によれば、親と子をめぐる諸問題は、有史以来、連綿として絶えることのない人類永遠のテーマ、なのだそうである。

国民的番組などと騒がれるほどの高視聴率をあげている主原因も、つまりはそれだけ多くの人の共感を得ているから、といえようか。

どれほど世の中が様がわりしようと、人間個性のありようが変貌しようと、親子をめぐるトラブルの種はこれからも尽きないだろうし、お茶の間でも酒場でも相変らず談論の花が咲くに違いない。

ただ、一方では核家族化がどんどん進み、他方、大都市での地代急騰ゆえに仕方なく大家族化を強いられるなど、近年の家族構成はますます複雑化しつつある。いわゆる新人類の跳梁も黙過するわけにはゆかないので、これらの事実を考えあわすと、近ごろの親子関係はまったく新しい局面を迎えているといってもよいだろう。

家族構成のなかでもっとも顕著に変わったのが『親爺の権威』ではないだろうか。地震、雷、火事、親爺などと、その昔、泣く子も黙ったあの逞しき面影はいまいずこ、その実力の凋落ぶりは目を覆うものがある。

口惜しいことに、いまやわれわれは、ひところのように胸をはって『近ごろの若いもんは』と偉そうに声あらあらしく主張しようものなら、たちまち化石呼ばわりされるか、蔑視の集中攻撃を浴びるのがオチ、いやはや、親爺族にとってははなはだ住みにくい世の中になったものではある。やれ、ハイテクだ、新素材だ、都市開発だと結構、新しがりやを自負しているわれら熟年層としては、なんにもわかっちゃいない若者どもに『古さい』とさげすまれるほど頭にくることはないのである。

その上、もうひとつ情けないことは最近、子供たちの親離れ年齢が急速に低くなってきていることである。親子ウォーズの真只中で日夜、呻吟しているものの親爺・女房族にしてみればいつまでもわが子を手もとにおいておきたいのが本心だろう。

幼児のころから『自立』を躾けている欧米では、子供の早い時期の親離れを親達はすんなり受入れ、その時点で実にたんたんと子離れを果たす。一方、日本の親達はどうだ。スキンシップこそ愛情の表現とばかり、やたらベタベタ子供にまとわりつく母親。買っても、買ってもすぐ飽きて放置されるにもかかわらず、欲しがる物はなんであろうと買ってやることに快感すら感じる父親達の懲りない面々。

せっかく子供の方から、さっさと親を突き放してくれているのに、肝心の親どもときたら理性と感情の使い分けもままならず、親離れに歩調を合せた子離れをしたがらないのである。

子が自立して巣立ってゆくことを情けないなどと考えたり、ましてや娘の結婚になすすべもなく呆然自失するなど、知的水準を世界に誇る国際国家、日本の親としてこの際、大いに反省したいものである。

もう一度、親の権威を奪回しそれを理性をもって徹底的に行使すること、どうやら親子のコミュニケーションの回復と、子供の自立権確立の推進は、これに尽きるようである。

親の心

香川県高松市　桑嶋健

隊長様をはじめ警視庁第九機動隊の皆様方には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様方は、昨年の沖縄国体での皇太子殿下の御警衛警備、御泊所のハーバービューホテルを受持ち、沖縄県民に元気よく挨拶することを徹底していたため、ホテル関係者等から大変感謝され、無事任務を終了された由おめでとうございます。

皇の機動隊対抗柔剣道大会では、剣道が二年連続優勝の栄に輝き、柔道も準優勝（六十一年）するなど、九機の面目を遺憾なく発揮されましたことは、隊長様はじめ師範の先生方の御指導と隊員皆様の一致協力の賜物であり、九機の士気は、ますます高まっていることと存じます。

今から六年前のことでした。長男が高校卒業を目前にして警視庁の警察官を受験すると言うのです。遠く離れた東京で果たして仕事が出来るかどうか不安でしたが、本人の意思の強さに同意しました。

しかし、警視庁巡査を拝命以来、警察学校の先生方、神田署、九機の上司・先輩・同僚の方々の温かい御指導により長男は日一日と成長し、今では警視庁でお世話になって本当に良かったと家族ともども大いに喜んでいるところです。

長男には我国の首都東京の治安を維持する警視庁で勤務できることに誇りを持ち、警視庁を支える心意気で誠心努力して欲しいと願うばかりです。どうか今後ともよろしく御指導下さるようお願い申し上げます。

私たち四国の島民が待ちに待った瀬戸大橋が六十三年四月十日に開通し、四国（香川県）と本土（岡山県）が結ばれます。屋島、栗林公園のほかに、でっかい自慢話がふえました。国立公園瀬戸内海に最新の技術を駆使して作られた瀬戸大橋は雄大です。

四月から八月まで博覧会も開催されますので是非一度お越し下さい。どうか御自愛下さいますようお願い申し上げて御挨拶と致します。

（警視庁九機・桑嶋康雄庶務係員の父親）

お知らせ

当励ます会九州支部総会を四月十三日（水）十七時から「博多サンヒルズホテル」で開催いたします。ご参会お待ち申しあげます。

鍛え抜かれた精強機動隊

鈴木実
東鋼業㈱
愛知産業㈱
高周波熱錬㈱
山陽特殊製鋼㈱
杉尾榮俊
小川運輸㈱
姫田清美
西戸榮一
橋本尚吾
村上益一
田島鋼材㈱
豊田通商㈱
宮崎精鋼㈱
広島シャーリング工業㈱
三和鉄構建設㈱
自見産業㈱
飯田正雄
藤田金属㈱
金森藤平商事㈱
㈳機動隊員等を励ます会東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

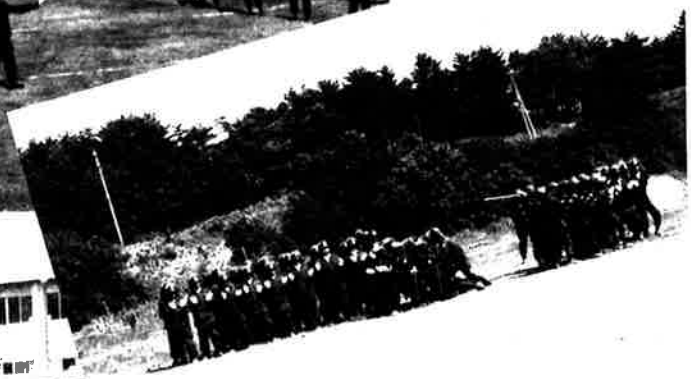
訓練に泣き実戦で笑う

自己の限界に挑む

千日の稽古を鍛とし 万日の稽古を錬とす 日日努力

4月29日の天皇誕生日から始まり、それに今年から5月4日が国民の休日となって、日本列島は大型連休を迎える。好景気が加わって人々はいそいそとレジャー計画をたてている。しかし、こうしたなかでも機動隊員は気を緩めることが許されない。レジャーシーズンはとかく各種事件が起こりがちだ。備えあれば憂いなし、今回は全国各機動隊の猛訓練のひとこまを写真で垣間見せて頂こう。

◀ 北海道警察機動隊 楯の構え方



▼ 青森県警察機動隊 治安警備訓練

◀ 福島県警察機動隊 緊急降車、重防施設へ向う

▼ 警視庁機動隊 治安警備合同訓練

▲ 秋田県警察機動隊　山岳遭難救助訓練

今月の言葉

新しい世代

梅の花が咲き、桜の花を見る時、初々しい季節の到来を感じる。

幼児はピカピカの一年生へ、学生は社会人に、社会人の若者は人事異動と昇格人事を経て、人、各々新しい場所、職場へと一歩一歩、階段を昇り、成長する。

最近、若者のことを新人類と呼び、社会世層とかけはなれていると盛んに言われており、ドライであることを強調している。しかし、これはもっともなことであろうか。いつの世代においても、文明、文化が発達・発展するにつれ、改新・改良、革新と新しい波が押し寄せる。この進歩の早さは昔日の時代から今も変るはずがない。

人人はいつの時代も、なんにつけても、より良いものを求め、それを創（造）ろうと追求していく。これはこの世に生きる人間（人類）のたくましさであり、夢の実現であろう。

自分の夢の実現は、最後まで叶うはずはなかろうが、夢半ばにして完成をみなかった人々は、これを若者に委ねていく。やがてこの若者は老い、その次の世代へと限りない人類の発展が繰り広げられていく。実に頼もしい限りである。

こうした経緯のなかで、経験に欠ける若者がいつも常識の足りなさを非難されることは否めない。それは世代がどんなに変化しようとも起る現象に思えてならない。

昨年の日本経済新聞の春秋に「ありがとう」と題する清水英雄さんの詩集のことが掲載されていた。その中に、ありがとうの「あ」はあかるいの「あ」、ありがとうの「り」はりっぱの「り」、ありがとうの「が」はがんばるの「が」、ありがとうの「と」はとおといの「と」、ありがとうの「う」はうれしいの「う」。清水さんによれば、ありがとうはたったの五文字だが、その中に無限の思想、無限の英知が内蔵されていると云う。

我々、青年も壮年も老年も、いつもこの言葉を本心より、すなおに表現できることにより、世代の変化を心より喜べるはずである。

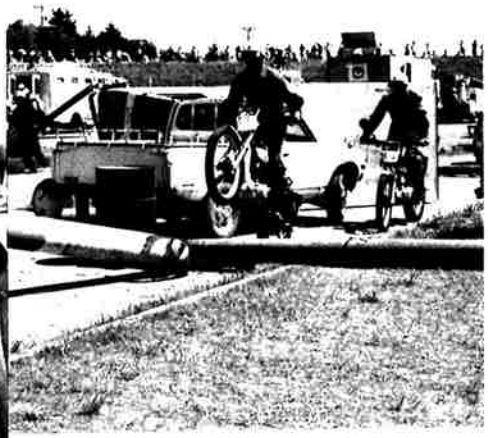
（杉尾栄俊）

▲ 埼玉県警察機動隊
デモ行進規制要領応用訓練

▲ 千葉県警察機動隊
火炎ビン攻撃を想定した合同訓練

▲ 群馬県警察機動隊
雪の中、ゲリラ対応訓練

▲ 富山県警察機動隊
遭難者の捜索及び搬送訓練



▲ 静岡県警察機動隊
総合防災訓練でのレスキュー部隊緊急出動

京都府警察機動隊 ▶
デモ規制訓練

▲ 岐阜県警察機動隊　長良川での舟艇（災害）訓練

三重県警察機動隊 ▶
治安警備訓練

奈良県警察機動隊 ▶
葛城山で山岳救助
訓練

▲ 大阪府警察第一機動隊
遊撃部隊活動要領訓練

◀ 鳥取県警察機動隊　孤立者救助訓練

▲ 岡山県警察機動隊　駆け足訓練

▲ 愛媛県警察機動隊
治安警備訓練

徳島県警察機動隊 ▶
エアーマットによる救出訓練

▲ 山口県警察機動隊　右翼対策訓練

▲ 福岡県警察機動隊　治安警備訓練

読者の広場

努力遂成事

谷本隆路

昭和三十年四月八日、サヨナラのランナーがホームベースを踏むや、ランナー目がけて駆け出し、歓喜しました。

第二十七回選抜高校野球大会優勝チームのピッチャーであった、あの日の喜びは、いつまでも忘れ得ない少年時代の思い出であります。

私達チームメートは、この瞬間を夢見ながら、来る日も、来る日も、厳しく、激しい練習に明けくれ、試練と苦難を乗り越え、遂に紫紺の大優勝旗をわが手で握ったのでした。

喜びや栄冠は、向こうからやってくるものではない。一にも二にも努力、精進の積み重ね、さらに、環境と運が相まって、はじめて、つかむことができるのだ、ということが私の信条であり、「努力遂成事」を座右の銘としている所以であります。

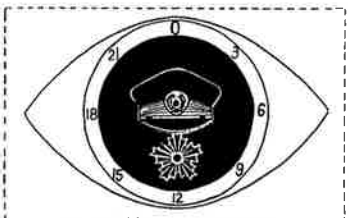
経済大国として大発展をとげ、名実ともに平和な日々が続いているわが国でありますが、時として、旗やノボリが街の目抜きにあふれ、怒号が耳をさき、あるいは、市民が手製爆弾の犠牲になるなど騒然とした世相を現出することもあり、業界の心ある人々を「機動隊員等を励ます会」の創設にかり立てたのでありました。私もこのころからとくに、警察官諸氏のご活躍に関心を抱くようになったのであります。

街角で勤務されている警察官、国会周辺に隊伍を整えている警察官、そして、災害・事故現場で遭難者の救助に当たっている警察官…の姿・動作を見るたびに、ただならぬものを感じ、少年のあの日の練習の苦しみがふと脳裡をかすめ、この人達が、この表舞台に立つまでに、どのような訓練を重ねられたことだろうと、自問するのであります。

聞くところによりますと、炎天下、丼鉢に盛られた塩をなめながらの訓練に耐えられた人達である、ということであり、むべなるかな、と納得しているのであります。

私達と警察、立場・手段こそ違え、それぞれの立場で、社員（国民大衆）の安全と豊かな暮らし、社会・日本の発展を願い、心血を注いでいることに変わりがない、と自負しているのであります。

今後も幾多の試練が私達にのしかかって来るでしょうが、相互の絆を信頼し、いつまでも若き日の情熱を失わず、目標に向かって努力精進したいものです。



犯罪を防止する24時の瞳

数学を好きになる

赤木郷八郎

「算数を頭からきらいときめつけている子がいます。その子はおそらく、算数の問題に、本気で、真剣にとりくんだことのない子でしょう。算数のおもしろさは、問題をときはじめてから答えが出るまでの間にあります。（中略）子どもたちに算数のおもしろさをわからせるような指導がぜひほしいものです」（数学のたのしさ・矢野健太郎先生著・新潮文庫より）

子どもに、算数のおもしろさをわからせるような指導といっても、世の親御さんにはむずかしいことでしょう。数学には全くの門外漢の私ですが、数学が好きになるきっかけがありました。

小学校四年生の頃のことです。

たまたま一番上の兄が使っていた三角定規を二つ見つけて、重ねてみました。二つとも、三〇度、六〇度、直角のもので、大きさが略々倍半分位のものでした。直角をはさむ短い辺が、なんだか倍半分位に思えたのです。そこでもう一つの方を見たら、これも倍半分位でした。それならもう一つの辺（斜辺）も倍半分ではないだろうかと思いました。そう思っただけで、物指で測って見ることはしませんでした。

夕食のとき、「同じ形の三角定規の辺の長さは、一つが倍半分ならば、他の二つの辺も、それぞれ倍半分の長さではないか」と一番下の兄にたずねました。兄は中学校二年生で、幾何で相似形を習っていなかったのか、何も言いませんでした。

兄は、私が小学校で、先生から、天照大神の話を聞いて帰って、その話をすると「それは嘘だ」と頭ごなしでした。その兄貴が何も言わなかったのです。算数の答は、一つ正解があり、これには誰も文句は言えないのだと感じ、その後算数が好きになりました。

中学校三年の頃のことです。

無限等比級数の和の公式を習いました。この時、アキレスと亀のパラドックスに似た問題の、時間の和が、所要時間に限りなく近づくが、到達はしないことを知りました。これも大変印象深い経験でした。

最後にもう一つ。

この欄で御紹介した問題です。

「△ABCの∠B、∠Cの二等分線が対辺と交る点をそれぞれD、Eとし、BD＝CEならば、△ABCは二等辺三角形であることを証明せよ」

この問題を友達からいただき、一週間以上、ウン十時間、解答を考えて苦しみました。遂にお手上げで渋谷の本屋に入り、大学受験の幾何の参考書をみたら、幸運にも解答がありました。その時の喜びは、大変なものでした。

子どもは、何かのきっかけで、算数に興味を持てば、「好きこそ物の上手なれ」で、算数が苦でなくなると思います。

道

神奈川県大和市　半澤英男

神奈川県の県央に位置する大和市、ここで雅一は育ち、巣立って行きました。思えば二十数年間育てたというのが、まるで嘘のように思えます。

大和市も、昔は単なる草野原であり、醇朴という感じでしたが、しかし今では著しい発展をとげ、近代的設備が次々と建てられ、まるで様々な知識を植付られた人間のようであり、この流れは、雅一の成長に共通していると思います。

子供は誰でもそうなのですが、はじめは純真であり、それが二十数年もたつと様々な世間の波にもまれて行きます。そういう中で、昭和六十年四月四日に、日本一の警察である警視庁に入ったわけであります。

中野の警察学校に入校する為に当日、弟の明広と二人で駅まで送りに行き、雅一に「行ってまいります」といわれた時は、初めて息子が大きく見え、深く何かを感じるものがありました。そして警察学校卒業式の時、立派な雅一を見ると、熱いものがこみあげて来て、「よくここまで頑張ったな」といってやりました。

数年たち、警察官の仕事にもやっと慣れてきたらしく、署内の剣道大会でも、優勝する快挙をおさめ、「お前の好きな剣道でき、団体戦の選手にも選ばれているそうだが、お前が出ているからには、他の誰かが出られない事になっているということも、決して忘れてはいけない」と言ってやりました。

それから数ヶ月後、機動隊に行くという連絡を受けた時には、さすがに今度ばかりは本当にやっていけるのかと、心配したものです。しかし雅一の負けず嫌いの気性が合っていたのか、何とかやっているみたいで、ひと安心です。

日頃家に帰って来ると、時々「他の仕事は楽だろうな」という言葉を口にしますが、人生の活路は苦しみを人より多く味わうことにより、みきわめられるということを忘れないでほしい。決して自分の道を踏みはずしてはいけない。毎日、濁流の中を進んでいるようなものであり、一日休めば二日分進まなければならなくなる。それだけに自分に与えられた一日というのは、非常に貴重であります。それを無駄にしないで過ごしてほしい。私は親として、その流されそうになった時は、受け止めてやれるような存在で、これからもいたいと思います。

最後になりましたが、上司、同僚の皆様、御指導の程宜しくお願い申し上げます。

（警視庁特車　半澤雅一巡査の父親）

▶沖縄県警察機動隊　治安警備訓練
▲大分県警察機動隊　遊撃部隊活動訓練

お知らせ

六十三年度機動隊員等を励ます会の通常総会並びに懇親会を六月二十三日（木）十七時から東京・八重洲富士屋ホテル（八重洲二丁目）にて開催致します。当会も十五年目に入りました。会員各位奮ってのご参会お待ちしております。

六十三年度会費納入方お願い＝会員各位に会費納入の振込書をお送りしました。出費多端な折柄恐縮ですが、期日内のお振込お願いします。なお、お問合わせは事務局まで。〒一〇四　東京都中央区八重洲2－4－14ミツヤビル3階社団法人機動隊員等を励ます会TEL〇三（二七二）二〇五〇

警備の主役
頑張れ機動隊

大内俊司
東鋼業㈱
㈲嘉悦学園
光洋商事㈱
高周波熱錬㈱
㈱周東商会
芝本龍平
杉尾榮俊
スカイコート㈱
木村利秋
西戸榮一
加納保成
皆川博司
松田鉄鋼㈱
中京製線㈱
中越通運㈱
三星金属工業㈱
高橋重廣
豊鋼材工業㈱
北海鋼機㈱
㈳機動隊員等を励ます会
東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

九州支部総会

感謝と信頼の集い

治安の万全期す

当励ます会は年々充実強化されてきている。過激派テロの国際化が進むなかで、わが国の治安のよさが改めて見直されるが、この要となっている機動隊への励ましの声も一段と高まるものだ。

充実の支部総会

社団法人機動隊員等を励ます会九州支部の第十四回支部総会が四月十三日、博多サンヒルズホテルで盛大に開かれた。

飯田正雄理事の司会で、自見眞清・九州支部長が隊員たちの日頃の労をねぎらうと共に同会をさらに拡げると挨拶、東京からかけつけた鈴木實・理事長が力強く励ましの言葉を述べた。

来賓として九州管区・鳴海國博警察局長と福岡県警察・根本好教本部長がそれぞれ、今後とも治安の維持に努力して国民の期待に応えていく決意のほどを語った。

励ます会・麻生博監事が乾杯の音頭。懇談会は筑前琵琶、ハーモニカ演奏や余興が流れる中、隊員と会員の懇談が盛りあがり、最後は励ます会・木村政次大阪支部長の発声による万歳三唱で締めくくられた。

過激派の暴挙

近年来、過激派は本格的な爆弾闘争への動きを強めてきている。成田二期工事、関西国際空港建設問題などを闘争の場として集団武装闘争に出ている。

東京都新宿区の駐車場で時限発火装置による空港行きリムジンバス炎上事件、群馬県渋川市で東日本旅客鉄道労組高崎地本委員長を殺した事件、朝日新聞社の支局に時限式爆発物が仕掛けられるなどその手口は凄惨な殺戮（さつりく）や無意味としか思えぬ器物破壊へ何らのためらいもない。

機動隊が治安の要

立場を問わず、自分の主張を暴力的なやり方で通そうという姿勢は、絶対に認められるものではない。また、そうした集団が市民の支持を得ることもあり得ない。

無差別な手口は断じて許せない。しかし残念なことには、いついかなる時でも一部少数の不逞な輩が存在しているということだ。一般の国民が平和な市民生活を維持していくには、機動隊員等を中核とする警察当局の治安維持に頼るしかなく、それだけに当励ます会のはげましにも一段と力が入る。

第14回
(社)機動隊員等を励ます会 九州支部総会

実戦さながらの訓練……

漲る若い力

前月号で各地機動隊の日頃の訓練風景をご紹介した。読者の方々から、このような真剣さが今の日本の治安を支えているということを改めて認識し感銘を受けた、との感想が数多く寄せられた。今月号は、前回ご紹介できなかった府県警機動隊の勇姿をお届けした。

▲ 山形県警察機動隊　総合防災訓練

◀ 岩手県警察機動隊
レスキュー訓練

今月の言葉

人間は何才になっても常に学ぶ心、物事に挑戦する心を持つことが大切である。その人が若いか、老いているかは単に年令の問題ではなく、その人生に大きな目標を持ち、常に勉強し向上しているか否かにかかっているのではないだろうか。

徳川時代の言志晩録に「少（わか）くして学べば壮にして為すあり。壮にして学べば老いて衰へず。老いて学べば死して朽ちず。」とある。

これは、若い時にはそれ相応に皆勉強しているが、壮年になると生活も忙しくなり、学ばない人、学ぼうとしない人が多くなるが、そんなことをしていると早く老けてしまう。よく学ぶ人は老いても益々元気であるというように、戒められているのである。

学ぶ心

子供は親から勉強するようにしつけられ、親は又、どのようにすれば子供が自発的に勉強するかに頭を悩ますものである。子供自身は未だ人生の将来にはっきりした目標がないので受身の状態であるが、子供がやる気を起こすきっかけは、自分自身の中に何か皆より優れたものを見付け、先生や友達に認められ自信を持つことから始まる。それが良い意味の競争心となり、友達と切磋琢磨するようになり、次々とやる気が広がって行くことになる。そういう能力やきっかけを上手につかみ、良い友達を造ることが大切である。

しかし、日本の教育の現状をみると、折角子供達がやる気をだして中学・高校と勉強しても、いざ大学へ入ると、とたんに勉強をしなくなる風潮が強い。これでは人生の大事な時期に勉強しない空洞の期間が出来てしまう。日本の大学も欧米のように、入り易いが出るのが難しい仕組みにすべきであり、そうなれば、若い人の勉強の姿勢も大きく変わることであろう。

社会人になれば、当初は誰でも仕事に挑戦し、勉強をするものであるが、この気持ちを生涯持ち続け努力していくことは大変なことである。しかし、常に人生に明確な目標を持ち勉強されている方は、たとえ高令の方でも本当に若々しく感じるものである。

これは人生に生き甲斐を感じ向上しようとする心が精神的、肉体的な若さを保つことにつながっているのではないだろうか。高令化社会に向かい色々と生涯教育の必要性がいわれているが、いつまでも自分を向上させる意欲を持ち続けたいものである。（小原信二）

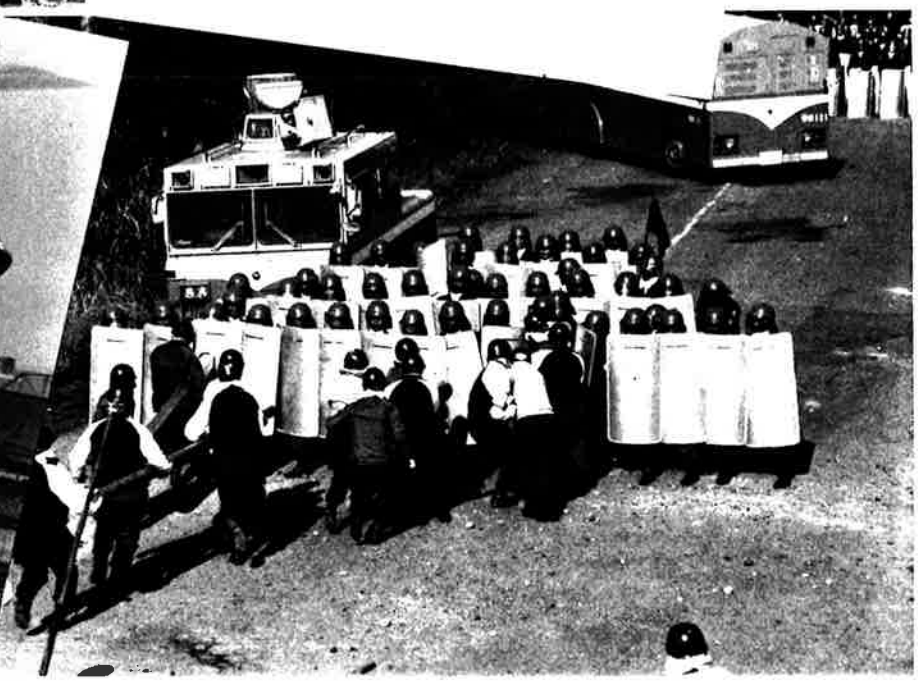
▲ 茨城県警察機動隊　遊撃部隊活動訓練

▲ 栃木県警察機動隊　デモ行進規制訓練

◀ 長野県警察機動隊　遊撃部隊活動訓練

▲ 滋賀県警察機動隊　右翼対策訓練

▲ 神奈川県警察機動隊　航空隊と一体となった救助訓練



▲ 愛知県警察機動隊　暴徒の制圧・検挙訓練

▲ 福井県警察機動隊　人質救出訓練

▲ 石川県警察機動隊　ゲリラ対策訓練

▶大阪府警察第二機動隊　ゲリラ対策訓練

▲兵庫県警察機動隊　火炎びん・火炎放射器対策訓練

◀島根県警察機動隊　レンジャー訓練

▶和歌山県警察機動隊　山岳部でのゲリラ対策

◀高知県警察機動隊　進撃部隊活動訓練

▶香川県警察機動隊　アクアラング訓練

▲長崎県警察機動隊　治安警備訓練

▲広島県警察機動隊　爆発物処理訓練

読者の広場

健康について

滝上俊一

現代人の自らの健康に対する関心は、大変強くなっている様である。○○ヘルスクラブ、××フィットネスクラブ、△△アスレチックセンター等々名称はいろいろとあるが、健康思考の目的はいずれも同様で、体力増進の為のトレーニング用器具を揃え、諸設備を持ち、専門のアドバイザースタッフを置いて居るクラブも多い。

ストレス過剰時代に生きる我々は、ともすれば体調を狂わせて医師の手を煩わす事になり勝ちで、その費用もさる事乍ら、診療・治療に要する時間が惜しまれる。

自らの意志と努力で身体を鍛練して、体力の維持増進を図るのは特に最近になって始まった事ではないが、近年の如く世の中の変化が激しくて何かにつけてストレスの多い日を送る我々は、運動をする事によって蓄積するストレスを払拭できればこれに越した事はないであろう。

こうした健康指向の努力は、我が国のみの風潮ではなく、ニューヨークやロスアンゼルスの書店でも、自力トレーニング関係の指導書を集めたコーナーがあり、昼食休みの時間帯にはオフィス近くの公園でジョギングに汗を流す姿も多い。

気候風土の相違からか、雨降りに傘もささずに平気で濡れて歩く人も多いが、日頃の鍛練に自信があるのか、羨ましい様な気もする。また、精神的にも健康な感じがする事が多く、空港での入国審査や銀行の窓口等、長い列を作って平然と待つ姿は、我々の感覚とは異質のものを感じる。

熟年と呼ばれる我々のようにある程度の年令に達すると、鍛練による体力の増強は望み得可くもないが、頭脳の訓練による老化防止は年令に無関係であるし、常に新しい事に挑戦して自分の能力を極限まで引き出してみたいと考えるのは、健康の維持に重要な要素と思われる。

私は今後も私自身の健康の維持に努力すると共に、チャレンジ精神を奮い立たせて生きてみたいと思っている。

我が家の六犬伝

滋岡長平

犬を飼はなくなってから十年以上になる。

此の頃、地方で社宅暮らしをして居る孫達が来る度に、東京に同居する様になれば犬を飼って欲しいと云ふ。どんな犬を選ぶかに就いて眼を輝かせて議論する。犬は原始時代から人類の伴侶であったが、矢張り子供との結び付が深い様な気がする。

小學二年の時、父にせがんでポインターの仔犬をもらひ受け、毎日夢中になって遊んだ。それがチステンパーで半年もしない中に死んだ時の悲しみは、未だに忘れられない。

父も犬好きで、独逸種のポインターと云ふのを飼ったが、長い間病んで亡くなった。父は獣医の先生を取り換えてまで看護をしたので、母は子供の病気の時よりも熱心だと批判した。父が物を云えない犬のほうがもっと可愛想だと抗弁したことを憶ひ出す。

初めて娘が生まれてから、家内の里から熊本の猪犬と云ふのをもらひ受けて来た。仔犬に「二郎」と命名し長女と遊ばせた。私共には男即太郎が欲しかったからである。その二郎は、我が家に七年も居て東京で失踪した。

その後現在の住所に落着いてから、親戚から貰い受けたスピッツをはしかでなくしたり、血統書付の金狼号なるアイヌ犬を手に入れた所、度々塀の下を掘り返して飼主を悩ませた挙句脱走されて了ったりした。

そのあと、米国チャンピオンの孫で極め付のコッカスパニエルを入手し、数年間一家の寵愛を独占したが、近所の犬共を總なめにしたフイラリアにかかり手当てする間もなく、可愛がった次女が渡米した夜に急死して、其の後は犬を飼ふ意欲を失ふに至ったのである。

生き物は飼へば可愛いが、短命だから厭だと母がよく云って居たのを思ひ出す。

生き別れになった二郎は変わった犬であった。一家が豊中の社宅に越して来てからは長女を乗せる位に大きくなり、放し飼いにしても世間に迷惑をかけず、そのくせ近所の犬共のボスとなり、家内が大事にして居た鶏舎を襲撃したりする。近所に門構えの料理屋があり、そこの牝犬が仔犬を数頭生んだ。家のお手伝いさんが見て来た處殆どが二郎そっくりであった由。

三年経って姫路に轉勤したが、社宅の中でも相変らずボス気取りで悠々として居る。時に一月ほど行方不明になって、へとへとになって帰って来る。敷回そう云ふことがあって、豊中の旧居の知り合いの人から、時々お宅の犬があの料亭に来て犬共と遊んで居るのを見たと云ふことを報せてくれた。

百キロ以上離れた所へ家族の安否を尋ねて行くとは中々味な犬である。また二年程経って一家は東京に移轉し、青山の友人の留守宅に假住居することになった。其所では塀の中に飼って居たが、秋のある朝お手伝いさんがうっかり門を開けた途端、二郎は一目散に脱走してそのまま二度と帰っては来なかった。

元来犬はずばぬけて鋭敏な嗅覚と、それ以上に究明されて居ない帰家性と云ふか、卓抜なオリエンテーションの能力を持って居る。恐らく二郎は其の能力に頼って家族との再会を果たすべく、数百キロの遠路をものともせず関西方面に向かったのではないかと思ふ。

そして行きつけたか、行きつけなかったか、行きつけてそのまま居ついて了ったか、行き帰りの途中で不慮の事故に遭遇したか、凡て神のみが知る二十数年前に起った事件であった。

昨年頃からだと思ふが、沖縄本島に飼はれて居るシロと云ふ雑種に住むマリリンと云ふ牝犬と恋仲になり、終に子供を儲けた物語が民間テレビで放映され、我国のみならず世界中に感動を与えた。不幸にしてマリリンは最近交通事故で死に、シロと子供達の交流が再び放映されたが、その画面を見る度に、私は我が家のドラ息子であった二郎のことを懐しく思い出すのである。

さて孫達が同居する様になってどんな犬を飼ふことになるか、暫く余裕のある話である。

◀熊本県警察機動隊災害警備訓練

鹿児島県警察機動隊遊撃部隊活動訓練▼

◀宮城県警察機動隊個人完全装備着装訓練

お知らせ

当励ます会中国支部総会を六月十七日(金)十七時三十分から「広島県社会福祉会館」にて開催致します。

六十三年度機動隊員等を励ます会の通常総会並びに懇親会を六月二十三日(木)十七時から東京・八重洲富士屋ホテル(八重洲二丁目)にて開催致します。当会も十五年目に入りました。会員各位奮ってのご参会お待ちしております。

六十三年度会費納入方お願い＝会員各位に会費納入の振込書をお送りしました。出費多端な折柄恐縮ですが、お早目にお振込お願いします。なお、お問合わせは事務局まで。

〒一〇四　東京都中央区八重洲2の4の14ミツヤビル3階社団法人機動隊員等を励ます会TEL〇三(二一七二)二〇五〇

治安の中核
精強機動隊

鈴木實
青山特殊鋼㈱
大野興業㈱
関東銑鐵㈱
亨和興業㈱
草野産業㈱
高周波熱錬㈱
東南貿易㈱
小川運輸㈱
平和農産工業㈱
西野公庸
橋山和正
浅田弥三郎
竹之上誠剛
東海レベラー鋼業㈱
東海鋼材工業㈱
日鐵物流㈱
丸橋正彦
早達運送㈱
北越メタル㈱
㈳機動隊員等を励ます会東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

気魄溢れる勇姿

機動隊四十周年観閲式

堂々の分列行進

警視庁恒例の機動隊観閲式が五月二十五日朝行われた。今年は同隊創設四十周年に当たるが、国際テロが危惧されるなかで、首都治安の要となる機動隊に対する国民の期待は一段と高まっている。三千三百名の一糸不乱の勇姿に接した参観者一同は、心から惜しまぬ声援を贈るばかりであった。

昭和二十三年五月二十五日に「警視庁予備隊」として創設されたのが、機動隊の前身である。

観閲式は、昭和二十六年二月に「予備隊観閲式」として明治神宮外苑で始めて実施され、三十一年まで続き、三十二年四月一日に「警視庁機動隊」（一～五機）と改称されたのに伴い「機動隊観閲式」となった。十個隊編成は四十四年八月からであり、その後は年を追って人員・装備の充実が図られ現在に至っている。

都民の理解と信頼高まる

東京・明治神宮外苑の絵画会館広場で行われた式は午前七時に始まり、まず大堀太千男警視総監がオープンカーで整列した部隊を巡視、続いて正面観閲台に大堀総監が立ち、第一機動隊を先頭に各部隊が分列行進した。

警備部長を総指揮官として一般部隊、重防警備・爆発処理・特殊警備・雑踏警備・水難警備・機動救助・レンジャー・災害警備・特別警護など特殊部隊、それに海外へ飛ぶ国際警察緊急援助隊とソフト警備の婦人警察官特殊機動部隊も姿を見せた。

勤務中の隊員を除いた三千三百三名の力強い堂々とした行進、これに車両百十三台、警備犬十二頭、空からはヘリコプター八機が参加、警視庁警備力の中核としての偉容に、都民の理解と信頼は一段と高まった。

大堀太千男総監が訓示

この後、大堀総監は「首都治安の為のため全力を尽くしてほしい」と要次のとおり訓示、式を締めくくった。

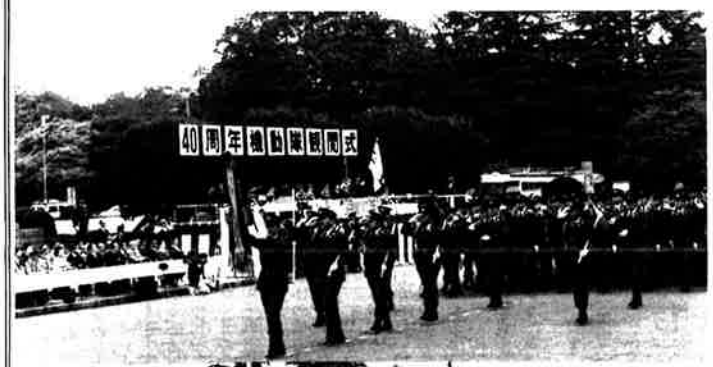
只今、諸君が示した威風堂々の部隊行動から、これまで数々の困難な警備に的確に対処してきた自信と誇りがうかがわれるとともに、首都治安維持の中核部隊として、逞しく邁進する新たな決意が溢れており、誠に頼もしく感じた。

警視庁機動隊は本年で四十周年を迎えたが、この間、諸君の先輩は常に警備部隊の中核として身を挺し、首都治安維持の重責を全うして警視庁機動隊の輝かしい[illegible]と伝統を築いてきた。内外から[illegible]せられる高い評価は、こうした諸先輩の「血と汗と涙」のなかから生まれ、育まれてきたことを私達は銘記すべきである。

現下の治安情勢は、見逃し難い危険な兆候が底流しており、とりわけ極左暴力集団は過激な闘争を展開している。また日本赤軍など国際テロ組織の暗躍は、厳重な警戒を必要とするところであり、右翼が直接行動に出ることも危惧される。

警備警護活動のみならず、過密都市東京での突発的都市災害を考えると、機動隊の任務も複雑多岐にわたる一方、国民、都民の機動隊に寄せる期待は高まるばかりだ。

諸君が責務を全うしていくためには、現状に驕ることなく精強無比の機動隊を確立するとともに、都民との接触の場においては、ゆとりある態度を堅持し、相手の気持や痛みの分かる心優しい血の通った人間機動隊として、適切な諸活動を推進していただきたい。



今月の言葉

真の国益とは

ソウルオリンピックを目前に、菊村や柴田の逮捕と、大事に至る前にその芽が摘まれたことは、それはそれで喜ばしいことだが、逆にこれは氷山の一角で、何やら不気味な怪獣のひたひたと忍び寄る気配が、益々濃厚に感じられるような気がしてならない。

日本経済が過酷な円高ショックを何とか克服し、うまくいけば再び高度成長路線に乗ることも夢ではないという大切な時期に、これを何故に破壊しようとするのか、いかに素晴らしい世の中でも「己の意のままにならぬ世の中ならば何の意味も無い、と考える人間が必ず居ることも、人の世の常であろうか。

先般、またまたマスコミの好餌にされた感じのする一連の奥野大臣発言の中でのやりとりに、「国益とは何ですか」という質問が出て来たのには驚かされた。

国益とは、と議論されねばならぬほど国についての観念が薄れてしまったということは誠に嘆かわしい限りで、もとより世界平和志向は基本的なことであり、世界平和無くして日本の繁栄もありえないのだが、「己の国に対する明確な意識なくしては諸外国との意志の疎通にこと欠いてくることも又自明の理である。だからこそ議論の俎上にあげ、国民の意識を喚起しようとしたというのであれば結構なことだが、単なる揶揄にしか聞こえぬのではどうしようもない。

飽食は人の肉体をナマクラにする。繁栄は多様な考え方や生き方を許容するが、かといって基本的な認識まで無くしてしまってよいということではない。

日本人が無国籍人化し、世界人として通用することを仮に願ったとしても、それはどこまでも自意識の中だけの話であり、諸外国の人々から見れば、どこから見ても日本人は日本人という範囲から抜け出ることはできない。

国益とは勿論単なるエゴイズムではない。日本という独立国家があり、それと全く同じレベルの尊厳さをもって他の国々が存在していることを認識し合って、始めてお互いの国益が守られ尊重されるものだと思う。確かに「迎合」か「反発」かだけからは、何も生まれてはこない。（自見 眞清）

警視庁機動隊

栄冠を目指して

「盛年重ねて来らず」という。二度とない青春時代、人は大きな夢を持つものだ。そして、もしも一つの試みがうまくいかなかったとしても、それは一つ先へ進むための段階であって失敗ではない。たとえ失敗しても間違っていても、それをやり直すことのできるのが青春時代である。青春真っ只中の機動隊員は、有事に備えて日々訓練に励んでいる。また、余暇には溢れるエネルギーをスポーツで燃やす。こうした青春にかける真摯な姿勢が、どのような困難に遭遇しようとも負けないで立ち向かう勇気と粘り強さを培っている。

白球を追い求めて

一機　片岡　柾敏

中学時代から卓球を始めて十年、現在警視庁卓球部員として練習に励んでいるところである。着隊以来、サミット警備やR警備等、大警備に従事しながらの練習は大変厳しいものであった。

「今年こそ、全日本実業団でベスト8に入るぞ」と目標を持ち続け練習を積み重ねてきた。昨年の実業団での成績は、ベスト8決定戦で他府県チームに敗退するという思わしくない結果であり、チーム一同、短時間で最良の効果をあげる練習計画をつくって、練習に熱を入れ励んでいる。

自分自身も高校時代に団体戦でインターハイで優勝した実力を取り戻し、また新たな栄冠をつかむため、先ずは体力からと思い、毎非番に皇居を走り、サーキットトレーニングや素振りをして体力の増進に努めている。卓球で培った気力・体力は、いかなる警備現場においても職務を遂行するのに役立っている。

私は文武両道を目指し、仕事に勉強に、そして卓球でも勝利者になれるように努力していきたい。今年は初めての巡査部長試験を受験する年である。今まで蓄積した実力を大いに発揮させて悔いのないよう頑張りたい。

過去の先輩方が築いてきた警視庁卓球部、栄光と輝かしい伝統を大切に引き継ぎ、「昇任試験合格」と「全日本連続出場」の二つの目標を掲げ、その目標達成のため更に努力していきたい。

何事も一継続実行することが一つの大きな力となる」の信念を持ち、これからも「一心不乱」白球を追い求めながら努力前進していく覚悟である。（卓球クラブ員）

オールにかける

二機　岡田　修

朝五時四十五分、コックスの「起床」の号令でボート部の一日が始まる。眠い目をこすりながらの体操に始まりランニング。十分体をほぐし、さあ上艇だ。コックスの掛け声に合わせ黙々と漕ぐ漕手、静かに水をかき分けて進む艇。練習コースである横十間川から小名木川に入り、往復して隊へもどるころには時計は八時近くを指している。

ここでボート部の沿革について説明しよう。昭和四十五年十月第四中隊第三小隊所属で発足し、翌年七月ボート小隊として独立して現在に至る。現在は、監督である小隊長以下十九名の編成で、平均身長百八十一センチ、平均体重七十七キロと大型チームだが、隊員のほとんどは素人から始めた者ばかりである。

過去の戦績を紹介すると、毎年四月のお花見レガッタ連続優勝の他、国体へは関東地区代表として計九回出場し、最高四位の成績をあげている。昨年は、お花見レガッタ、関東ナックル選手権で優勝した他、七月に埼玉県で開催された東日本競漕選手権において、初出場ながら新艇「河童号」をもってかじ付ペアに優勝した。しかしながら、国体都予選会で宿敵NTTに敗れて出場権を得られず、全日本実業団選手権でもNTTに〇・五秒差で敗れ準優勝に終わってしまった。この時流した涙を部員一同忘れることなく、"打倒NTT"を合言葉に猛練習に励んでいる。

ボートで一番大切なものは何だろうか。よく心技体の一致と言われるが、最も大切なことは心のあり方だと思う。すぐれた技術も体力も「絶対に負けないぞ、必ず勝つんだ」という闘争心がなければ練習そのものについていけないし、チームワークも崩れてしまう。

ボートは、近代スポーツの中で唯一ヒーローの出ないスポーツだと言われている。そこにあるのは、自分の力を出しきることで自我を棄て己を没し、全体の動きに合わせ、ただひたすら苦しみを耐え忍んで、全体のために全身全霊を尽くすことにあり、その力の結集で艇をより速く、調和をもって静かに進めていかねばならないからだ。言葉にすれば簡単だが、容易にできることではない。だからこそ全員で、毎日厳しい訓練に励んでいるのだ。

今年の国体は京都で開催されるが、まずその出場権を得るために、六月の東京都予選会を最大の目標に、一日百分の一秒でも速く漕ごうと、オールを持つ手に汗をにじませ全員が一丸となって頑張っている。（ボートクラブ員）

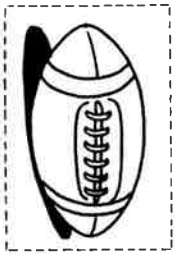
楕円球と青春

三機　片岡　康之

希望に胸をふくらませて第三機動隊に着任し、あこがれであった警視庁ラグビー部に入部した。入部以来、一日も早くレギュラーになることを目標にして、非番・週休はもとより、勤務前の早朝時間を惜しんでの体力作りと基本技術の反復練習は、自分との苦しい戦いでもあった。これまでの苦しい練習と試合にみられた、脚本のないドラマ展開の中で、一つの楕円球を追って太陽のごとく燃える一人のラガーマンの血と汗と泥と涙、それが私の青春である。

ラグビーは、三十人が一つのボールを追いながらの凄まじいタックル、体のぶつかり合い、そしてスクラムでの骨のきしむ音、このファイティングスピリットこそが、格闘技といわれる所以であり、醍醐味を味わうことのできるスポーツである。

ラグビーの言葉に、昔から「one for all, for one」と言う言葉がある。言葉の意味は、一人ひとりの選手がチームのために働くことによってチームは成り立つという意味で、犠牲的精神を表わしており、他のスポーツ。りもチームワークがより必要とされている。



チームには、チビがいる、ノッポがいる、そしてデブもいる。十五人の面々はさまざまである。花形ポジションは、トライゲッターのウィング。しかし、フォワードのうまい球出しがなければ、トライには結びつかない。

レフリーの右手が頭上高く上げられ、キックオフの笛が鳴る。試合の始まる瞬間、私の体に熱い血が流れる。それまでの苦しい汗と泥にまみれた練習を糧に、勝つことだけを信じ突進する。レフリーの両手が上がり、ノーサイドの笛が鳴る。それまで、それぞれのチームの勝利のために激しく戦ってきた両チームの動きが止まり、お互いの健闘を讃え合い、同じラグビー仲間に戻る一瞬でもある。

体の疲労より、心の満足感と爽快感で満ち溢れるラグビーの魅力は、言葉では言い表わせない奥深いものがある。どっちへ転がるかわからない楕円球を追って、体中を泥色に染めて頑張って来た青春真っ盛りの十年あまりではあるが、私にとってラグビーは何物にも替え難い貴重な経験であり宝物である。……人それぞれに青春がある……

時に私は、一つのスポーツに自分を賭けている人間の姿に共感を覚える。例えば、警視庁と同じ関東社会人一部リーグ加盟で、日本選手権試合で早大に敗れた東芝府中チームのウィングで出場した戸嶋選手である。三十二歳という年齢でしかも一旦選手から身を引きコーチに専念していたが、シーズンが染まるにつれラグビーに対する情熱が燃えあがり、チームの勝利に貢献したのである。

私はこのような素晴らしい選手を目ざし、多少なりとも警視庁ラグビー部に名を残せるよう努力していきたい。（ラグビー小隊員）

オリンピック出場目指す

四機　澤田　稔

「努力に勝る天才はなし」この言葉を胸にフェンシングを始めてから十五年過ぎたが、これ程長く続けるとは夢にも思わなかった。

高校、大学時代は、厳しい訓練の連続と先輩に鍛えられながらも、強くなるための階段なのだと自分にいいきかせ、時には涙を流し先輩に立ち向かっていった。こうした自分の姿は、今でも困難にぶつかった時、このことを思い出し、この位がなんだという気持ちが私を支えてくれる。しかし、苦しみだけなら今まで続けることはできなかったような気がしてならない。

辛い時、悲しい時、自分を見守ってくれる肉親がいた。そして友、ライバル、数多くの同僚達の笑顔や応援が私を支えてくれたからこそ、どんな困難も乗り越えてこれたと思う。

フェンシングを始めて二年目、全国高校総体で六位に入賞した時、苦しみの中から喜びが生まれた。笑う人があるかも知れない。それもそのはずである。数々のスポーツがある中で、六位である。しかし、私にとってこの結果は、一つの目標が見えた第一歩であった。

目標や目的があるからこそ、人は苦しみや哀しみに耐え、努力をし、困難を乗り越え、一つひとつ成長していくのではないだろうか。そして、一九八八年、今年の私の目標は、ソウルオリンピック出場と全日本優勝である。昨年から始まったオリンピック選手選考会は、すでに四次選考まで終り、現在十二名の選手が残っている。あと、全日本選手権と最終選考会の二回となった。

ソウルオリンピック出場のためには、勝つことこそが最大の条件である。そのためには、今まで以上の訓練と己を厳しく律し、技術的にも精神的にも、一層の努力と工夫が要求され、実力の向上に努めなければならない。

「継続は力なり」、毎日の訓練の積み重ねと繰り返しが大きな力となり、自信につながる。試合では己を信じ、チャンスを逃さず、自分の力を出しきることである。「敗れて悔いなし」、私の嫌いな言葉である。人は負けたら悔しいはずである。だからこそ勝つために努力をしていかなければならない。

隊長をはじめ、隊員の皆様の御声援と御期待に応えるよう、ソウルオリンピック出場を目指し、精一杯訓練に励み、頑張っていく覚悟である。（フェンシングクラブ員）

オリンピックに向けて

四機　迫山　幸一

一九八八年が始まり、今年は、四年に一度のオリンピックが、韓国ソウルで開催される年である。私達、近代五種の選手は、この年に向けて訓練してきた。

一般に、近代五種という競技を知っていてもその内容、詳細を知らない人達が多い。その意味でもここに、競技の得点法を紹介し、オリンピックに向けて目標達成するには、どうすればよいか考えてみた。

一　近代五種の競技内容（連続五日間に次の順序で行われる）

(一) 馬術競技＝障害飛越競技で、十八個の障害数を一個ずつ番号順に飛び越してゆく。そして制限時間内で騎乗を行った場合、最高千百点が与えられる。各障害での違反ごとに、それぞれ点数を減点される。

(二) フェンシング（エペ）＝全競技者の総当たりをし、一本勝負で試合数の七十%の勝数をあげた競技者に、千点が与えられる。それを基準として、勝敗につき点数が加算される。

(三) 射撃競技＝五発を一シリーズとして四シリーズ、つまり合計二十発で行われる。標的が三秒間現出される間に、一発ず**つ発射する**。標的上で、百九十四点が千点で、一点につき二十二点の得点加減法である。

(四) 水泳競技＝距離三百メートルの自由形で、三分五十四秒を千点とし、一秒増減により、四点を加減する。

(五) 断郊競技＝クロスカントリーで、距離は、四千メートル。得点は、十四分十五秒を千点、一秒増減するのに対して三点加減する。

二　成功への計画

目標を達成する為には、どうしたらよいか順序を追って、考えてみた。

(一) 精神的な準備＝トレーニングの要求するものに、精神的備えができていなければ十分な効果は期待できない。完全なトレーニング効果は、十分な心の準備ができた時、初めて達成される。

(二) トレーニング＝トレーニングは、試合より困難なものでなければならない。トレーニング計画の目標は、たとえコンディションが悪くても強行しなければ、次のトレーニングには移れない。また、トレーニングは可能な限り試合のコンディションに似た状況下でやるようにする。

(三) 心身疲労の回復＝心身疲労の回復は、次に始まるトレーニングで、大きな役割を果たすという意味で重要である。肉体的・精神的安定に努める。

以上必要な技術や精神や適応性を得て、目標の達成が可能になると思う。"勝負は、もう始まっているのである"（中隊員）

青春にキック

五機　吉田　知成

スポーツはそれぞれにいろいろな感動　そして希望を与えてくれる。サッカーももちろんそのひとつである。

私は、サッカーをはじめて十五年になる。小学校から現在に至るまで、その時々の忘れられない思い出が数えきれないほどである。無我夢中でボールを追いかけた小学校時代、勝つ喜びを知りはじめた中学時代、そして感激の高校時代。

休みは元旦だけ。早朝から夜遅くまでの猛練習。何度も自分に負けそうになり、サッカーを捨てようと思ったこともあったが、歯をくいしばって頑張った。その甲斐があって三年の時に、ついに目標であった全国大会に出場することができ、さらに私自身国体選抜に選ばれるという、高校生として最高の栄誉を手にすることができた。

県大会で優勝して全国大会出場が決定した瞬間、仲間と涙を流し抱き合って喜び合った場面が、今でも頭に焼きついている。部員九十人がひとつの目標に向かって団結し、一人ひとりが自分の限界に

挑戦し、勝つ喜び、負けることの悔しさ、耐えることの苦しさ、大切さ、そして仲間同志いたわり励まし合うことによって生まれる友情等、サッカーを通じて様々なことを経験することができた。

第五機動隊に着隊して二年目が過ぎた。昨年、わが警視庁サッカー部は、関東リーグ昇格は果たせなかったものの、東京社会人一部リーグにおいて連優勝し、関東大会に出場するという、近年にない好成績を残すことができ、また私個人としても、東京社会人の「ベストイレブン」に選ばれるなど印象深い年であった。

R警備の激務の最中、辛いこともあったが、キャプテンを中心に週休・非番はもちろん、早朝・昼休み等寸暇を惜しんで持久走、筋力トレーニングなどに努め、部員全員が一丸となって目標に向かって精進した結果であり、今あらためて諸先輩、同僚に感謝するとともに、今年こそ関東リーグに昇格すべく闘志を新たにしている。

サッカーを通じていろいろなことを学び、そしてそれが、警察官として機動隊員として職務を執行するうえにおいて、大いに役立っていると信じている。

「青春にかける」とは、若い時、今しかできないことに自分の持っている力のすべてを出し尽くし、努力することを言うのではないだろうか。警察官としての使命を果たすための気力・体力を培うためにも、サッカーにかけ、今、現在を精一杯生き抜く覚悟である。(サッカー小隊員)

ソウル五輪に向けて

六機　藤森　安一

四年に一度のスポーツの祭典オリンピアードが隣国の大韓民国のソウル市で開催される。今回は、ソ連をはじめ東側諸国も参加を表明し、モントリオール以来十二年ぶりの東西のぶつかりあいでレベルの高い五輪になることは間違いない。

五輪三強という言葉を御存知だろうか。各競技をトータルしての強さだが、その三強というのは、ソ連、アメリカ、東ドイツである。レスリングにおいては、ソ連、アメリカ、そして日本だ。しかしこれはロサンゼルスまでで、他の競技と同様、レスリングもこの二～三年、世界選手権等での金メダルがない。ソウルでは東側諸国参加のためレベルが非常に高く、そしてメダル獲得が厳しくなるものと予想されている。

さて当庁のレスリングクラブにも、三名の代表候補選手がいる。

昨年のサミット終了後からソウルを目指し毎日勤で特別訓練を実施している。訓練内容は午前中、当隊周辺のロードワーク（四km～七km）をし、道場において筋力トレーニング（ウェイト、サーキット）ストレッチ、マッサージ等でおおむね三時間、午後は三時間半から三時間ライバルの自衛隊体育学校や各大学へ出稽古に行く。これは同一場所でやると、マンネリ化してしまい練習効果も上がらないためである。合わせて緊張感や一番重要な精神力の強化も含まれている。

現在、世界の傾向は、技イコール力というように、総合的な体力がなければ自分の技術が生きてこない。各選手の特性を十分に把握し、弱点は勿論のこと、その選手にあったトレーニングで体力強化をして行かなければならない。

代表になるためには、豊富な練習量と精神力強化の二点が大きなポイントになる。

私も指導者（コーチ）として、三名全員が代表となれるよう、努力精進して行きたい。(教務係巡査部長)

一部リーグ昇格を

七機　藤田　剛

警視庁バスケットボール部は、今年で「創部十五周年」を迎える。創部当時は、隊舎近くの高速道路下の児童公園が練習場所であり、ボールをスコップに代えて石取り、草むしり等グランド整備から始めるなど、大変な苦労があったと聞いている。

しかし、先輩の苦労や努力の甲斐あり、創部当時十四部からスタートした関東実業団リーグ戦においては、毎年優勝を重ねて、現在は「二部リーグ」まで昇格している。

昨年は優勝チームと同率ながら、内容差で二位となり涙を飲んだが、念願である一部リーグ昇格に確かな手応えのあった年と言える。今年は、多くの先輩が築き上げたこの伝統を、更に高めるために精一杯努力したい。

一　短時間で効果的な練習

我々バスケットボール部には専用の体育館がないことや、非番・週休が練習のために十分な時間を取ることができない状況である。短時間に気持ちを集中して、実効性がある練習が必要である。練習毎に課題を持ち、内容の充実した練習をしていきたい。

二　戦況の変化に対応できるチーム作り

バスケットボールには、攻守に数えきれないフォーメーションがある。戦況も刻々と変化する。日頃の練習で基本プレーを徹底し、頭で考えなくても、戦況の変化が体に自然に対応できるようなチーム作りをしたい。

三　気力・体力の錬磨

どのようなスポーツでも、最後は気力・体力の勝っている方が有利である。幸いに我々の職場は、この点では恵まれている。したがって練習や日々の訓練を通して気力・体力の錬磨に努めたい。

四　チームワーク

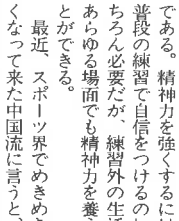
バスケットボールは団体競技である。いかに個々の力量が優れていても、それぞれが自分勝手にプレーしたのでは、試合に勝てない。目標に向かって、厳しい練習の中からより一層強いチームワークを作り出したい。

本年は、部創立十五周年という記念すべき年を迎え、最善の努力を尽くし、自己の精神力・技術の一層の向上を図って、永年の念願である関東実業団一部リーグ入りを是非実現したい。(バスケットボールクラブ員)

バーベルにかける

八機　石川　龍也

「ドキドキ、ドキドキ」、心臓の鼓動が、まわりの人にも聞こえるぐらい高鳴る。リングにあがればもうまな板の鯉だ。誰も助けてはくれない。「ヨシッ」と言う掛け声と共にバーベルを一気に頭上に持ち上げる。「やった、成功だ」心の中で呟く。リングを降りると仲間が笑顔で迎えてくれる。この一瞬がたまらなくうれしい。



ウエイトリフティングと聞いても、ああ重量挙げかと思うぐらいで、種目とかルールについてよく知らない方が多いと思うので、ここで少し説明したい。

種目はスナッチとジャークで、その重量のトータルで競う。スナッチは、手幅を広くしてシャフトを握り、一気に頭上まで挙げる。ジャークは、一旦、首の所までバーベルを引きあげて、さらにそこから頭上にさしあげる。ジャークの方がスナッチより二～三割重い重量を持ちあげることができる。

また、階級制で、五十二kg級から百十kg以上級まで十階級に分れているので、階級制の競技によくある減量もあり、多い人では十kgぐらい減量する人もいるし、また増量でも十kgぐらい増やす牛のような人もいる。

練習は、スナッチ、ジャークの種目を中心に行い、補強種目として、脚・腕・背筋・腹筋など各部位ごとに強化する。

腕力の強い人が重い重量を持ちあげるものだと思っている方が多いと思われるが、重量挙げでは、脚力・背筋力が大変重要な要素をしめている。一流選手の中には、自分のウエストと大腿部の太さが3cmしか変らないという人もいる。

練習後は、柔軟体操、マッサージをやり、筋肉をほぐし疲れを明日に残さないように気をつけている。また食事には、肉類、野菜類をバランスよく取るように心がける。

体力の増強に努めているが、体力と同じくらい重要なのが精神力だ。長い試合になると五～六時間かかることもあるので、この間、緊張感を持続するのは大変なことである。精神力を強くするには、普段の練習で自信をつけるのはもちろん必要だが、練習外の生活のあらゆる場面でも精神力を養うことができる。

最近、スポーツ界でめきめき強くなって来た中国流に言うと、万物の生命、エネルギーは「気」だそうだ。「勇気・元気・活気・根気」で、警視庁重量挙部の先輩方が残した輝かしい成績に恥じないよう、選手一同、本気で「気」を吐いてオリンピック大会出場、全日本選手権大会優勝、全日本社会人選手権・内閣総理大臣杯奪回を目指し、練習に励んでいきたい。警視庁重量挙部に応援をお願いする。(ウエイトリフティングクラブ員)

青春土俵真最中

八機　細田　龍一

今年の我が相撲クラブの闘いは、すでに昨年から始まっている。ここ二、三年の低迷した状態から脱すべく全員一丸となって「本年の目標」に向かって懸命に練習に励んでいる。

我がクラブの「本年の目標」は、一、東日本実業団相撲大会での二部団体優勝及び個人軽量級優勝、二、東京都青年相撲大会での団体、個人制覇、三、国体青年の部東京都代表選手の送り込みである。

そこで、我がクラブは、寒風吹き荒ぶ中、年頭からまわしをしめ、春から夏にかけて行われる各種大会に照準を合わせて稽古に励んでいる。本年の警備情勢も厳しいものがあるが、計画をたて練習を実施している。

今年のチームは全体に小粒なので、まず筋力アップを図り、早い、うまい相撲を目指している。

筋力アップについては、バーベル等の「道具」による「力」だけではなく、「人」に対する「強さ」を増すために、相撲特有の練習方法である「ぶつかり稽古」の回数を多くしている。また「早い、うまい相撲」は相撲をよく知り、合理的な動きを必要とするので、勝つためのより細かい「相撲技術」を徹底的に体で覚えるようにしている。

この二つの点を強化することにより、目標は確実に達成することができると確信している。さらにちょっとした油断や気の緩みがケガにつながることから、主将が方針を示し、部員全員が協議した上で実行している。こうすることで密度の濃いスムーズな練習で実効があがる。

ただ、毎年繰り返されることであるが、上俵上で汗をかき、砂をかみ、泥まみれになり、共に練習した部員が一度も土俵に上ることなく退隊していく姿を見ていて、一度でいいから勝負に勝った時のあの「味」を味わせてやりたくてならない。

しかし、ここで鍛えられた根性と体力はどこへ言っても通用するものであり、警視庁相撲部員としての誇りをもち、仕事への自信を深めるものだと思う。

私の夢は、全国警察相撲大会を両国国技館の土俵上で実施したいことである。この願いが叶わないまでも是非他府県警との対抗戦を実施し、警視庁相撲部の名を誇示してみたい。

我らが警視庁相撲部は、栄冠を目指し、これからも稽古に励み大会に臨んでいくが、（今こそ青春）と心から思えるような年にしたい。(相撲クラブ員)

犠牲的精神

九機　野本　誠治

昨年、創立十五周年を迎えた警視庁アメリカン・フットボール部は、先輩隊員の血と汗と涙の中から生まれ、「闘志なき者は去れ」を合言葉に、現在、日本社会人リーグ実業団カンファレンス一部に所属している。

しかし昨年は、残念ながら秋季リーグ戦において不本意な成績に終ってしまった。そのため今春には、二部との入れ替え戦を行うという、創部以来の正念場の年を迎えた。

警視庁アメリカン・フットボール部は、十五名の経験者を含む部員四十三名で第九機動隊第三中隊に属し、週休・非番の全てを練習にあてるなど全員が歯を食いしばり、汗と泥にまみれて厳しい練習を積み重ねている。

私ごとになるが、昨年、長女が誕生し、練習のため家にいることも少なく、仕事・フットボール・家庭と忙しくなり、妻は「たまには子供と遊んでやって」とか、「生傷の絶えないスポーツはやめた?」等言われ、口論になったこともあるが、いつしか私の好きなフットボールを理解してくれ、試合のある時などは、食事に工夫を凝らしてくれるなど、大変感謝している。

家族と接する時間をさいてまでも、私を熱中させるフットボールの魅力は一体どこにあるのか。それは、人間の持つ闘争本能を満足させることであり、また、我がチームの持つ「若さ」と「明るさ」にあるのではないかと思う。

ところで、他の実業団チームの選手強化は年々着実に進んでおり、優勝の壁は益々厳しくなってきている。そこで、経験者の少ない我がチームが「勝利」を摑むには、練習しかないと信ずる。

また、アメリカン・フットボールはチームプレーであり、「犠牲的精神」という理念がある。チームの目標である勝利を達成するため、そしてボールを一ヤードでも前に進める事を旨として、自己に課せられた役割り・任務を遂行するため、選手一人ひとりは、より一層の努力を積み重ねなければならない。

そして、厳しいまでの自己管理を、コーチ陣を信頼し、隊訓である「至誠・団結・剛健」にふさわしいチーム作りをめざしたい。

創部以来十五年余、入れ替え戦を目前にして今こそ警視庁アメリカン・フットボールの真価を発揮するときである。"勝利に向かってひたすら練習に打ち込み、汗している我がアメリカン・フットボールに栄光あれ"(アメリカンフットボールクラブ員)

めざせ実業団リーグ

特車　成井　正司

我々バレーボール部は、昭和四十七年四月に発足した。当初こそ惜敗の連続であったが、昭和五十年には東京都大会で優勝、翌五十一年には、バレーボールのひのき舞台ともいえる第二十五回黒鷲旗全日本選手権大会で、当時の頂点にたつ新日鉄と互角に渡りあい、ベスト8に進出するまでに成長した。当時の新聞には「柔剣道合わせ三十数段の猛者達」と我々異色チームを絶賛し、それ以降「めざせ実業団リーグ」を合言葉に現在に至っている。

第四中隊に籍を置くバレーボール部は部員十四名、平均身長百八十四センチメートルのバレー界では、小型の部類に入る速攻型チームである。

二十三年前までは独身者の多かったバレーボール部も、今や、妻帯者中心のベテラン選手の集まりとなり心技体の充実期に入った。

しかし、バレーボール部の悩みは、新入補強と練習場所の確保である。特に練習場所は、一般企業の体育館を借り歩く流浪の身で往復二～三時間を費やしている。

現在は、日本を二分する「地域リーグ」の東日本に属し、仙台・埼玉・千葉等の各試合会場を転戦している。過去三度実業団リーグ入替戦のチャンスに涙をのみ、実業団リーグ入りは未だ夢のままとなっているが、選手一同今年こそは「リーグ昇格」の意気に燃えている。

昨年五月行われた第三十六回黒鷲旗全日本選手権大会は、我々バレー部員にとって思い出深いものとなった。大阪府立体育館を埋めつくした一万人の観客の前を、東京都代表として全国三十四チームの精鋭とともに入場行進。その興奮さめやらぬ第一試合に、伝統ある日本鋼管と対戦することとなった。

会場の観客は、ホイッスルと同時に当然スター選手のそろっている日本鋼管の応援と変わり、我々は孤立していく一方であったが、何とかついていこうと必死に白球を追った。中盤まで競り合いが続くものの力の差は歴然とし、じりじりと点差がひらきかけた。その時、観客の中から「警視庁頑張れ、負けるな」の声が湧き上がり、我々の耳にも、はっきりと聞こえる程大きな声援に変わっていった。

結局試合は必死の攻防もむなしくストレート負けを喫したが、観客席からは万雷の拍手がまきおこり、選手一人ひとりの心に何ものにもかえがたい喜びと感動が湧きあがった。

我々は、この声援に応え、今年こそは実業団入りの夢を果したい。前進あるのみ……。(バレーボール小隊分隊長)

読者の広場

名古屋とイベント

岡谷篤一

広大な濃美平野と木曽三川の水資源に恵まれた名古屋は、我が国土の中間に位置し、歴史的にも東西からの強い影響を受けて来ました。その歴史もあってか、閉鎖的社会と批判される面もありますし、テレビ受けの良くない名古屋弁も残っております。

しかし城下町であり、素直・従順な人柄と、一旦懐に入れば裏切らない人情は、昨今の東西よりの名古屋勤務者にも、良い評価を得ております。

産業面では、自動車・工作機械・繊維・陶磁器と輸出型産業地域ではありますが、閉鎖的なのか、東西の谷間の為なのか、地域としての国内交流・国際化の受け入れは遅れております。

しかし、来年七月中旬より約四ヶ月間、「世界デザイン博」を催し、会期中には世界のトップデザイナー約三千名が集う世界デザイン会議を開催して、本格的な国際化を地域としても推進する事になりました。

又、本年七月八日より約二ヶ月間、隣町の岐阜市・長良川畔でも、パビリオン、十二館を建設し、面白さ日本一の地方博を目指した「ぎふ中部未来博」が開催されます。未来博見学の夜には、千三百年の歴史を誇り、岐阜城を背景に幽玄の世界を繰り広げる、長良川の「ウ飼」を楽しむコースもあります。

名古屋市内には、国内有数の私立美術館であり、徳川家康愛用の、そして尾張徳川家に伝わる古美術品等を所蔵・展示する「徳川美術館」が、昨秋新装オープンし、興味ある見学コースとなりました。

各地でイベントに沸く日本列島ですが、格別当地は交通の便にも恵まれ、一泊二日の旅程であれば十分にその風土・人情にも触れていただけますし、その変貌を体験していただければ幸いです。

最後に、これらイベント等の関連警備に携わる機動隊員の方々には、炎天下・厳寒・雨天と如何なる天候でも、整然と時には笑顔をもって勤務される姿を見るにつけ、紙上ではありますが、唯々感謝そして敬意を表する次第です。益々の御活躍をお祈りします。

世の中は狭い

飯田正雄

大阪にY君という予科練時代の同期生がいる。彼は長年刑事暮らしをして、殆ど階級が上がらないまま定年退職し、本人は一向に気にしているふうもない。

東京にM君というハルピン中学時代の同期生がいる。彼は開業医で、両君とはそれぞれ三年に一回ぐらいクラス会の時に会い、旧交を温めている仲だが、珍しいことに相前後して両君から手紙が届いた。

それ迄私は知らなかったことだが、M君は小学生の頃奉天（現在の瀋陽）に住んでいてY君と同級生であり、中学時代もハルピンであったとのこと。要するに竹馬の友であり、以来ずっと交友が続いているそうである。

さてY君が久しぶりに上京し、M君宅を訪れたところ、応接間の壁に鳥取県の大山の絵がかけられてあった。Y君はその絵を見るなり、これは大山だろうと言ったら、M君がどうして分かるのかと問い返した。何で忘れられよう、貴君達に盛大に見送ってもらって入隊した美保海軍航空隊は、今の米子空港であり、朝晩大山を眺めながら訓練に励んでいたのだ、はY君の答え。それならハルピン中学で一緒だった飯田というのが、同じ頃美保空に入隊したが知らないかとM君。知るも知らぬもない、予科練時代の同期生の名簿作りで、共に連絡をとりあい苦労している仲だとY君。

ざっとこんなことが両君の手紙に記されていた。

ついでにこの絵の作者は、M君や私のハルピン時代の恩師で、Kという絵の先生だが、出身地が島根県であり、大山も何枚か書かれてあるのを、M君が譲り受けたものである。

昭和二十年、日本の敗色がだんだん濃くなって来た頃、島根の宍道湖の近くに日本海軍とっておきの基地（通称新川基地とか大社基地といっていた）が作られ、数ヶ月私も駐屯していたが、宿舎は小学校を使用していた。

ある日突然ハルピン中学出身者は集まれという号令がかかり、何事ならんと本部に出頭したら、そこにK先生が来られていた。

K先生は若い頃、その小学校に奉職しており、帰省してみたら予科練出身者が沢山来ており、風の便りに聞けば満洲出身者が多いらしいというので、たまたま親戚の家に下宿している海軍士官に話してみたのである。ところが何とこれが私の直属上官。かくて戦争末期の秘密基地で、恩師と教え子が二日間度く面会することが出来たのである。もはや古い古い話である。

息子はライバル

栃木県西那須野町　津久井光

今でも昭和六十二年の中野警察学校の卒業式が鮮やかに思い起こされます。田舎者の私達夫婦は、映えある席に臨席させていただけましたことで胸が一杯でした。わずか一年間の息子の成長ぶりは見違える程で、金モールのついた制服に身を包んだ姿はとてもまぶしく輝いて見え、終生忘れることが出来ません。

その陰には諸先生がた、また先輩の並々ならぬ御指導の賜物があったと深く感謝致しております。

思い起こせば十九年間の親元での生活に沢山の思い出を残してくれた息子に礼を云いたい。特にスポーツ大会がテレビ中継され、一生懸命に頑張っている選手の姿とあの頃の息子の姿がダブッて観戦にも熱が入り、色々な大会での色々な面が頭の中をかけめぐる。

一才の頃、私の制服制帽を身につけダブダブの上着をひきずりながら敬礼しておどけた姿が、そのまま制服制帽姿の警察官になるなんて。

思いもよらず親と子が似た様な職に就いた事は頼もしい反面、まだまだ息子には負けられないと云う気持がわいて来る。苦しい時など、息子はこんなときどのように切りぬけているのだろうかと考えては、自分自身を叱咤激励し頑張っている。また楽しい時、今頃は東京のどのあたりで何をしているかと想いを馳せ、青春真っ只中の息子にちょっぴりやける。

小さい頃から堅い信念を持ち、曲がった事の嫌いな性格と動植物を愛し、やさしい心を持ち合わせている息子が選んだ道は厳しく大変な道だが、"ここ一番と云う時に最善を尽くす"をモットーに、大都会の治安維持のため任務を遂行する様祈りつつ私も負けじと張り切っている昨今です。良きライバルとして。

時々は成長ぶりを見せに帰って来て欲しい。水と緑と心の町ふるさと西那須野へ。（警視庁・機動隊・津久井拓之隊員の父親）

身体で覚える訓練

茨城県警察機動隊　長物、鉄パイプ制圧

滋賀県警察機動隊　遊撃部隊活動要領

広島県警察機動隊　ヘリコプターからの降下

お知らせ

寄付金　匿名氏より五月十七日付で三千万円のご寄付がありました。当会の運営に有効に役立たせて頂きます。有難うございました。

会費納入のお願い　六十三年度会費未納の方はお早目にお振込お願いします。お問合わせは事務局まで。

有事に備え励む機動隊

栗田工業㈱
高周波熱錬㈱
㈱三榮商会
山陽特殊製鋼㈱
大洋製鋼㈱
東京ニッケル㈱
村山文雄
㈱日鐵流通センター
㈱上野百貨店
大東港運㈱
姫田清美
廣慶太郎
国見山㈱
岡谷鋼機㈱
豊田通商㈱
広島シャーリング工業㈱
内外運輸㈱
藤田金属㈱
㈱辻作次郎商店
自見産業㈱
㈳機動隊員等を励ます会東北支部

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104 ミツヤビル3階
発行人 鈴木 實
TEL 03(272)2050
購読料 年間1200円（送料共）
（但し会費の中には購読料を含む）

平和と法秩序維持願う

第12回通常総会並びに懇親会

感謝と信頼

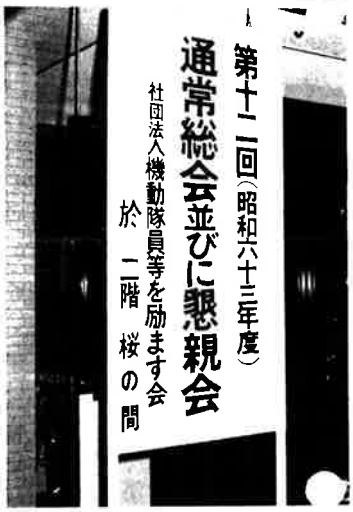
昭和五十二年に社団法人の認可を受けて公的組織となった機動隊員等を励ます会の第十二回通常総会並びに懇親会が六月二十三日、東京・富士屋ホテルで開催された。治安の要である機動隊員等と国民のかけ橋になっている当会は、年を重ねるにつれて拡大されており、これからも一段と充実していく。

国民の協力で任務遂行

昭和四十九年三月に任意団体として会員数三百八十五名で発足した励ます会は、今年で満十四年を経過した。現在では東京本部と八つの支部組織を持ち、会員数も一万二千人を超えている。

警備情勢は厳しいものがある。学園闘争や第二次安保闘争のように世人の耳目を集めた警備から、昨今は隊員一人ひとりの地味で忍の活動を主とした警備が多くなっているが、それだけに警備力の一層の向上が要求されるものだ。とくに極左暴力集団のテロ・ゲリラは、手段・方法を先鋭化させてきており、そこは機動隊を中核とする万全な体制で防圧検挙していくほかはない。

そのため隊員たちはたゆまない訓練や自己研鑽に励んでいるが、任務を達成する上において、国民の理解と協力が前提になることはいうまでもない。そういった意味からも励ます会は機動隊員等の心の支えとなっているが、平和と秩序の維持を祈求する国民の願いが、この励ましの輪をさらに大きくしていくことになろう。



新理事二名を選出

第十二会通常総会は、会員数一万二、〇七一人、定款に定めた過半数（委任状ともに六、一二九人）の出席を得たことで、村山文雄理事長を議長に、鈴木實理事長が総会の成立を報告、鈴木實理事長を議長に、第一号議案（昭和六十二年度事業報告並びに収支決算承認の件）、第二号議案（昭和六十三年度事業計画案並びに収支予算案承認の件）を異議なく承認した。

第三号議案（理事選任の件）で小野晃、麻生博両氏が新たに理事に選任（総会後の理事会で麻生博氏を常任理事に選出）された。

第四号議案（定款変更の件）は本会事務所を、東京都大田区仲六郷四丁目三二番五号に移転変更することになった。

総会終了後、機動隊員等が整然と入場、懇親会に移った。村山文雄理事の開会挨拶で始まり、鈴木實理事長から当励ます会の発展に貢献のあった麻生博、小川郁雄、堤直人、辻川敏明の四氏に表彰状と記念品がそれぞれ贈呈された。

功績者四氏を表彰

中国支部総会大盛況

機動隊員等を励ます会中国支部の六十三年度支部総会並びに懇親会は、六月十七日十七時三十分より広島県社会福祉会館で開かれた。中国管区と広島県警察機動隊約百三十名を招き、会員含めて三百名の大盛会であった。

石田武・中国支部世話人の開会の辞で始まり、柳本武一・中国支部長と鈴木實・理事長がそれぞれ激励の言葉を述べ、来賓として保良光彦・中国管区警察局長と安達眞五・広島県警察本部長が「支援に感謝、警備完遂に取り組む」と挨拶した。

松田武彦・励ます会理事が音頭をとって力強く乾杯、懇親パーティーへ移ったが、会場は機動隊員と会員の熱気で最高に盛りあがった。

来賓として警察庁鈴木長官次長は、公務出張中の金澤昭雄長官の代理として「励ます会の活発な活動に感謝し、警察一丸となって治安の万全を期していく」、また、警視庁大堀太千男総監は「機動隊の任務遂行も会員を始めとする国民の支援があってのこと」とそれぞれ祝辞を述べた。

励ます会佐々木喜朗副理事長が乾杯の音頭をとり、隊員と会員の歓談で熱気が高まった。最後に木村政次大阪支部長発声による万歳三唱で閉会したが、この感謝と信頼の集いはこれからも全国各支部でそれぞれ繰り広げられる。

今月の言葉

長寿国日本の将来

昭和六十二年の日本人の平均寿命が男七十五・六一歳、女八十一・三九歳になったことが厚生省で発表された。

日本は今や世界一の長寿国となった。戦前迄は「人生五十年」という言葉があったように、五十歳を超えれば間違いなくご隠居様で、六十歳の還暦を迎えた者は正に慶賀に値する年齢であった。

戦前は乳幼児の死亡率が高く、戦争に参加した青壮年層の死亡も多かったので、これが統計上短命要素となったことは否めないが、一般論としては、日本人の過飲過食や塩分の摂り過ぎ等、食慣習が主たる理由であった。

戦後、駐留米軍の影響もあり、特に三十年以降は生活様式が西欧化され、食生活にもパン食や酪乳製品が多く使用され出したが、バイオ部門での目覚ましい進歩と、国民全般の栄養意識や健康思想の普及により死亡者が激減し、勢い日本人の平均寿命を伸長させたのは周知の事である。

今日の長寿の一翼を担っている六十、七十歳台の高齢者は、戦時中食糧貧困の中で、芋の葉どころか雑草迄食べて生き延びた、文字通り粗食に耐えられた人達である。栄養学的見地から言えば、一番大事な青少年時代のこの貧食は、到底長命とは無縁の体質となっていた筈である。にも拘らず長寿を維持している秘密は奈辺にあるのだろうか。

餓死の恐怖から抜け出る為に、動物的生命力が自然と培われたのであろうか。或いは又、何でも自分の栄養に転化し得る能力が出来上り、其後の食生活とマッチして余命を延ばして来たのだろうか。恐らくは飽食したくても出来なかった当時の客観情勢が、必然的に長寿を支えたと言い得る様な気がしてならない。

日本は今や世界屈指の経済大国となった。諸外国から働き過ぎと非難され、円高を満喫してレジャーを追い続ける気楽な人達、飽食の世代としてグルメに明け暮れている若者達、肥満児増加の傾向、こういう現象を見ていると誠に寒心に堪えない思いがする。

飽食が過ぎれば、栄養過多で健康を損うことは目に見えている。最近男性の喫煙者が減ってきた反面で、女性の喫煙が多くなったと聞くが、これも問題になろう。

一方、車社会の拡がりと共に歩くことを忘れかけている。運動とはその字の通り足を運び体を動かすことである。単純な動きでも毎日繰り返すことが肝心で、月一～二回のゴルフや、たまにするジョギングでは全く運動にならず、一番いいのは毎日の長距離速歩である。飽食と運動不足では、長寿を全う出来るとはとても思えない。

この観点から、二十一世紀に入った時点で、日本が尚長寿世界一を謳歌出来るかどうかは、厚生省の予測にも拘わらず、甚だ疑問に思われるのである。戦後の平和日本をリードし、世界に冠たる国内治安を醸成して来られた栄えある機動隊各位の、規律正しい訓練と規則正しい生活態度が国民の規範となり、引金となって、この疑念を杞憂に終らせてくれることを念願して已まない。

（西田鐵男）

先輩からのアドバイス

一期一会という。人生のなかで人と人との出会い。今年も機動隊に新隊員が入隊してきた。これからは先輩たちと一緒に汗を流し、治安維持の使命へ向けて全力投球していく。栄光や勝利ばかりでなく、時には挫折もあれば屈辱もあるだろう。だが、自分の責任において、それらを何度も乗り超えていかなければならない。意義ある生活をいかに過ごすか、ここは先輩のアドバイスを聞いてみよう。

積極的にチャレンジ

一機　小澤義康

新隊員の皆さん、入隊おめでとう。心から歓迎する。機動隊の新しい一員として新生活が始まり、まだ不安で一杯のことと思うが、先輩として、機動隊生活を楽しく意義のあるものとして送るための心構えを二、三紹介したい。

一　機動隊での目標を持つこと

入隊するに当たり、皆さんはそれぞれ目標を持っていることと思う。しかし、機動隊での日まぐるしい仕事の変化の中で、毎日が忙しいあまり目標を忘れがちになる。最初からしっかりと目標をたて、その目標が達成出来るよう努力してもらいたい。

二　旺盛なチャレンジ精神を持つこと

機動隊には、皆さんも良く知っている武道小隊の他、機動救助隊、野球、卓球、音楽等特殊技能を必要とする仕事やクラブ活動が沢山ある。自分は何が出来るか、何をすべきかを良く考え、積極的にチャレンジしてもらいたい。

三　良い友達をたくさん作ること

四百人もの同年代の青年警察官がおり、機動隊での三年間は、警察社会の一ページを飾るにふさわしい場である。この間に良い友達を作り、人生を語り、訓練に汗し、お互いに切磋琢磨して勉強していけたら素晴らしいと思う。

ここまで述べた限りでは、「機動隊って所は、厳しそうなことばかりじゃないか」と思うかもしれないが決してそんなことはない。

例えば私が入っている音楽分隊を紹介しよう。この音楽分隊は各隊にあるが、第一機動隊の場合「ファーストチェリー」と呼ばれている。音楽分隊の隊員は全員音楽が大好きで、暇を見つけては楽器を持ち寄り、色々なジャンルの曲を練習するなど、和気あいあいとやっている。

そして入隊式や退隊式、署の寮祭、もちつき大会、結婚式の披露宴などでその練習の成果を存分に発揮している。新隊員の皆さん、音楽好きな人は、是非音楽分隊を希望することをお勧めする。

機動隊生活の一部分を紹介したが、厳しさの中にも楽しさがあり、徐々に慣れ親しんでほしい。頼もしい先輩と上司がたくさんいるので、苦しい時や困った時等はきっと良いアドバイスをしてくれるはずだ。

この輝かしい誇りと伝統ある機動隊で我々と共に歩んでいこう。

（中隊員）

水難救助今日も訓練

二機　宮崎圭介

現在スキューバダイビングは、若い人達の間で人気を呼んでいるが、このマリンスポーツとしてのダイビングと我々のダイビング（水難救助）では根本的に違うものがある。

一つは目的だ。レジャーでは海底探検、水中散歩が主であるのに対し、我々水難救助隊は貴い人命を救助することが目的である。

二つは場所の選択である。レジャーであれば透明度が無限にひろがるきれいな海を選ぶことができるが、我々は出動命令があれば海、川、湖、沼等場所のいかんを問わず潜らなければならない。

私は新隊員の頃、水に対する恐怖感があり、なかなか潜ることが出来なかった。また季節も夏だけでなく、真冬に氷を割って訓練することもあり、毎日のように訓練が続けられ、指導する先輩の顔が鬼に見える程だった。こんなに厳しいものならば水難救助隊を辞めようと何回も思ったものだ。

しかし、訓練回数を重ねるうち潜れるようになり、自然に水中で余裕がでてきた。こうなると以前とは違い、厳しい訓練は何ら苦痛でなくなった。

初めて出動したのは羽田空港沖の検索であった。この時、私はなかなか潜らせてもらえなかった。

いざ潜るときには先輩の表情や指導は訓練のときとは違い、ものすごく厳しいものがあった。あのときは理解できなかったのだが、現在、後輩を指導する立場になり、やっと理解できた。それは、水難隊員が出動現場において自ら事故を起すことは許されないのである。救助に行った隊員が二次災害を起し、逆に救助されることは絶対に許されない。

水中での事故原因は様々だが、一番恐ろしいのがパニック（例えば足の痙れん、水中での突発事態）だ。パニックを起さないようにするには、水に慣れ水中で自信を持つことである。しかし自信と、侮りとは違う。この侮りも事故原因の一つである。このパニックや侮りを克服するには訓練しかない。

二機の場合、六メートルの潜水塔があり、隊の隣りには横十間川が流れ、訓練には最高の環境だ。特に川などは、湖や水の流れ、天候、風等の気象条件が毎日変化しているので、このような条件下における現場を想定した検索訓練を重ねて行う。潜水塔では、エアーステーション、交換呼吸、妨害排除等の訓練で水に慣れ、水中で自信を持てるようにする。

これらの訓練は決して楽ではないが、事故防止のためには訓練しかない。後輩と共に訓練で泣き苦しみ、各人が技術を身につけつつ、いかなる条件の下でも水難救助活動ができるよう今日も訓練、明日も訓練と毎日頑張ってる。（中隊員）

短い時間を有効に

三機　増子洋幸

入隊おめでとう。大きな希望に胸を膨らませての着任であったと思う。私も皆さんと同じように、希望に胸を膨らませて、昭和六十一年の九月、栄える第三機動隊に入隊した。入隊式で「目標を持って隊生活を送ること」という隊長訓授を聞いて、「よし俺は在隊中に必ず昇任試験に合格するぞ」と決意し、巡査部長昇任試験合格を目標にした。

私が入隊した時期は、「O（オー）警備」の真っ只中で警備情勢が厳しく、勤務中は少しの油断も許されない状況であったので、非番は休暇を利用して、寮へ帰って布団に入ると、目が覚めるのが真夜中とか時には翌朝まで眠ってしまうという状態であった。

しかし難関を突破するには、「厳しい状況下に耐えることが第一歩である」と自分自身に言い聞かせ、少しの時間でも無駄にせず効果的な勉強をするよう努力した結果、その努力が実を結んで一次、二次、三次試験の口述で不合格となってしまった。この時の口惜しさは決して忘れられるものではない。

ここで、私が新隊員のとき、勉強について心掛けた点についてくつか紹介するので参考にしていただければ幸いである。

一　睡眠を十分にとって出動し、出動中の待機時間を有効に活用できるようにする。

二　あらかじめその日に無理なく消化できる問題数やページ数を設定しておく。

三　昼間帯の待機は短時間であるから、断片的になっても差し支えのないショートアンサー等の問題集を中心とする。

四　夜間の最初の休憩は寝ない。まとまった時間なので、参考書を中心とした基礎学力の収得のための勉強にあてる。

五　非番は、寮に帰ったら夕方までぐっすり眠り、疲れを早く取る。そして、夜は最低三時間の勉強時間を確保し、ノートのまとめ等にあてる。

以上は私が勉強していく上で実行して来たことだが、その他新入隊員として大事なことがある。それは、先輩の指導を受け、早く仕事を覚えなければならないということだ。そして、その仕事を新入隊員同士が相互に協力し合い、効率的に処理し、自分達の時間を作り出し、勉強や体力づくりに励んでいって欲しいと思う。

「時は金なり」、我々が肝に銘じなければならない言葉である。私はこれからも、この時間という宝を自分の努力で見つけ出し、大切にしていきたい。そして、二度とあの口惜しさを味わぬよう、時間を無駄にしないで計画的勉強に努力をしている。

私はこのように、機動隊に入隊して以来昇任試験合格を目標：頑張っている。新入隊員の皆さん！折角希望を持って入隊したのだから、何か一つ目標を設けて有意義で実のある機動隊活動を送っていただきたい。

（中隊員）

助けることの大切さ

四機　横山浩之

私がはじめてレスキュー隊を知ったのは、派出所勤務をしていた頃のことである。「エレベーターが二階と三階の間に止まり、人が出られなくなっている」との通報を受け、現場へ向かった。

その時はどうしていいか分からず、ただうろうろするばかりだったが、たまたま機動隊の人がいて、「隊でレスキューが待機しているから、連絡をとろう」と言ってくれ、すぐにレスキュー隊員が来てくれた。その時の隊員の動きの良さ、連携プレーのよくとれたことに感動を受けたことがとても印象に強く残っている。現在、私がレスキュー隊員として、毎日の訓練、そして勤務に励んでいられるのも、このことがきっかけとなったことはいうまでもない。

レスキューは、ひとことでは言いきれないほど沢山の事件事故を扱う仕事である。交通事故をはじめ、エレベーター事故、火災、飛び降りや動物に関することなど幅広く行われている。中でも、人命にかかわる事故は、急を要するので立ち上がりが重要なポイントになる。

レスキューは体力さえあればだれでも出来ると思われがちだが、そればかりではない。もちろん体力も必要だが、その他に勇気、すばやい判断力、迅速な行動なども重要な役割を果たす。

新隊員の頃、何にも分からず先輩の言われるままにやるばかりで、資器材の扱い方を覚えるのもひと苦労だった。中でもロープ渡りなどは、数回渡るだけで手の皮がむけたりして、毎日の訓練がいやになった。しかし、そのいやな訓練も、先輩がときどき模範訓練を見せてくれると、「俺もはやくあんなふうに出来るようになりたい」と思うようになり、一生懸命やらなくてはと、自分に言い聞かせてきた。

教えてくれた先輩は、普段はやさしいが、いざ訓練に入ると鬼のように怖く、気をゆるめると大事故につながるので真剣そのものだった。基本をしっかり覚え、訓練を継続し、体で覚えることにより、自分も負傷することなく、救助することが信頼感のもてるレスキュー隊員だと思う。

これからレスキューをやってみようと思う人は、基本をしっかり身につけ、どんな事案にも勇気と自信を持って取り組んでもらいたいと思っている。

（中隊員）

一緒に汗を流す喜び

五機　四郎園文明

我が「精強・学の五機」にも待望の新鋭が入隊した。その姿は、まさに隊内に活気を運び込む新鮮な風と言えるのではないだろうか。

一年前に私も新隊員として、初めて完全装備で走り回ったことを思い出す。機動隊に転勤が決った時、期待と不安で毎日が複雑な気持ちだった事を覚えているが、それは多分、新隊員全員が感じることだと思う。

機動隊にはその独特なカラーがあり、そして厳しさがある。しかし、それだけに任務を全うした時の感激はひとしおであり、全隊員が互いに喜びを分かち合うことができるという良さがある。第五機動隊という同じ屋根の下に入った訳だが、同じ釜の飯を食う仲間同士、重責を果たすため共に汗を流して行こう。

わずか一年の経験ではあるが、隊生活を通じて私自身が感じたことを二点あげてみたい。

まず第一に、「気持ちを切替え、原点に戻る」ということだ。機動隊員としての勤務は、これまでと異なる面が沢山あり、戸惑うことも出てくる。そういう場合に、幹部や先輩方の指導を素直な心で受ける事が大切だと思う。機動隊は、各種警戒警備において集団行動が多いだけに「まとまり」が最も重要である。一日も早く隊の雰囲気に溶け込み、新戦力として役に立つためにも、素直で謙虚な気持ちを忘れてはならない。

そして第二は、「目標を持ち、それに向って真剣に努力する」という事である。言うまでもなく、それぞれが何らかの決意をして着隊したことと思う。昇任試験合格をはじめ各種資格の取得など様々だが、幸いなことに、わが第五機動隊はすべてにおいて絶好の環境にある。「学の五機」「精強の五機」の伝統を守るため、全隊員が一致団結し一丸となって邁進している。とにかく前向きに懸命に努力すれば、目標は必ず達成できるはずだ。

今年も成田闘争など警備情勢は予断を許さず、勤務もますます厳しくなると思われるが、「やる時はやる」の精神で頑張って行こうではないか。一緒に素晴らしい汗を流し、喜びを分かちあいたい。

（中隊員）

無線に強くなるために

六機　小島一信

通信係は、警備部隊の中核的係であり、極めて重要な立場に位置している。私が通信係員として常に心掛けていることは、無線機等の紛失を絶対にしないということである。自分自身の不注意から盗難にあった場合は、部隊運用が察知されるばかりでなく、保秘事項も漏れ、警備目的を達成することが困難になるからだ。

通信係の警備現場における任務は、目の前で行われている警備の把握、隊長・副隊長命の示達、関連部隊への連絡、情報の収集など口を休めることができないことが多く、成田警備等においては、一人で周波数の異なる四台もの無線を聞き、それに応えなければならない。しかし、一つの警備を終えた時の充実感は最高で幸せを感じる時でもある。

常駐警備等「忍」の警備の今こそ、無線通話の重要性を噛みしめる時期ではないかと思う。いかに素晴らしい技術を持った隊員がいても、一人では任務を遂行できないし、警備に携わる全隊員が、同レベルで一方向に向って行く力と、相互の連携が緊密でなければ、間隙をつかれ目的を達成し得るものではない。

新隊員の皆さんが警備無線を携

帯した時は、「有事の際よりも平事の通話に心掛け」、訓練のつもりでどんどん部隊拠点に報告し、通話に慣れ親しみ、自分のものとしていただきたい。

何事も基本なくして応用というのはあり得ないので、基本に基づいた通話に心掛け、集団警備力の強さの中に通話力の強さも加えていただきたいと思っている。

警備現場においては、部隊通話の聞き漏らしは絶対に許されない。いかなる場合も常時警戒態勢を保持し、金神経を集中していかなければ、突発事案に迅速に対処することはできない。また、もし何かが起ったらという問題意識を常に持ち続け、措置、報告要領を繰り返し繰り返し訓練し、体で覚え、毎日の無線通話を適切に行っていただきたい。一緒に精一杯努力していこう。

（通信係員）

自己研鑽の好機到来

七機　丸　司

「機動隊」、それは正義という情熱に燃えた男達の城である。機動隊員は警備のプロであり、武士（もののふ）の心を持たなければならない。ゲリラ事案発生に際しては、持てる機動力をフルに発揮し迅速・的確に処理することを旨とする。

私は第七機動隊で操車係に所属しているが、機動隊において操車係は極めて重要な役割を果たしていると自負している。部隊が出動するには車両が不可欠であり、また警備現場においても特殊車両の果たす役割は大きい。

機動隊にはメルセデス・ベンツのウニモグや、浅間山荘事件に出動した特型警備車をはじめ機動隊ならではの特殊車両がずらりと並んでいる。私も第七機動隊に着隊したころから、このような車を運転して警備に従事できればと思い、操車係を希望したものである。

新隊員の多くは現在、厳しい訓練を終えたばかりで、右も左もわからず不安でいっぱいだと思う。そこで、この機会に稚拙ながら操車係員として車両関係について私から少しばかりアドバイスやお願いをしたい。

一　我々操車係員は警備車両を運転して、部隊を迅速に現場に搬送しなければならない。したがって事故防止には特段の留意を必要とする。荒れた現場で車両を移動する時などはなおさらである。そこで、みなさんには正確な車両誘導をお願いしたい。

二　各営駐先や警備の現場に行く際は、ただ漫然と乗っているのではなく、地理に精通するためにも地図と照らし合わすなどして早く地理を覚えること。後で必ず役に立つ。

三　各中隊で使用した車両は、清掃を怠らないこと。自分の部屋が汚れていたのでは、部屋にいても気持ち良いはずがない。機動隊生活の五分の一近くを車両で過ず我々にとって、車両は自分達の部屋のようなものである。

現在、極左によるゲリラが頻発し、対象が「物」から「人」へ、手段も「火炎ビン」から「爆弾」へと凶悪化している。それに対応して機動隊も静・忍耐の警備のみならず、鎮圧の警備も強く要請されている。このような時に着隊した新隊員の皆さんは、機動隊員として自己を磨くにはまさに好機到来と思われる。また、これからの機動隊を担っていく原動力でもある。この大事な時期の苦しい体験を糧とし、「初心忘るべからず」をモットーに頑張ってもらいたい。

（操車係員）

警備センスを磨く

八機　薄井義人

私たち広報係員は、日頃、警備現場広報の目的である警備部隊の行動と表裏一体の関係を保ちながら、対象に応じた広報をタイミングよく実施し、相手方及び第三者等に対して警察活動の正しい認識を与え、その理解と協力によって警備措置を円滑に行い、事態の収拾及び事故防止、その他公共の秩序保持を図っている。

これは、警備現場広報の指導書にうたわれていて、広報係員なら誰しもこの目的に少しでも近づこうと、警備センスを磨き厳しく訓練に励んでいる。

私もその一人だがまだまだ未熟であり、勉強することが沢山ある。そんな私が第一に注意していることは、今自分は「基本に忠実であるか」ということだ。これは広報に限らず武道やその他さまざまな分野においても共通する。

ある程度の実力が身につくと、自分に対する厳しさが徐々に薄れ、能力の幅が狭くなってしまう。そんな時に、今まで経験したこともない壁にぶつかると簡単に崩れてしまう。そこで、これから広報検定を受験する方、広報係員を目指している方、そして、警備現場においてマイクを手にする方にアドバイスをしたい。○基本は、いつでも役に立つ、○むずかしい壁にぶつかったら基本にかえれ、この二つである。

私の思う広報係員の責務は、上級指揮官及び現場部隊と常に緊密な連絡を保ち、上級指揮官の意図を察しながら適正な広報を実施することである。

声の伝令となるための基本的項目は

一　標準語を明瞭に話し、広報に興味をもち表現力にすぐれ、しかも、声量が豊かに。

二　鋭敏な警備感覚をもち、機知に富む。

三　感情に走らず、冷静沈着で判断力にすぐれる。

以上三点を頭にたたき込み、これからも、私は常に前進し、訓練に励む決意である。

（広報係員）

静にして動を考える

九機　宮川伸一郎

昭和六十年十月二十日、成田現地闘争の際に、三里塚交差点において鉄パイプを振りかざし、警備部隊に殴りかかってきた極左暴力集団の一人を逮捕しようとしたところ、私は不覚にも鉄パイプで頭部を殴打され、その場で意識不明となり、気がついたときは警察病院のベッドで横になっていた。

最初の頃は、「言葉がしゃべれない」「文字が読めない」「友人の名前が思い出せない」といった状態が続き、その時交際中であった妻とも満足に言葉もかわせない日々が続いた。

しかし、上司・先輩・同僚の暖い激励や言語訓練、字の書き取り、機能回復訓練を経て、現在では後遺症もなく、昨年無事結婚でき特務係員として諸警戒警備に当たっている。

昔の「動」警備から「静」の警備へと移行している現在、突如警備現場が修羅場と化した場合、荒れた現場を知らない者は頭に血がのぼり、正確な判断ができなくなってしまう場面が出てくるかもしれない。この様な状態の中で、いかに冷静な判断力を保持し、決断を下していけるかが勝敗を決するものと考える。

そのためには、事案が少ない現在の機動隊は、あらゆる現場を想定した警備訓練を徹底して反復し、体で部隊の動きや個人の動きを覚えることが大切であると思う。そこでわずかな機動隊経験の私から後輩へのアドバイスは、前記した警備訓練の他に、機動隊員としての心構えについて述べたい。

一　「静」にして「動」を考える

最近の警備情勢は、重防警戒等の「静」の警戒警備が多くなっている。こういう警備は形式的に陥りやすくマンネリ化になりがちであるが、対象は水面下で激しく動いていることを認識し、いついかなる時でも、常に有事の際は、自分はどういう行動をとるべきか何をやるべきかを考え、問題意識をもって勤務することが大切である。

二　情報のないときこそ危険である

最近の警備では通信機器の発達で現場にいなくても次々と入ってくる情報で、ある程度の状況把握をすることができる。反面「状況報告が入らない時は平穏である」と思いがちであるが、情報の入らぬ時こそ極左暴力集団はテロ・ゲリラを敢行するために満を持しているのだという心構えを持っていなくてはならない。

以上述べたことは、後輩に対してのアドバイスの一端にすぎないが、このようなことを常に念頭に置き、警戒警備に臨めば、いかなる警備にも完遂できるものと信ずる。

警備員心得五則にもあるように、私のような受傷者を二度と出すことなく、極左暴力集団が、「もう機動隊にはかなわない」と言わせるまでに共に全力疾走していこうと思う。

昇任試験合格への道

特車　大山俊治

着隊おめでとう。希望に燃えて機動隊へ来た方、警察署でも少し仕事を覚えてからと考えていた方もいるかと思う。しかし、選ばれて機動隊に来たからには、三年間の在隊生活を有意義に過ごし、自分の目標を立て自分の力でそれを達成し、胸を張って退隊できるよう頑張って欲しい。

そこでこれから、皆さんが一番関心のある昇任試験について参考になればと思い、私の経験を述べさせていただく。

一　自分は巡査部長試験に絶対合格したい、自分はどうしても巡査部長になるんだと思い続けること

私がそう思う気持ちになったのは、自警の人事移動の欄を見、自分の知っている人が次々に昇任していくことに、居たたまれなくなり発奮したことにある。

二　勉強が出来る環境を作る

寮にいると自分の部屋がないとか机がないとか言う人がいるが、隊には教場がある。私は幸いにも本部員で職場に机もあり、勤務終了後、毎日三時間位勉強することが出来た。探せば勉強の場はどこにでもある。工夫して良い環境で勉強することが大切だ。

三　勉強の計画を立てる

勉強を漠然とやっているとか、長い時間ただ机に向っているというのでは能率が悪い。そこで科目と期間を決め、計画を立て、その計画を着実に消化理解していくように努めることが大切である。勉強していくうちに重要な事項が解けてくるので、更に深く広く勉強することにより興味も沸いてくる。

四　勉強の継続

しかし、いくら勉強してもそれがすぐ結果として表われない事も多い。また、問題を解いていると逆に間違いが多くなったり、ややもすると毎年一次試験だけは合格していたのが一次試験すら不合格になってしまうことさえある。

しかし、どんな時にも勉強を継続させていくことにより、知らず知らずのうちに実力がついてくる。

五　酒を飲んだ時はすぐ寝る

私は酒に弱く酒を飲むとすぐ眠くなるので、酒を飲んだ時はすぐ寝てから早朝必ず起きて勉強した。

六　だらだらとした勉強はしない

体が疲れている時には精神力で、といっても生身の体である以上限界がある。疲れていたり、眠い時は無理をせずに、寝て体を休めてから翌朝勉強をした。

七　正解数をいかに多くし合格点へもっていくか

試験の時は、難しい問題に考え込まないようにすること。まず、取り組み易い問題から解いていき、難しい問題については、じっくり時間をかけて正解を求めることが大切である。

以上、巡査部長試験に合格しての一端を述べさせていただいたが、この合格は上司・先輩・同僚の御指導、御支援のお陰であると感謝している。この合格の感激を終生忘れることなく、日々切磋琢磨していく覚悟だ。

（全計係員）

防災訓練で成果披露

島根県警察機動隊

水害や市街地災害に対する防災活動をテーマにした県総合防災訓練が六月三日、浜田市で約八十機関、三千人が参加して実施され、島根県警機動隊も降り続く雨の中、熱のこもった訓練を展開した。

訓練は、中国地方に停滞していた梅雨前線の活動が活発となり、県西部を中心に大雨に見舞われ災害が発生したとの想定で行われた。

初参加の交通機動隊員で編成したトライアル車による先遣情報収集活動に続いて、機動隊の救助・救出活動が展開された。

孤立地区に想定した対岸に救命索銃を発射してロープを展張し、レンジャー隊員がチロリアン渡りにより渡河、負傷者への救急処置後、担架懸垂でロープ輸送して救出した。また、漂流者の発見情報で舟艇班が濁流に出動して漂流者を救助、救急隊に引継いだ。

県西部では、五十八年、六十年に豪雨災害に見舞われ、こうした気迫のこもった訓練を見学者も真剣なまなざしで見守り、機動隊に対する信頼は一段と高まった。

お知らせ

当励ます会千葉支部総会を八月一日（月）十六時から「千葉グランドホテル」で開催致します。会員各位のご参会お待ちしております。

会費納入のお願い　六十三年度会費未納の方はお早目にお振込お願いします。お問合わせは事務局まで。

暑中お見舞い申しあげます

東鋼業㈱
㈶嘉悦学園
高周波熱錬㈱
㈱周東商会
次郎丸嘉介
㈱スチールセンター
杉尾榮俊
木村政次
黒田一
㈱西鋼
谷本鐵鋼㈱
村上益一
丸定産業㈱
宮崎精鋼㈱
三和鉄構建設㈱
中村是一
中條鋼材㈱
新潟鋼機㈱
飯田正雄
不動鋼板工業㈱
㈳機動隊員等を励ます会東北支部

読者の広場

俗語から見た女性の飛躍

木村政次

私共大正生まれは戦時中迄は封建的社会環境の中で育ち、多少の儒教思想の洗礼も受けたので、家庭社会両面に於ける男性優位は当然の事として何の疑問も抱かなかった。

女性は幼にして父母に、嫁しては夫に、老いては子に従う三従の教えは、女の美徳とされていた。今でもそう思うが……。

戦後占領軍の指導で女権が拡大され、アレヨアレヨという間に世の中大きく変革してきた。「戦後強くなったもの、靴下と女」その他変革への一里塚として「書きますわよ」からピンクヘルをかぶって「チンアツ」を叫んで廻った一団もあったが、それでも未だ男の牙城を揺るがす迄には至らなかった。

時代が進み日本の経済力も向上し、核家族化が浸透するにつれ、女性の発言力が一段と強くなり、その欲望もまた大きく膨らみ、しかも多様化して来た。「三食昼寝テレビ付き」から「家付カー付きババ抜き」へと、その欲の深さは無限に拡がってゆく。しかしこの迄はまあ我慢の範囲内で逆転する迄には至っていない。

日本の経済が更に飛躍し、堰を切った様に女性が社会進出するにつれ、その経済力もまた一段と充実し、家庭内での指導権は完全に女性に移り、家事は共同でと男性も育児料理を強要される様になってくると、今迄なかった色んなヒズミが新たな社会問題としてクローズアップしてくる。

「鍵っ子」から始まり「昼下りの情事」「不倫のすすめ」となり、遂には「亭主元気で留守がいい」となって離婚率も鰻上りとなる。

ここで朝星夕星働き蜂の亭主族、これ位で吃驚仰天していては「知らぬは亭主許りなり」で益々なめられる事必定、世の中は更に次の段階に向って暴走している。

色んな条件があって、日本はいまや世界第一の長寿国である。男七十歳台、女八十歳台との由。これを更に詳しく分析した結果、驚くべき事実が発見された、と去る五月某大新聞がその調査結果を発表している。それによると、六十歳台で夫と死別し、しかも可成りの遺産を相続して生活に何の不安もない女性は、平均九十歳台の長寿を満喫している。これに反し妻に先立たれた男性は、幾許もなく後を追う様にしてこの世を去っている。

男性たる者、家族扶養の義務を負わされ、将来の経済力、生活力向上の為、幼稚園から大学迄周囲から叱咤激励され遊ぶ暇もない。就職後は定年迄、女房殿より毎月定額の小遣いを小言と共に頂戴し、手弁当持参で酷使される。偶の休みには女房子供連合軍に気兼ねをし、定年後は粗大ゴミ扱いで短い一生を終えている。

キリギリスの様に男性を踏み台や栄養源として女性は益々強くなり、遂には次の様な不遜極りない決定打がささやかれる。曰く「亭主リッチで早死にがいい」。

物事は過ぎたるは及ばずで、ホドホドが大切と思うが……。

初心を忘れずに

愛媛県　加藤早苗

隊長様をはじめ機動隊の皆々様方には、お変りなく御壮健にて職務に御精励の事と存じます。

振り返れば、五年前、同級生の大半が地元の企業に就職する中で「俺は、警視庁の警察官を受験するから」と言って自分の意思を通し抜く息子の意思の固さに負けました。

親としては正直なところ、気儘育ちの苦労知らずのお前に果たして務まるのだろうか、人間関係がうまくゆくのであろうか、それが先に立って心配でたまりませんでした。

合格通知を受け取り「やった」と喜んだあの顔が今でも忘れられません。どうかあの時の嬉しい気持ち、警察学校で一年間学んだ事をしっかりと心に刻んで、東京の治安維持の為に、誠心誠意努力して欲しいばかりです。

未熟故に、上司の方々、先輩の方達に御迷惑をかけないように務めて下さい。父母からのお願いです。お前も職務が変り仕事に慣れる迄は、気苦労が多い事とは思いますが、呉々も体に気をつけて頑張って下さい。

最後に隊長様をはじめ、機動隊の皆々様方、誠に未熟な息子でございますが、何卒温かい御指導並びに御鞭撻賜りますようお願い致すと共に、皆々様方の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

（警視庁二機　加藤太巡査の父親）

六十有余年を振り返って

小野目実

人生にはやるべきことと、やりたいことがあります。その両方が満たされれば、すばらしい人生が送れることは間違いないでしょう。人はその為に悩み苦しみます。

そんな事を考えましたのも、今年の三月から四月にかけまして、四十日間程、胆管に石が詰まり、体の変調を来たし、入院しましたお陰であります。昭和十八年よりの会社生活のうち、このように長く入院した経験はございません。

今にして思えば、私の会社生活は常にやるべきことを追求し、私自身の出来る限りの力を振り絞り、会社への貢献に少しでも寄与できれば良いという毎日でありました。

幸いに会社の業績は拡大を辿り、此頃つづく、会社の先輩・同輩と共に、我々の力の結集により、会社発展へ貢献できたことを喜びたい心境になっております。

ただ、自分自身に立ち返りますと、会社においては、結果的にやるべきことと、やりたいことが両立できた面がありましたが、果して、自分自身のプライベートな面において、やりたいことができたかどうかは疑問であります。遮二無二働いた四十数年間でありますが、ふと、病院のベッドの上で目をつぶり、六十有余年、自分の納得できる人生であったかどうか振り返りますと感慨もひとしおです。

六十有余年の間、世の中の動きは目まぐるしく変貌致しました。今回の入院に際しましても、多数の皆様の見舞いを受け、ことさら一人で生きてきたのではないのだという感を深めるばかりでした。

前回の寄稿におきましても、人との出会いについて述べさせていただきましたが、人生において数々の人との出会いがあったればこそ、私の人生や仕事において、私自身のやるべきこと、やりたいことが成し遂げられたと考えております。

幸いに、多くの医師の助力を得まして、病気に打ち勝ち、全快いたした訳ですが、人生の中で何度目かの節目として、冷静に、私自身を振り返り観察できたことに一つの満足感さえ覚え、感謝の念が溢れるのを感じました。

これを契機に、これからの人生に何かをチャレンジする勇気と意欲が湧いてくるのを感じておりますが、肉体の続く限り人生を道場として、より気合をいれて、自分の人生においてより納得のいける毎日を送れるよう、より精進する所存であります。

九ヶ月前に、関連会社の専任社長として、業績向上・生産性の向上・労働環境の改善等数々の課題に向って意欲を燃やしている今日此頃であります。

機動隊の皆様方におかれましても、自己の信念をあくまでも追求され、より良い世の中作りに励んでいただいておりますが、私のつたない経験がご参考になれば幸いと考えます。

訓練に励む

△警視庁機動隊　治安警備合同訓練

▽富山県警察機動隊　水難救助訓練

▷埼玉県警察機動隊　遊撃部隊活動要領